



神奈川県

KANAGAWA

高等学校における 「教科でのキャリア教育」 推進のためのガイドブック



平成19年3月

神奈川県立総合教育センター

はじめに

今日の社会や経済、若者の状況から「キャリア教育」の必要性が高まる中、国は「キャリア教育の推進に関する総合的調査協力者会議報告書」(平成16年1月)や、普通科高校でのキャリア教育の参考とするための「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査協力者会議報告書～普通科におけるキャリア教育の推進～」(平成18年11月)などにより、その考え方等を示しています。

神奈川県立総合教育センターでは、キャリア教育に関する研究を継続的に行い、その成果としてキャリア教育の定義、意義、教育計画の立案、指導体制、小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育カリキュラムの例示など、キャリア教育全般にわたって紹介した『キャリア教育推進ハンドブック』を平成17年3月に発行しました。

キャリア教育は、学校におけるすべての教育活動を通して行われるものであり、『キャリア教育推進ハンドブック』においても、総合的な学習の時間や特別活動、各教科・科目などにおけるキャリア教育の考え方の整理や、学習活動の例示等を行っています。そして今回は、特に教科・科目の内容を充実するため、高等学校の国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語(英語)の各教科におけるキャリア教育をテーマとした実践的な研究を行い、その成果をまとめて本冊子『高等学校における「教科でのキャリア教育」推進のためのガイドブック』を作成しました。また、今回は6教科を対象として研究を行いました。教科でのキャリア教育についての基本的な考え方はすべての教科に共通するものですので、他の教科におきましても本冊子を参考に教科でのキャリア教育にお取り組みください。

キャリア教育は、キャリア諸能力を育成するとともに、自ら学び考える力を育成するものであり、様々な力を総合化した生きる力を育成する教育活動の一つと位置付けられるものです。また、キャリア教育は、学校の教育活動において単独で行われるものではなく、授業の改善、目標に準拠した評価・観点別評価の実施など学校が求められている様々な取組と相互に関連する教育活動ととらえることができます。そして、これらの取組に当たっては、学校としての組織的な対応が求められています。

本冊子を教科でのキャリア教育についての研究・実践にお役立ていただくとともに、『キャリア教育推進ハンドブック』と併せて、学校全体の組織的なキャリア教育の推進、教育活動の改善に御活用ください。

平成19年3月

神奈川県立総合教育センター

所長 田邊克彦

目次

1	本書の概要・本書の構成と学校での活用方法	1
2	高等学校におけるキャリア教育の基本的な考え方	4
3	高等学校の各教科におけるキャリア教育の考え方	9
4	各教科の各単元におけるキャリア教育の展開例	15
	(1) 国語	
	(2) 地理歴史	
	(3) 公民	
	(4) 数学	
	(5) 理科	
	(6) 外国語(英語)	
5	各教科におけるキャリア教育の授業実践例	35
	(1) 国語	
	(2) 地理歴史	
	(3) 公民	
	(4) 数学	
	(5) 理科	
	(6) 外国語(英語)	
6	授業方法の工夫とキャリア教育	107
7	キャリア教育Q&A	110

1 本書の概要・本書の構成と学校での活用方法

(1) 本書の概要

神奈川県立総合教育センターでは、キャリア教育についての研究を進め、その成果として、平成17年3月に『キャリア教育推進ハンドブック』(以下「ハンドブック」という。)を発行した。ハンドブックでは、キャリア教育の考え方などを示し、キャリア教育を実施する具体的な教育活動として、総合的な学習の時間、特別活動、教科・科目などを取り上げた。

そして、今回は、高等学校における教科でのキャリア教育の推進を目指して、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語(英語)の各教科について10名の調査研究協力員と共に、授業実践を含めた研究活動を行い、その成果を本書『高等学校における「教科でのキャリア教育」推進のためのガイドブック』にまとめたものである。

本書を作成するに当たり、次の3点に着目した。

教科でのキャリア教育は、どのような学習内容になるか。

教科でのキャリア教育の学習内容と学習指導要領との関係をどのように整理するか。

目標に準拠した評価・観点別評価の実施、評価規準との関係はどのようにするか。

これらの点について、本書では次のとおり整理した。

教科でのキャリア教育で扱う内容は、直接、職業や労働について学ぶものだけでなく、自己の在り方や生き方、学習している内容と社会や職業との関係についての考察や理解、話し合いや発表によるコミュニケーション能力の育成など様々なものがある。

教科でのキャリア教育も学習指導要領を踏まえて行うものであり、教科でのキャリア教育の目標・ねらいを明確にした上で、適切な学習場面における学習活動によりキャリア諸能力を育成するものである。

キャリア教育は学習指導要領に基づいた学習活動であることから、この学習活動に対するキャリア諸能力を身に付けることを踏まえた評価規準を設定し、目標に準拠した評価・観点別評価を行うものである。

こうした点についての詳しい考え方や学習内容などは、後述する。

また、教科でのキャリア教育の授業実践を行う中で、次の5点が明らかとなった。

様々な学習活動を通してキャリア諸能力を育成することができる。
学習の動機付けが行われ、生徒の学習意欲が向上する。
生徒が主体的に取り組む学習活動が行われるなど授業の改善が行われる。
多様な学習活動を行うことで目標に準拠した評価・観点別評価が容易になる。
授業の幅が広がり、教員の授業に対する新たな視点が生まれる。

各教科・科目ごとの授業実践に関する成果と課題は、「5 各教科におけるキャリア教育の授業実践例」の中に記載している。

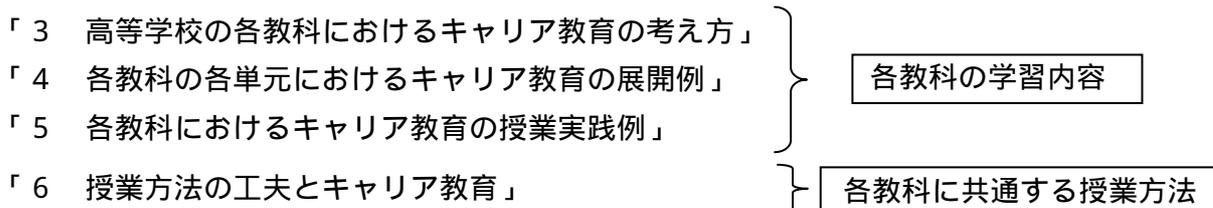
(2) 本書の構成と学校での活用方法

各学校のカリキュラムは、地域や生徒等の状況などを踏まえて各学校が定めるものである。そこで、本書では、「2 高等学校におけるキャリア教育の基本的な考え方」のあと、各学校が独自に学習計画を作成する際の参考となるように、

- 「3 高等学校の各教科におけるキャリア教育の考え方」
- 「4 各教科の各単元におけるキャリア教育の展開例」
- 「5 各教科におけるキャリア教育の授業実践例」
- 「6 授業方法の工夫とキャリア教育」

を示した。

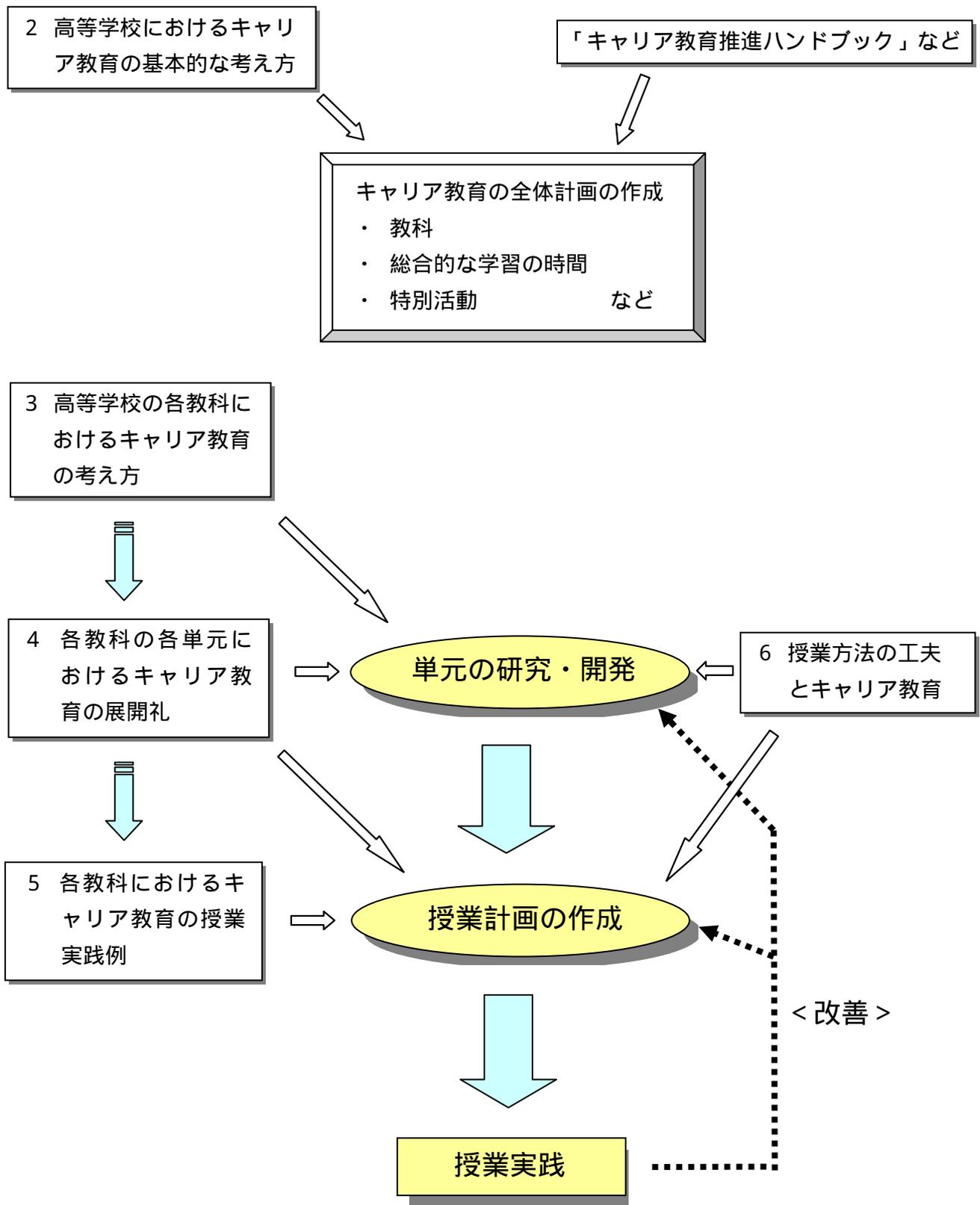
また、教科でのキャリア教育は、教科でどのような内容をどのように取り扱うかという学習内容によるものと、グループワークや調べ学習のように、各教科に共通する授業方法によるものがあると考え、主に次のようにまとめた。



また、教科でのキャリア教育の考え方などを整理する形で「7 キャリア教育Q & A」を作成した。

本書で扱う6教科以外でも、教科におけるキャリア教育の基本的な考え方は共通するものなので、どの教科においても「3 高等学校の各教科におけるキャリア教育の考え方」、「4 各教科の各単元におけるキャリア教育の展開例」、「6 授業方法の工夫とキャリア教育」などを参考にそれぞれの教科におけるキャリア教育の展開に取り組むことができる。

< 本書の学校での活用 >



2 高等学校におけるキャリア教育の基本的な考え方

キャリア教育全般については、これまでハンドブックや平成16年1月28日に文部科学省から出された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」(以下「協力者会議報告書」という。)にまとめられている。基本的な考え方などは次のとおりである。

(1) キャリア教育が求められる背景

キャリア教育の定義やキャリア教育が求められる背景は、その時代や社会状況などにより変化していくものである。キャリア教育が求められる背景として、協力者会議報告書(p.3)では、次のア、イの課題を挙げている。

ア 学校から社会への移行をめぐる様々な課題

経済のグローバル化が進展し、コスト削減や経営の合理化が進む中、雇用形態等も変化し、求人の著しい減少、求職と求人の不適合が拡大している。

若者の勤労観、職業観の未熟さ、職業人としての基礎的資質・能力の低下等が指摘されている。

イ 子どもたちの生活・意識の変容

精神的・社会的自立が遅れ、人間関係を築くことができない、進路を選ぼうとしないなどの子どもたちが増えつつあることが指摘されている。

高等教育機関への進学割合の上昇等に伴い、いわゆるモラトリアム傾向が強くなり、進学も就職もしようとしなかったり、進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学したりする若者の増加が指摘されている。

また、平成18年11月に文部科学省から出された「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議報告書～普通科におけるキャリア教育の推進～」(p.5)では、普通科におけるキャリア教育の必要性について次のように指摘している。

「普通科にあっては、学校間の接続、すなわち上級学校への進学に係る指導に偏り、上級学校進学希望者以外の生徒に係る指導、すなわち学校と社会との接続に係る指導が必ずしも十分でないことをうかがわせる。普通科にあっても、生徒が進学希望であるか就職希望であるかを問わず、将来の生き方にかかわる問題として、生徒が将来への夢や希望をはぐくみ、その実現に努力する指導・援助として、キャリア教育に取り組むことが大切なのである。」

この指摘の後半は、普通科に限らず、すでに取組は行われているが、専門学科、総合学科の高等学校にも通ずるものである。

(2) 「キャリア」とは

「キャリア」という言葉は、様々な場面で使われていて、その場面ごとに異なる意味合いを含んでいる。協力者会議報告書(p.7)では、「キャリア」を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」としている。この内容をいくつかの要素に分けながら表現すると、

個々人と社会との様々な関わりとその積み重ね

社会における自己の在り方生き方

などの総体、とすることができる。

そして、このキャリアの内容から、キャリアは個々人の社会生活の経過とともに変化・推移・発達していくものと考えることができる。

(3) 「キャリア教育」とは

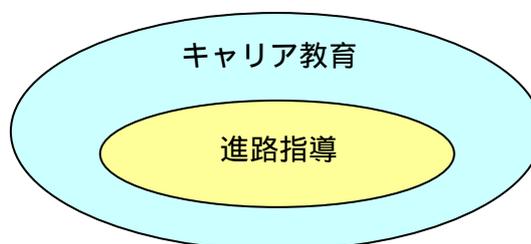
キャリア教育の定義について、協力者会議報告書(p.7)では、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育」としている。これを「キャリア」と「キャリア発達」の考えを踏まえて整理すると、キャリア教育は、

「自己の在り方生き方について考えさせ、それぞれにふさわしい在り方生き方を
実現させるために必要な意欲や態度、諸能力を身に付けさせる教育」

とすることができる。キャリア教育においては、生徒の現状だけでなくその将来を見据えた、「キャリア発達」を意識した指導が必要である。

(4) キャリア教育と進路指導

「進路指導は、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けることができるよう、指導・助言すること」(協力者会議報告書 p.14)であり、その定義・概念から「進路指導の取組はキャリア教育の中核をなす」(協力者会議報告書 p.14)とすることができる。そして、現在の社会や若者の状況から、この進路決定のための指導を含めた、それぞれの生徒のキャリア発達を意識し、生徒に必要な様々な能力を育成するキャリア教育が求められている。



(5) キャリア教育で生徒が身に付ける力・諸能力

キャリア教育により生徒が身に付けることが期待される能力・態度については、「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)」(国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成14年11月)の中の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」において4領域8能力を示しており、また、ハンドブックでは5領域10能力を示している。これらはいくまでも例であり、キャリア教育を通して生徒が身に付ける諸能力は、学校や地域、生徒等の状況を十分に踏まえ、各学校が適切に設定するものである。

本書では、生徒の発達段階や、生徒の自我の確立、自己と他者との関係性などを考慮して、自己と他者にかかわる能力を「自己教育能力」と「人間関係能力」の二つの領域と四つの能力に整理している、ハンドブックの5領域10能力を生徒が身に付ける諸能力とする。(表1参照)

(6) キャリア教育を実施する学習の場面と学習活動・内容

協力者会議報告書(p.10)には「キャリア発達には、児童生徒が行うすべての学習活動等が影響するため、キャリア教育は、学校のすべての教育活動を通して推進されなければならない。」とあり、さらに「学習指導要領におけるキャリア教育に関連する事項は相当数に上る。」とある。

キャリア教育を実施する学習の場面は、総合的な学習の時間、特別活動、各教科・科目などが考えられる。学習場面ごとのキャリア教育に関する学習活動、学習活動の目標を学習指導要領から挙げると例えば次のとおりである。

ア 総合的な学習の時間における学習活動

生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動

自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動

イ 特別活動におけるホームルーム活動

学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること

学ぶことの意義の理解、主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用、教科・科目の適切な選択、進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の確立、主体的な進路の選択決定と将来設計など

ウ 各教科・科目の目標

適切に表現し、的確に理解する能力や、伝え合う力・コミュニケーション能力を養う。

現代の社会について主体的に考察し、理解を深め、人間としての在り方生き方についての自覚を育てる。

社会生活において自己の果たしている役割を理解し、興味・関心を高める。

(7) キャリア教育の全体計画の作成

キャリア教育を単なるいくつかの学習プログラムの集まりとすると、様々な学習活動を行ったにもかかわらず、身に付いた力が明らかにならない、いわゆる「活動あって学びなし」の状態になってしまう。キャリア教育の実施に当たっては、学校としてのねらい・目標、生徒に身に付けさせる力、実施する学習活動、実施時期などを定めた入学から卒業までの全体計画を作成する必要がある。また、全体計画とは別に個々の学習活動の計画も必要となる。全体計画、個々の学習活動の計画の作成例はハンドブックなどを参照されたい。



(表1)

キャリア発達にかかわる諸能力(キャリア諸能力)(ハンドブック p.13 より)

5領域		領域説明	10能力		能力説明
1	自己教育能力	自己分析と自己理解によって内的な深化を図るとともに、適切な自己表現を通して自己を教育し、成長させていく	自己理解能力		自己の適性に目を向けながら、自己分析と自己理解を通して内的な深化を図る能力
			自己表現能力		適切な自己表現を通して自己実現を図る能力
2	人間関係能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む	他者理解能力		他者の多様な個性を理解し互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
			コミュニケーション能力		多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
3	情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択にいかす	情報収集・活用能力		進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
			職業理解能力		様々な体験等への取組を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力
4	将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	役割把握・認識能力		生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
			計画実行能力		目標とすべき自己の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の行動等で実行していく能力
5	意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	選択・決定能力		様々な場面で主体的に考えた上で自らにふさわしい選択・決定をし、その結果を責任を持って受け入れ、適応・対処できる能力
			課題解決能力		希望する進路の実現に向けて自ら課題を設定し、問題や葛藤を克服しながらその解決に取り組む能力

3 高等学校の各教科におけるキャリア教育の考え方

(1) 基本的な位置付け

キャリア教育はすべての教育活動において行われるものであるが、教科との関係についてハンドブックでは、

「キャリア教育は、教科などと同列に新たな教育活動の領域として位置付けられるものではなく、これまでの学校教育で取り組んできた学習や活動を、キャリア教育の観点でとらえ直し、関係する教科等領域でのねらいとキャリア教育でのねらいと対照・複合させて実践するものである。」(ハンドブック p.18)

としている。

また、教科の学習は学習指導要領に基づき行われるものであり、協力者会議報告書(p.10)に「学習指導要領におけるキャリア教育に関連する事項は相当数に上る。」とあることから、教科でのキャリア教育は、

「キャリア教育のねらい・目標を明確にし、学習指導要領を踏まえた教科の学習活動の中で行うキャリア諸能力を育成する教育活動」

とすることができる。

また、キャリア教育と教科の関係についてハンドブックではさらに、

「キャリア教育の主旨は、児童・生徒のキャリア形成能力を育成することである。同時に、教科の基礎学力も将来の職業選択と職業遂行にとって必要不可欠な要素である。したがって、キャリア教育は、教科の基礎学力の向上をともなってはじめて実効性を持つ(後略)」(ハンドブック p.28)

としている。このことは、教科の基礎学力の向上が、将来の職業選択や職業遂行を実現するための重要な要素となることを述べている。そして、学習活動を進めるに当たっては、教科でのキャリア教育による諸能力の向上と基礎学力の向上のそれぞれに留意し、またこれらの関連やバランスにも十分配慮することが必要になる。さらに、キャリア教育の全体像を意識し、総合的な学習の時間や特別活動などの教育活動とも関連付け総合化することが求められる。

教科におけるキャリア教育は、各教科のキャリア教育に適した学習項目・内容によりキャリア諸能力を育成する場合と、調べ学習・グループ学習などの学習活動の進め方によりキャリア諸能力を育成する場合とが考えられる。

本書では、このあと各教科のキャリア教育に適した学習項目・内容に関することを中心に述べ、「6 授業方法の工夫とキャリア教育」において、学習活動の進め方について述べる。

(2) キャリア教育を踏まえた教科での学習活動とその例

「2 高等学校におけるキャリア教育の基本的な考え方」を踏まえ、各教科で行われるキャリア教育の学習活動を次の4点に整理した。

- ア 学習指導要領に示されている、労働や職業、生き方などを直接扱う学習活動
- イ 働くことや自己の在り方生き方に関する教材や内容を扱う学習活動
- ウ 学校での学習内容と職業及び社会との関係について理解を深める学習活動
- エ キャリアに関する生徒の技能・能力の向上をもたらす学習活動

ア～エの学習活動について、「学習活動の内容」、「身に付ける能力」などを例として次に示す。諸能力はハンドブックに記載した10能力の名称で示している。ハンドブックの10能力は、主に進路や職業に関する能力として整理されているが、ここでは関係する教科での学習活動に当てはめながらそれぞれの能力を示している。学習活動のねらいや取り組み方により、身に付ける能力は異なるものになる。学校が扱う内容は、学校の状況、学習のねらい、目標などにより決定されるものである。

以下(2)と次の(3)において、身に付ける諸能力について各教科で10能力のすべては示されていないが、これらはいくまで例示であり、学習内容や学習のねらいにより記載されていない能力の育成が可能になることが考えられる。また、教科でのキャリア教育だけで10能力がすべて育成できるとは限らない。キャリア教育はすべての教育活動を通して行われるものであり、学校は計画的な教育活動を通してバランスよく必要な諸能力を育成するよう努めるものである。

ア 学習指導要領に示されている、労働や職業、生き方などを直接扱う学習活動の例

学習活動の内容	教科名	身に付ける諸能力
労働や職業に関する学習	公民	【情報収集・活用能力】 【役割把握・認識能力】

イ 働くことや自己の在り方生き方に関する教材や内容を扱う学習活動の例

学習活動の内容	教科名	身に付ける諸能力
「働くこと」、「生き方」、「人生」に関する教材を用いた学習活動	国語	【自己理解能力】
自己の在り方生き方をテーマとしたスピーチ	外国語(英語)	【情報収集・活用能力】 【自己表現能力】

ウ 学校での学習内容と職業及び社会との関係について理解を深める学習活動の例

学習活動の内容	教科名	身に付ける諸能力
実社会での活用・応用や職業との関係についての理解を深める学習活動	数学、理科	【職業理解能力】

エ キャリアに関する生徒の技能・能力の向上をもたらす学習活動の例

学習活動の内容	教科名	身に付ける諸能力
話し合いや発表を伴う学習活動	国語、公民	【他者理解能力】 【コミュニケーション能力】
調べ学習、実験・作業等を伴う学習活動	数学、理科、 地理歴史	【情報収集・活用能力】 【計画実行能力】

(3) 教科ごとのキャリア教育の考え方

教科ごとのキャリア教育の考え方、学習内容や身に付ける諸能力を一例として次のようにまとめた。学習内容や身に付ける諸能力は、各学校がそれぞれの学校の状況に応じて工夫し設定するものである。

ア 国語

生徒が主体的に読み取る力、書く力、聞く力、話す力、考える力を身に付けさせることがキャリア発達に係る諸能力の育成に密接に関係する。教材の特性や活動に応じて次のような学習内容や身に付ける諸能力が考えられる。

教材・活動の種類	学習の内容	身に付ける諸能力
小説、評論	様々な観点から多面的な読み方を試みる。	【情報収集・活用能力】 【他者理解能力】
韻文	鑑賞とともに、創作や創作作品の発表を行う。	【自己表現能力】 【コミュニケーション能力】
表現	情報の分析や発表等を行う。	【情報収集・活用能力】 【課題解決能力】
古典	古人の問題を自分の問題に置き換えて表現する。	【自己理解能力】 【自己表現能力】
	古人の生き方と自分の生き方を比較する。	【役割把握・認識能力】 【計画実行能力】

イ 地理歴史

世界諸地域の異なる生活・文化の地理的な考察、社会状況と労働や産業との歴史的な関連などの理解や現在の社会状況との対比などを通して、働くことや職業に対する理解を深めることができる。また、現代社会に対する状況分析や、社会状況の変化の過程や原因などについての理解を深めることで考える力や判断する力を育成することができる。

学習の内容	身に付ける諸能力
現代世界における地球的課題についての理解と考察を深める。	【職業理解能力】 【役割把握・認識能力】
現代世界の資源や産業について系統地理的にとらえ、その理解と考察を深める。	【職業理解能力】 【情報収集・活用能力】
歴史で扱う過去の社会状況と労働や産業に関する理解を深めるとともに、現代社会と対比しその関連について考える。	【職業理解能力】
絵図、写真、グラフ、表などを読み取り、分析することで社会状況などに対する理解を深める。	【情報収集・活用能力】

ウ 公民

現代社会について多様な角度から考察することで理解を深め、自己や人間としての在り方や生き方について考え、また、現代の経済社会の状況・しくみについて学ぶことで労働や職業、働くことについて理解を深める。

学習の内容	身に付ける諸能力
現代社会について多様な角度から理解を深め、青年期の意義、経済活動の在り方などについて自己とのかかわりに着目して考察する。	【自己理解能力】 【職業理解能力】
企業や金融機関の働き、雇用と労働問題について理解し、個人と企業の経済活動における社会的責任について考える。	【役割把握・認識能力】 【課題解決能力】

エ 数学

数学と社会との関連について触れ、数学の社会での活用の状況、数学を利用・活用することで成り立つ職業について理解することで、キャリア諸能力を身に付けさせることができる。

学習の内容	身に付ける諸能力
数学が社会や生活の中で活用される場面について理解する。	【役割把握・認識能力】
数学を利用・活用することで成り立つ職業について理解する。	【情報収集・活用能力】 【職業理解能力】
生徒による問題の作成やグループ学習により生徒の主体的な活動・考察を促す。	【計画実行能力】 【選択・決定能力】 【課題解決能力】

オ 理科

自然の事物についての理解と科学的な自然観を身に付ける学習過程を通して、人間の存在や自己の在り方についての考察を深めることができる。また、学習内容と産業や技術とのつながりが強いことも含め、多くの単元においてキャリア教育の視点で学習することができる。例えば「探究活動」における観察・実験操作、データの記録や処理・結果の予想や推論・仮説の検証・成果の発表など、自然を探究する過程で用いられる技法や考察も、キャリア諸能力の育成に結びつけることができる。

生徒の活動	学習の内容	身に付ける諸能力
自然の理解	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を身に付け、人間の存在や自己の在り方について深化を図る。	【自己理解能力】
観察・実験	仮説の設定と検証、観察・実験方法の工夫・改善等を通して、自然に対する関心や探求心を高め、課題解決に必要な諸能力の向上を図る。	【計画実行能力】 【選択・決定能力】 【課題解決能力】
科学技術の理解 体験活動	身近にある工業製品の原理の学習や工場見学等の体験活動を通して、人間生活と科学とのかかわりを考え、産業や職業についての理解を深める。	【職業理解能力】
グループ活動 校外活動	グループ実験における仲間との協力や役割分担、校外における調査活動による地域や企業との交流を行うことで、コミュニケーション能力を高める。	【自己表現能力】 【他者理解能力】 【役割把握・認識能力】 【コミュニケーション能力】
調べ学習 調査活動	書籍やインターネット等を活用して、データを収集したり、科学の原理、産業への応用などについて調べたりする。	【情報収集・活用能力】

カ 外国語（英語）

外国語(英語)におけるキャリア教育として、コミュニケーション能力の育成が考えられる。学習指導要領の教科の目標から、育成すべきコミュニケーション能力は、単に英語を話すだけでなく、「相手の立場に立って考えること」、「相手の言っている内容を適切に理解するように努めること」、「自分の考えをきちんと整理し発言すること」、「相手にとってわかりやすい言葉で話すこと」などである。また、英語の教材により、自己の在り方や生き方、職業や働くことなどについて考えることも可能である。

学習活動	学習の内容	身に付ける諸能力
聞く・話す	聞く・話すという学習活動の教材を利用して、聞く、話す、発表する、話し合うなどの活動を行い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	【コミュニケーション能力】
読む・聞く・書く・話す	環境、歴史、人権、比較文化、科学などの教材において英文の理解に加え、教材が扱うテーマについて考察して内容を把握し、表現する。	【情報収集・活用能力】 【職業理解能力】 【自己表現能力】



4 各教科の各単元におけるキャリア教育の展開例

「3 高等学校の各教科におけるキャリア教育の考え方」をもとに、各教科の具体的な単元におけるキャリア教育の展開について、教科ごとに例示する。各学校は、生徒や学校の状況などを踏まえ、ここに記載する展開事例をもとに新たな授業計画を作成するとともに、キャリア教育に係る新たな単元の開発にも取り組むものである。なお、単元の時間数も一つの例であり、単元の取扱い方によりその数は増減する。

(1) 国語

ア 国語表現

単元名 (時間数)	学習 内容	キャリア教育に 係る学習活動	キャリア教育の視点での 生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
自己との対 話 (6時間)	自分史 の作成	「自分史」と「世の中 の動き」を対照させた年 譜作りをもとに、「自分」 を主題にした文章を書 く。	【自己理解能力】 【自己表現能力】 自分史を書くという学習活 動を通して、自己の適性に目 を向けながら自己分析と自己 理解を深める力を育成する。	年表などの資料を活用さ せることにより、自分と社 会のつながりを考えさせ る。思い出の品などの材料 収集等をさせることによ り、興味・関心を高める。
ことば遊び と創作 (4時間)	広告コ ピーの 作成	新聞の広告コピーが、 何をどのようにして伝 えようとしているかを 考察し、これを参考にし て自分という存在を紹 介するための広告コピ ーを作成する。	【情報収集・活用能力】 【自己表現能力】 広告コピーの収集、作成と いう学習活動を通して、必要 な情報を探索・収集する力や 適切な自己表現能力を育成す る。	新聞の広告コピーについ ての考察を行ってから、自 分の広告コピー作成につい ては、「だれに」、「なにを」 、「どう思ってもらいた いか」という視点を明確にし て作品を創作させる。
メディアリ テラシー (4時間)	新聞記 事の読 み比べ	複数の社の新聞記事 を比較して、各社の報道 の姿勢やその意図の違 いについて考察し発表 する。	【情報収集・活用能力】 【課題解決能力】 複数の社の新聞記事を比 較・考察するという学習活動 を通して、情報の中から課題を 発見し解決する力を育成する。	事前に見出しの違い、写 真の扱いの違い、記事の内 容の違い等を指摘させる。 その後、なぜその違いが生 じているのかを考えさせ る。
会話・会議・ 発表 (6時間)	グルー ププレ ゼンテ ーショ ン	グループに分かれ、最 近よく耳にする身近な 外来語をいくつか選ん で簡単な調査をし、その 結果をグループプレゼ ンテーションに構成し て発表する。	【コミュニケーション能力】 【他者理解能力】 共同でプレゼンテーショ ンを行うという学習活動を通 して、人間関係を築きながら ものごとに取り組む力を育成 する。	グループごとに最近の外 来語について、意味が分か る語と分からない語につ いて生徒や教員にアンケート をとる。アンケートの結果 から分かったことや考えた ことについてプレゼンテー ションを行う。

(参考教科書) 教育出版「国語表現 改訂版」

イ 国語総合

単元名 (時間数)	学習 内容	キャリア教育に 係る学習活動	キャリア教育の視点での 生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
小説 (4時間)	「羅生門」 のパロディ 創作	「羅生門」を老 婆の視点からと らえた物語とし てパロディ創作 をする。	【自己理解能力】 【自己表現能力】 【他者理解能力】 パロディ創作という学習活動 を通して、多面的にものを考える 力を育成する。	事前に老婆の心理を想像 するワークシートを作成す る。創作に当たっては、文 体を模倣させる。一場面だ けを創作させてもよい。
近代の韻文 - 短歌 - (4時間) [授業実践例 参照]	短歌の共 同作成	石川啄木の短 歌について、一部 を活用しながら、 グループに分か れ共同で短歌を 作成する。	【コミュニケーション能力】 【自己理解能力】 【自己表現能力】 共同で短歌を作成するという 学習活動を通して、他者とコミュ ニケーションを図りながらもの ごとに取り組む力を育成する。	事前に石川啄木の歌につ いて絵や文章をかかせる。 共同制作に当たっては5人 一組などのグループに分け て互いに話し合いをさせな がら作成させる。
古文 (4時間)	伊勢物語 「さらぬ 別れ」に関 する作文	伊勢物語「さら ぬ別れ」を読み、 自分の「避けるこ とのできない別 れ」について作文 を書く。	【自己理解能力】 【自己表現能力】 古人の問題を自分の身近な問 題としてとらえて表現し、自己を よりよく理解する力を育成する。	特に親子関係に限定せ ず、友達との別れや、その 時の思いを表現することによ り、古典の世界の普遍的 な内容について理解させ る。
漢文 (6時間)	「論語の ことば」と の比較	論語「為政編」 を読み、自分が十 五、三十、四十歳 等になったとき の社会での自己 の在り方や生き 方等と比較させ る。	【役割把握・認識能力】 【計画実行能力】 古人の生き方を自己の生き方 と比較することを通して、将来の 社会で自分が果たすべき役割等 について認識させる。	孔子の十五、三十、四十 歳等の生き方を参考にし て、自分の将来やその社会 について考えさせ、その内 容を漢字で表現させる。必 ずしも漢字でなくてもよ い。論語の年齢にはとらわ れなくてもよい。

(参考教科書) 三省堂「新編 国語総合」

ウ 現代文

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
「夢を建てる人々」 (3時間)	宮大工という職業を通して、生きることについて考える。 生き生きとした文章表現を身に付ける。	五重塔を伝統的工法により新築した宮大工の姿とさらに夢を積み重ねていく姿から仕事とは何であるのか、何が得られるのかを考える。	【職業理解能力】 宮大工という職業から生きること考える学習活動を通して、職業・勤労に対する理解・認識を深める力を育成する。	自分の将来の夢と向かい合わせながら、その夢を実現する過程を表現することに結びつけた指導を行う。
「働くということ」 (3時間)	自己の体験を一般論として展開していく方法を学ぶ。 自分の考えを書くことによって整理する。	他者との協力が必要な労働を通して、目的を完遂したときの充実感について考える。	【コミュニケーション能力】 自己の体験を他者に伝える方法を学ぶことを通して、多様な他者とのコミュニケーションを図る力を育成する。	仕事を通して、社会に貢献するためには、どのような資質が必要とされるのかについて考えさせる。
「スペシャリストになりたまえ」 (2時間)	筆者の主張を読み取り、その内容を書くことにより整理する。 自分の意見を述べ、他人の意見をよく聞く。	自分の個性を知り、自分の才能を開発することの大切さについて考える。	【自己理解能力】 自分の個性・才能を伸ばすことの大切さを学ぶことを通して、自己をよりよく理解する力を育成する。	筆者の主張に対して自分の意見をはっきりと持てるように指導する。
「鉄を削る」 (3時間)	本文の読解を通して社会で求められる高い専門性について理解する。 事実の背景にあることがらを理解する。	もの作りの現場における高い専門性と苦勞を知ることを通して仕事の中で培われる知恵や工夫について考える。	【計画実行能力】 現実の仕事について学ぶことを通して、自分の将来を設計し進路を計画する力を育成する。	この教材をきっかけとして自分の将来について考えることができるように指導する。

(参考教科書) 大修館書店「新編 現代文」

エ 古典講読

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
「能をつかんとする人」～徒然草 (2時間)	筆者は芸道修行のためには、どうしたらよいと述べているのかを正しく把握する。	古文で取り上げられている「能」を技能や仕事をこなし能力としてとらえて、自分の問題として考える。	【計画実行能力】 自分の持っている能力を高めるために必要なことについて学ぶことで、自己の成長を果たしていく力を育成する。	この段の芸能論は今日にも通じるものであることを理解させる。
「ある者、子を法師になして」～徒然草 (2時間) [授業実践例参照]	筆者の人間観と提言について考える。 自分の将来設計について考える。	自分の将来の希望を実現するために大切な態度について考える。	【計画実行能力】 古人の人間観・提言について考えることを通して、将来を設計し、進路を計画する力を育成する。	教科書に採録されている部分以降も併せて学習し、筆者の提言をさらに理解できるようにする。
「フルヘツヘンド」～蘭東事始 (3時間)	医学発展のために外国の医学書を自力で翻訳した先人の苦勞から人間の生き方を学ぶ。	困難な状況の中でもあきらめずに生きていくために必要なことについて考える。	【課題解決能力】 初めて外国の医学書を翻訳した先人の姿を学ぶことで、様々な困難を克服する力を育成する。	本文の前の部分や現代の作家の言葉などを引用しながら先人の苦勞を理解できるようにする。
「管鮑之交」～十八史略 (2時間)	史伝の持つ生き生きとした人間像を読みとり、真の友情とは何かを考える。	他者の個性を理解し、お互いに認め合うことで友情をはぐくむことについて考える。	【他者理解能力】 真の友情の姿を学ぶことを通して、他者の価値観や個性を理解し行動する力を育成する。	登場人物の間の友情を身近な人間関係の問題として考えさせる。

(参考教科書) 右文書院「新古典講読」

(2) 地理歴史

ア 世界史B

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に 係る学習活動	キャリア教育の視点での 生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
アジア・アメリカの古代文明 (7時間)	インドの古代文明	アーリア人の社会をヴァルナ制とカースト制から理解し、身分と職業についての考察を深める。現在のインドの状況についても学習する。	【他者理解能力】 アーリア人を中心としたインドの社会、特に身分と職業との関係性や歴史を考察することによって異文化を理解する能力を育成する。	悠久の中で生きる人々の生活をイメージしながら、カースト制について考え、現在のインドの状況とインドの若者の学習意欲の高さをとらえさせる。
内陸アジア 世界の変遷 (3時間)	遊牧民とオアシス民の活動	遊牧民の生活を扱う際にその特色と家畜との関係から理解を深める。市場(導入にビデオ使用)とパン売りを仕事とする少年の資料から、オアシス都市の理解を深める。	【他者理解能力】 遊牧民の生活を農耕民と比較させながらその差異と特徴を認識することにより、他者理解能力の育成を図る。	人間と家畜との親密な関係と遊牧民の土地に対する考え方、パン売りの少年の苦労や夢などについて生徒が興味・関心を持つように教材を工夫する。
イスラーム 世界の形成 と発展 (7時間)	イスラーム文明の発展	宗教に根ざしたイスラーム教徒の生活を取り上げ、特色と特徴について理解する。また、イスラームの人々の職業観や勤労観について考察する。 [外部講師の活用] 生徒は自ら日本で生活しているイスラーム教徒(外部講師)への質問を考え、異文化理解を目的とした交流を行う。	【他者理解能力】 イスラーム教の人間観・世界観・宗教観に触れ、大きな勢力となってきた理由を考察することで、異なる宗教世界を理解する力を養う。 【自己表現能力】 【コミュニケーション能力】 外部講師に対する質問を考え、生徒間での意見交換を図ることにより、自己表現能力やコミュニケーション能力の育成を図る。講師によるイスラーム教を柱とする社会の話(返答)を通して他者理解能力の育成を図る。	導入にイスラームの人々の生活を映したビデオを使用し、興味・関心を喚起させる。 私たちの日常生活とあまり縁が深くないイスラーム社会を理解するため、日本で生活しているイスラーム教徒(外部講師)との質疑応答を活発に進める工夫をする。

<p>ヨーロッパ世界の形成と発展 (10時間)</p>	<p>西ヨーロッパ世界の成立・中世の文化</p>	<p>商業の復活や中世都市の自治を学ぶ際に貨幣経済や商業圏、ハンザ同盟、ギルド、徒弟制度、農民の生活、ソーセージの登場、中世の様々な職業について調べ学習を行う。 ヴァイキングの人々の分かち合いの文化についても考える。</p>	<p>【情報収集・活用能力】 【職業理解能力】 【コミュニケーション能力】 【他者理解の能力】 【役割把握・認識能力】</p> <p>仲間とともに中世の様々な職業を調べる学習を通して情報収集・活用能力や職業理解能力、コミュニケーション能力を育成し、過去と現在の商人や職人の活動を通して、他者理解能力や役割把握・認識能力の育成を図る。</p>	<p>貨幣経済の仕組みや貯蓄の意義、1年間の農民の生活、厳しい徒弟制度と高度な技術を持つ職人のすばらしさ、ソーセージの歴史と料理人などを題材とし、貨幣経済の重要性や過去と現在の職人の活動を通して、生きる喜びと働くことの大切さ、家族・家庭の大切さについて考えさせる。</p>
---------------------------------	--------------------------	--	--	--

イ 日本史A

<p>単元名 (時間数)</p>	<p>学習内容</p>	<p>キャリア教育に係る学習活動</p>	<p>キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力</p>	<p>指導上の留意点等</p>
<p>「歴史と生活(主題学習)」 (5時間)</p>	<p>主題を設定し追究する学習及び、グループによる話し合い活動</p>	<p>身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習を行う。 グループ活動において、それぞれの学習内容をもとに、現代社会の課題に関連させた話し合いを行い、ワークシートにまとめる。</p>	<p>【情報収集・活用能力】 調べ、話し合う学習を通じて、知識の暗記ではなく、歴史的事象への理解を深め、日常生活においてその知識を活用する能力を育成する。 【コミュニケーション能力】 グループ活動を通じて、様々な人々とのコミュニケーションを図り、協力・共同して物事に取り組む力を育成する。</p>	<p>主題の設定に当たり、単元の教科目標である「日本史学習への関心を高める」、「学習の深化と歴史的思考力の育成」の実現を図るとともに、日常生活にかかわりの深い主題を選択するよう指導する。 「調べ学習」については、長期休業中の課題として実施してもよい。</p>
<p>「歴史と生活(主題学習) 産業技術の発達と生活」 (3時間)</p>	<p>「産業技術の発達と生活」についての講義とワークシート記入</p>	<p>講義により、「産業技術の発達」と「労働」について理解する。 講義を踏まえて「現代社会において働くこと」について考察し、意見をワークシートにまとめる。</p>	<p>【情報収集・活用能力】 講義により、歴史的事象を理解し、日常生活においてその知識を活用する能力を育成する。 【役割把握・認識能力】 「労働」について考察する学習活動を通じて、自己の将来設計をより社会性の高いものとしていく。</p>	<p>講義は、各時代の特色をつかみやすいように、映像機器を用いて行う。また、ポイントを理解させるため講義内容をワークシートにまとめさせる。その際、各時代の「勤労(労働)観」、「職業選択の自由」について考察するよう指導する。</p>

ウ 地理 B

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
州・大陸規模の地域の調査 (12時間)	西アジア・中央アジア、ヨーロッパ、東南アジア	地図、統計資料、画像などの資料を収集し、それらをもとに、地域の特色を多面的・多角的に調べ、考察する。	【情報収集・活用能力】 様々な情報を収集・探索して、必要な情報を選択・活用する。 【他者理解能力】 各地域に住む人々の多様な個性を理解する。	各地域を比較し関連付けさせることを通して地域の特色を理解させる。 地域の特色が、地域の環境条件、他地域との結びつき、人々の営み及びそれらの相互関係から成り立っていることを理解させる。
現代世界の資源と産業 (16時間)	世界の資源・エネルギー、農業、工業、流通	世界的視野から、資源利用や産業の多様性を理解し、現状と課題を考察する。また日本と比較し、関連づける。	【情報収集・活用能力】 【職業理解能力】 資源・エネルギー、農業、工業、流通に関する職業の意義や役割を理解する。	分析、考察の過程を重視し、現代世界を系統地理的にとらえる視点や方法を身に付けさせる。 資源、産業が人々の職業と結び付いていることを理解させる。
人口、食料問題 (5時間)	世界の様々な人口、食料問題についてのグループ活動 レポートの作成	人口、食料問題という地球的課題を、世界的視野と地域的視野の両面からとらえ、問題の所在や解決の方向を追究、考察する。 また、解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考察する。	【職業理解能力】 国際協力に関係する組織や職業の意義や役割を理解する。 【役割把握・認識能力】 国際協力の役割や意義を理解し、自己の果たすべき役割等について認識を深めていく。 【計画実行能力】 地球的課題の解決の方向を考える中から、目標となる自己の将来を設計し、実行していく力を育成する。	グループごとに課題を選び、調べ学習や話し合いを通じて、レポートを作成し、クラスで発表させる。 人口の動向と食料生産の地域的な偏りを理解させ、また国際協力における日本の役割について考察させる。

(3) 公民

ア 現代社会

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に 係る学習活動	キャリア教育の視点での 生徒が身に付ける能力	指導上の 留意点等
「現代に生きる私たちの課題（課題追究学習）」 豊かな生活と福祉社会 (4時間)	現代史の講義及び、自分史の作成 レポート作成	現代社会の年表に自分史を書き入れ、自分が生きてきた15年間を振り返る。 次に、20歳の自分、30歳の自分、…というように、自分の将来設計を行う。 以上の学習活動を通じて、現代社会の問題点とその改善への意見をレポートにまとめる。	【役割把握・認識能力】 講義と将来設計を行う学習活動により「現代社会の成り立ち」を理解させ、その知識をもとに、社会の現実を踏まえた、社会性の高い将来設計を行う。 【選択・決定能力】 レポート作成を通じて、現代社会の課題についての理解を深め、よりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する力を身に付ける。	この科目の導入単元として実施する。 「社会保障制度の在り方」など社会の問題点を踏まえて考察できるように指導する。 レポートの作成は授業時間外で取り組ませる。
現代の社会と人間としての在り方 生き方 現代の社会生活と青年 「少子高齢化」 (3時間)	「少子高齢化」についてのグループ活動 将来設計についてのレポート作成	「少子高齢化」について、BS法にて、意見を出しグループごとにまとめる。 少子高齢化を肯定的にとらえる意見・否定的にとらえる意見の両方の立場に立って、自らの将来設計を行い、レポートにまとめる。	【コミュニケーション能力】 グループ活動を通じて、様々な人々とのコミュニケーションを図り、協力・共同して物事に取り組む力を育成する。 【役割把握・認識能力】 レポート作成を通じて、社会の現実を踏まえた、社会性の高い将来設計を行う。	課題について、肯定・否定の両面からの意見交換がなされるように指導する。 レポートの作成は、授業時間外で取り組ませる。

イ 政治・経済

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
現代の政治 日本国憲法と民主主義 (3時間)	日本国憲法と基本的人権	日本国憲法の勤労権や職業選択の自由、経済活動の自由など、労働(職業)に関して各条文が保障する内容と内在的制約について学習し、他の人権との相違点を考察する。	【情報収集・活用能力】 【役割把握・認識能力】 権利保障の背景や現実を条文や資料から理解し、関連する現実の諸問題を考察することで、諸能力を養う。	単に条文の文言を理解するだけでなく、実際の社会生活でのかかわりを意識できるようにする。
現代の経済 現代経済のしくみ (8時間) [授業実践例参照]	人間と経済 経済社会の変容 現代企業の特徴と社会的責任 日本経済の発展と産業構造の変化 経済の在り方と国民生活、福祉の向上	資本主義や社会主義経済の仕組みを学んだ上で、その仕組みがIT産業や自動車産業など現代の企業の特徴や活動とどのように関係しているかについて考察する。 戦後の日本経済の発展と変化を 復興、高度経済成長、中流意識の拡大、バブル経済とバブル崩壊、平成不況、雇用の変化、の観点で整理し、フリーターやニート、ワーキングプア等今日的な問題について、経済社会の変容から理解を深める。	【自己理解能力】 【他者理解能力】 【職業理解能力】 【役割把握・認識能力】 現代企業の特徴や日本経済の発展と変容、社会の諸問題を考察しながら、自己の社会への関心・適性・責任を認識する事により諸能力の育成を図る。	経済の仕組みを分かりやすく説明し、経済を身近なものとしてとらえさせる。 資本主義の特徴では、株式会社の設立や株式の取引を簡単なシミュレーションで行い、経済理論に関心をもたせる。
現代の国際経済 (4時間)	貿易の意義と国際収支・為替相場の仕組み	貿易の意義や仕組みを想起し、グローバルな視点で資本主義経済を中心とした世界経済の動きを概観する。その上で、為替の仕組みや動向について理解を深める。	【情報収集・活用能力】 【将来設計能力】 外国為替については、シミュレーション学習を通じて、理論や現実の取引の仕組みを理解する。	グローバルな視点で世界経済を見る目を養い、資本主義主要各国の通貨や経済の特徴についても触れ、関心を高める工夫をする。
選択学習 現代日本の諸課題 (3時間)	「大きな政府と小さな政府」、「高齢・少子化社会への対応」、「労働者の権利」、「ベンチャー企業」から選択	各自が関心のある課題について調べ学習をし、発表を行いながら意見交換をする。	【情報収集・活用能力】 【コミュニケーション能力】 関心のある課題の調べ学習と各自の発表を通して諸能力の育成を図る。	調べ学習を行うことで経済時事に対する興味や意欲を喚起する。 積極的な意見交換の場となるように工夫する。

(4) 数学

ア 数学

単元名 (時間数)	学習 内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での 生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
方程式と 不等式 (13時間)	1次不 等式の 応用	身近なバス路線でバスカード と定期券の値段を調べ、1か月の バス代の利用回数を変数とする 不等式を立てるなど、1次不 等式の応用例を身の回りから探 し、数学の有用性を理解する。	【情報収集・活用能力】 【職業理解能力】 【選択・決定能力】 バスカードと定期はどちら が経済的かを販売商品の特徴 を数学的にとらえて選択させ る。また、商品を開発・販売す る職業等について考えさせる。	身近な交通機関の 例を用いて、生徒に 興味・関心を持たせ るよう配慮する。
2次関数 (27時間)	2次関 数の最 大・最 小	2次関数の最大・最小の応用 例題を雨どいの話に応用する。 限られた材料から、最大流量を 確保するために、どのように加 工するかという問題に、限られ た銅板から半円と長方形の断面 をもつ雨どいを作るとどちらの 断面積が大きいかを考える。	【職業理解能力】 【選択・決定能力】 数学の有用性を説明するとと もに、商品開発の考えにも触れ る。雨どいの断面積を比較する ことで合理的な判断を行うこと についての理解を深めさせる。	教科書の例題を用 いて、内容を身近な 雨どいの問題に発展 させて、生徒に興 味・関心を持たせ るよう配慮する。
図形と計 量 (31時間)	相似と 計量	相似な図形の面積比の導入の 際、グラウンドに多角形の土地を 設け、グループで土地を測量さ せ用紙に縮図を作成する。測量 図(縮図)の作成や活用等を学 び、数学的思考の有用性につ いて理解を深める。	【情報収集・活用能力】 【職業理解能力】 測量を通して平面図形に関す る具体的な情報収集を体験させ るとともに、社会での測量の役 割、重要性を理解させる。	土地の面積を算出 する際、グループご とにすでに習った三 つの三角形の面積公 式の一つを選ばせ、生徒 に興味・関心をもた せるよう配慮する。
数と式 (17時間)	整式の 加法・ 減法・ 乗法	「置き換えによる展開の工夫」 の導入の際、ものの見方やとら え方を変化させる考え方の有用 性を理解する。見直しをもって 今まで学んだ知識・考えを活用 していくことは、社会に出て 様々な職業に就いても必要とさ れる力であることを理解する。	【職業理解能力】 ($A + B$)($A - B$)や ($A + B$) ² 等の基本公式を($x + y + 2$)($x - y + 2$)や($A + B + C$) ² に応用する学習活動を通 して基本的な事柄を応用させて いく考え方を身に付けさせる。	これから、次々に 現れる学習内容につ いて、一つの事柄か ら転化させる考え 方が数学のみならず、 社会においても大切 であることを強調す る。
	実数	$\sqrt{2}$ や黄金比など具体的な実 数を取り上げ、数の美しさ・不 思議さや、建築物、美術品、紙 のA・Bサイズの種類など身の 回りで使われる比の性質や無理 数についての理解を深める。	【職業理解能力】 比の考え方や無理数が身近な 場面で使われていることを知 り、社会での有用性について理 解させる。	数学の持つ美しさ を強調して、生徒に 興味・関心を持たせ るよう配慮する。

イ 数学

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
式と証明 高次方程式 (36 時間)	等式と不等式の証明	等式と不等式の証明で扱う様々な平均について理解を深める。	【職業理解能力】 平均速度や電気回路・音楽における調和平均の有用性や産業における利用法など、様々な平均が身近な場面で活用されていることを理解させる。	学校の登下校などできるだけ身近な活動を想定した問題を取り上げる。
	高次方程式	高次方程式の学習の際、剰余の定理や因数定理の理解を深める。	【職業理解能力】 余りの考え方や素数と暗号・インターネットとの関連性や、情報管理の重要性等について説明する。	できるだけ身近な活動・話題の場面から問題を取り上げる。
図形と方程式 (26 時間) [授業実践例参照]	軌跡と領域・連立不等式の表す領域	領域と最大・最小の扱いの中で、線形計画法の基本的な考え方を身に付ける。	【職業理解能力】 線形計画法の有用性と社会や企業での利用法等について説明する。	学校行事や企業活動などできるだけ身近な活動の場面を想定した問題を取り上げる。
	2 点間の距離	2 点間の距離を求める公式とその活用方法についての理解を深める。	【職業理解能力】 応用例として、GPS の原理、地震の震源の決定、船舶の位置確認などには 2 点間の距離を求める公式が活用されていることを理解させる。	身近な例を取り上げるよう配慮する。
いろいろな関数 (36 時間)	三角関数とその基本的な性質	三角関数のグラフについての理解を深める。	【職業理解能力】 円柱形の食材の切断や洋服の型紙を利用して sin のグラフの有用性を説明し、産業等におけるグラフの重要性について説明する。	できるだけ身近な生活の場面（食品・服装等）を扱うように配慮する。
	対数関数	常用対数に対する理解を深め、処理できるようにする。	【職業理解能力】 常用対数を用いて菌類の繁殖数を表せることが、食品管理業務の考え方に活用できることなどについて説明する。	できるだけ身近な生活の場面や自然現象を扱うように配慮する。
微分・積分の考え (42 時間)	導関数の応用	関数の増加減少に関する理解を深める。	【職業理解能力】 微分の考え方の実用性を、円柱の直径・高さと体積の関係を利用した問題を通して製造コストの考え方等に触れて説明する。	日常生活の中でも、同様な考え方で処理できる場面を扱い、生徒が興味・関心を持つように配慮する。

ウ 数学A

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
場合の数と確率 (26 時間) [授業実践例参照]	確率とその基本性質	迷惑メールの駆除サービスなど社会での確率の活用例を学ぶ。	【情報収集・活用能力】 【職業理解能力】 職業に関する情報を得て、職業に対する理解を深めさせる。	実験や身近な例を用いて、確率の考え方を説明し、生徒に興味・関心を持たせるよう配慮する。
	複雑な事象の確率	くじ引きに当たる確率は、引く順番に関係しないという例題など確率の身近な例を取り上げ、数学の有用性についての理解を深める。	【職業理解能力】 例題のあと、さらにコンピュータのシステムと確率の考え方の関係について触れる。	身近な例を用いて、確率の考え方を説明する。
	期待値	期待値の例題・問題を解きながら、期待値の考え方の有用性を理解する。	【職業理解能力】 【選択・決定能力】 期待値をもとに合理的に判断することや期待値の社会での活用場面について理解させる。	身近な例示となるよう配慮する。
平面図形 (20 時間)	重心・外心・内心	内分点・外分点の導入においてモーメントを取り入れて理解を深める。重心についても活用してみる。	【職業理解能力】 建物や製品の設計と重心とのかかわりから、社会と平面図形とのつながりを理解させる。	身近な製品や品物を取り上げるよう配慮する。

エ 数学B

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での 生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
数列 (35時間)	等差数列 と等比数列	等比数列の和について学習する。	【情報収集・活用能力】 【職業理解能力】 複利計算の事例を利用して金利と企業経営の関連等を説明し、等比数列の有用性についての理解を深める。	具体的な数字・金額を扱うなどできるだけ身近な生活の場面と関連付ける。
	いろいろな数列	漸化式で表される数列について学習する。	【職業理解能力】 漸化式の活用例について、フィボナッチ数列に触れながら説明する。	自然界の法則や社会につながる場面を扱うようにする。
ベクトル (35時間)	ベクトルの内積	ベクトルの内積について学習する。	【職業理解能力】 ベクトルの内積と物理で扱う仕事の関連について説明する。	できるだけ基本的な知識につながる事例を扱い、具体的に値を求めてみる。
統計とコンピュータ (35時間)	資料の分析	「資料の整理」の学習を行う。	【情報収集・活用能力】 【職業理解能力】 偏差値や相関係数等の有用性について、日常生活で関連して使う事例を取り上げながら経済の統計とも関連させて説明する。	数字をどのように読み取り、解釈するかという視点にも触れる。

オ 数学C

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での 生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
いろいろな曲線 (35時間)	いろいろな曲線	サイクロイド曲線・クロソイド曲線(高速道路のインターのカーブ)などを通して、曲線表示の多様性や曲線の美しさを説明する。	【職業理解能力】 高速道路のインターの曲線は、事故を抑えるため、円よりクロソイド曲線が適していることを理解する。	グラフ描画のフリーソフト(*)を活用していろいろなグラフを作成してみる。

(*)高校レベルで扱う関数のグラフや軌跡を様々な角度から調べることができるフリーソフト「GRAPES」など

(5) 理科

ア 理科総合 A

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
物質の構成と変化 (18時間)	電気分解と燃料電池	水の電気分解の実験を計画・実行し、水が水素と酸素からできていることを確認後、この逆反応を利用した燃料電池を紹介し、新しいエネルギー源としての有効性について調べる。	<p>【計画実行能力】 発生する気体やその体積比を予測した上で、実験を計画・実行する。</p> <p>【情報収集・活用能力】 燃料電池の原理や産業への応用などについて、情報を収集する。</p>	<p>結果を予測させるなど、生徒が実験計画段階で、考える場面を設定する。</p> <p>燃料電池の利点、将来性について、考察を加える。</p> <p>燃料電池は、市販キットや自作も可能なので必要に応じて実験を取り入れる。</p>
物質の利用 (8時間)	物質の生産と生物	生活に利用している様々な物質の中から生物が作る物質を探し、班で分担して、その物質の性質や製造方法を知ること、生物が作る物質の産業への応用について理解を深める。	<p>【役割把握・認識能力】</p> <p>【情報収集・活用能力】 班で協力して調査活動を行い、集めたデータをまとめる。</p> <p>【職業理解能力】 身近な化学物質の生産について調査する活動を通して、生物を応用した先端産業技術への理解を深める。</p>	<p>化学物質の生産に生物が利用されていることに気付く程度に扱い、専門的な内容に深く入らないように留意する。</p>
資源の開発と利用 (15時間)	エネルギー資源の利用と問題	蓄積型の化石燃料と原子力、非蓄積型の水力や太陽エネルギーなどの特性や利用について学習する。	<p>【自己表現能力】 自分で調べた結果を発表する。</p> <p>【職業選択能力】 エネルギー資源の問題と身近な社会生活との関連について理解する。</p>	<p>近隣にある火力発電所や、太陽電池・風力発電を利用した施設と私たちの暮らしとの関連について扱うなど身近な話題となるよう留意する。</p>
	温室効果	地球温暖化と温室効果ガス(二酸化炭素)の関係を学習後、「環境家計簿」を利用し、各家庭のエネルギー消費量、二酸化炭素排出量を調べる。	<p>【自己理解能力】 日常の自分の生活が地球環境に与える影響について知ること、自分と自然のつながりについて実感する。</p> <p>【課題解決能力】 環境保全のために、自分や社会ができることについて考える。</p>	<p>事前に家庭で使っている電気、ガス、水道、自家用車のガソリン代等の領収書、ゴミの量を調べておくよう指導する。</p> <p>環境家計簿は、インターネット上にいくつか用意されているので、適宜選択する。</p>

イ 理科総合 B

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に 係る学習活動	キャリア教育の視点での 生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
地球の移 り変わり (12時間)	惑星とし ての地球	惑星としての地球の特 徴について、太陽系の各惑 星のデータを比較しなが ら調べ、その結果を発表 し、人間の生活を支える地 球環境についての理解を 深める。	【自己表現能力】 スライドショーやポスタ ーセッションを通じて、自分 の考えを相手に伝える力を 育てる。 【情報収集・活用能力】 【選択・決定能力】 多数の資料やデータから 適切なものを選び出し、図表 等を活用しながら表現する 力を身に付ける。	地球は太陽系の一員と して他の惑星と共通の性 質を持ちながら、生命の 存在を可能とする条件を 備えていることを理解さ せる。 資料やデータの羅列と ならないように注意す る。
生命の移 り変わり (12時間)	メンデル の法則・ 雑種第一 代の交配	表に A、裏に a と書いた コインを同時に投げ、その 組み合わせについてのデー タを集計し、メンデルの 導き出した規則性を検証 する。	【コミュニケーション能力】 班で協力して実験を行う 活動を通して、コミュニケー ション能力を育てる。	実際の生物ではなく、 コインを用いたシミュレ ーション実験であること に留意して指導する。
人間の活 動と地球 環境の変 化 (10時間) [授業実践 例参照]	微気象の 観測	教室内の詳細な気温の分 布をクラス全体で協力して 測定し、室内の気温分布図 を作成する。作業を通して、 身近な環境について関心を 持たせ、気象観測のしくみ について理解を深める。	【コミュニケーション能力】 【情報収集・活用能力】 【役割把握・認識能力】 授業実践例参照	気象観測は地道なデー タ収集作業であり、天気 予報も、身近な気象観測 から始まり、それらのネ ットワークによるデータ 収集と分析によって成り 立っていることに気付か せる。
生物と環 境 (12時間)	土壌生物 の観察	土壌から微小生物を採集 して顕微鏡で観察する。各 自が目にする微小生物をス ケッチし、班員で相談しな がら分類し、土壌中の微小 生物の役割について考察す る。	【課題解決能力】 生態系における分解者の 役割を考え、自然環境にお ける物質の循環やエネルギ ーの流れについて理解し、環 境の保全について考察す る。	土壌には数多くの生物 が存在し、有機物の分解 を行っていることに着目 させる。

ウ 物理

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
生活の中の電気 (16時間)	磁気記録	使用済みプリペイドカード等に鉄粉をかけ、バーコード状のものが浮かび上がることを通して、生活の身近なところにも磁気を利用されていることを学習する。	【職業理解能力】 いつも利用している身近なものに、物理で学習する原理が使われていることに気付く。	他にもコンピュータのハードディスク等、入手可能なものを利用して調査する。
音と光 (35時間)	気柱の共鳴	気柱共鳴装置を用いて音さの振動数を測定する。複数回測定し、コンピュータの表計算ソフトを利用してレポートを作成する。	【計画実行能力】 【自己表現能力】 実験結果を表計算ソフトでレポートにすることによって、グラフの活用などの表現力を高める。	事前に表計算ソフトの使用法、特にグラフの作成法を指導しておく。なぜ基本振動と3倍振動を測定するのか考察させる。
エネルギー (32時間)	力学的エネルギーの保存	ループコースターを用いた鉄球の運動実験を行う。実験前に、鉄球を落下させる位置と鉄球の動きを予想させ、予想と結果の相違を班ごとに検討し、発表する。	【役割把握・認識能力】 【コミュニケーション能力】 班で協力して実験を行うことで、自己の役割を理解し、コミュニケーション能力を育てる。	結果を予想する場面では、班の中で話し合う時間を十分に確保する。 ジェットコースターのような軌道を作成し、動きを観察すると、生徒の関心が高まる。 実験の代わりにITを活用して映像で実験結果を示すことも可能である。
	熱力学第2法則 熱効率	置物やおもちゃとして市販されている「水飲み鳥」の動きを見せ、動きに必要なエネルギーの供給源について班で討議し、熱力学の第2法則についての理解を深める。	【自己表現力】 【他者理解能力】 【コミュニケーション能力】 班の中での討議を通して、適切なコミュニケーション能力を身に付ける。	事前に、熱機関の歴史や種類、現在使われている熱機関の熱効率などを指導しておく。 熱効率を高めることが、環境などにどのような影響を与えるのかを考察させる。

エ 化学

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
物質と人間生活 (10時間)	身近な物質	市販の清涼飲料水に含まれる糖度を糖度計で測定する実験により、日常生活と化学の学習のかかわりについて理解を深める。	【自己理解能力】 実験から得られた結果から、様々な化学物質によって日常生活が成り立っていることに気づき、化学の知識や技能が、身近な物質の理解に有用であることを理解する。	単に数値としての実験結果ではなく、実際に計量した物質のかさ(外観上の体積)をイメージ化するなど、化学の学習が実感を伴ったものとなるよう留意する。
化学反応 (20時間)	酸化と還元	くだものや備長炭など、身近なものを利用して班で電池を製作し、電池の基本的な仕組みについて理解を深める。 市販されている電池の種類や性能について調べる。	【役割把握・認識能力】 班で協力しながら、電池を工夫・改良するなど、課題解決学習を取り入れる。 【職業理解能力】 市販されている電池に使われているアイデアや工夫についての考察を通して、化学と産業とのかかわりについて理解を深める。	実験の前後で電池の原理について解説を加え、実験をきっかけに学習が深まるように指導する。
無機物質 (25時間)	金属イオンの定性分析	Ag^+ 、 Al^{3+} 、 Ca^{2+} 、 Cu^{2+} 、 Fe^{3+} 、 Na^+ 、 Pb^{2+} 、 Zn^{2+} のうち4種類を含む溶液を班ごとに与え、金属イオンを特定する。	【課題解決能力】 【コミュニケーション能力】 班員同士で話し合いをもち、実験の手順を決定する。決定した手順に沿って協力しながら実験を進める。	実験計画を入念に立てさせることで、実験の合理的な手順を考えさせる。
有機化合物 (25時間)	アルコールの性質	メタノール、エタノール、プロパノール、ブタノールの粘性、水・灯油への溶解性、燃焼の様子と発生するススの量などを観察し、炭素数で変化するアルコールの性質について学習する。	【計画実行能力】 炭素数によって性質が変化する理由について仮説を立てさせ、実験結果を予想させておく。	有機化学を学習するための基本的な見方や考え方を身に付けることをねらいとし、個々の物質の性質に深く入らないように注意して指導する。

(6) 外国語（英語）

ア 英語

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点 での生徒が身に付ける能力	指導上の 留意点等
Activity Workshop 3 Reading Classified (1時間)	教科書にある新聞広告の住居の賃貸情報の英文を読みとる。	信治とホストマザーの会話を聞き、配付されたワークシートの複数の True or False に答える。最後に信治がどの物件を選んだか答える。自分だったらどの物件を選ぶかを考え、ワークシートに日本語、または英語でその物件を選んだ理由を書く。	【情報収集能力】 情報の相違、特徴などを読み取らせる。 【選択・決定能力】 【課題解決能力】 情報を分析し、理由を明確にして選択決定させる。	社会生活との関連が高い教材を利用する。授業の最初では語彙(い)の説明と広告についての解説をする。
Lesson 1 Different Languages, Different Worlds (1時間)	日本の俳句について書かれた英文の教材について学習する。	英語俳句の作り方について、インターネット等を用いて自分で情報収集し、英語の俳句を作る。英語俳句の下に日本語訳となる俳句も書く。全員の俳句のプリントを作成する。	【自己表現能力】 【他者理解能力】 英語で俳句を作り、友人の作品を読むことで他者の作品について、理解する。	英語俳句の作り方を解説し、誰でも作れることを理解させる。「英語俳句の作り方」はインターネットで検索して見付けることができる。
Lesson 3 What is our greatest invention? (1時間)	「人間がこれまでに発明した最も偉大な発明とは何か」という教材を用いて学習する。	最も偉大な発明品を各グループで考え、その発明品と最も偉大であるとした理由を英語、または日本語で説明する。 2グループの生徒が説明し、全員の生徒でどちらが偉大な発明かを表明しその理由を英語、または日本語で説明する。	【自己表現能力】 自分の意見をまとめ、表明する。 【選択・決定能力】 他の意見を聞き、理由を明確にして選択する。	生徒を5名程度のグループに分ける。最も偉大な発明品をトーナメント形式で決定する。2回戦以降の説明は確認程度とする。トーナメント形式でなくてもよい。ユーモアのある答えも認めると授業に幅がでる。

(参考教科書)三省堂「CROWN English Series」

イ オーラル・コミュニケーション

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
Self-introduction (自己紹介) (1時間)	自己紹介に関する表現	二人組を次々に作り自己紹介を繰り返し行う。初めて会う人に対して効果的に自分の情報を提供することに心掛けて話す。	【自己理解能力】 【自己表現能力】 【他者理解能力】 自己紹介をして聞くことで、表現・理解する能力を育成する。	できるだけ身近な内容や場面を自己紹介のテーマに設定し、生徒が興味・関心を持つように配慮する。
Music (1時間)	自分の好きな音楽のジャンル等の表現	趣味(音楽)を通して相手を理解し、より建設的な人間関係を構築するための効果的なコミュニケーションの方法を学ぶ。	【他者理解能力】 【コミュニケーション能力】 より深い他者理解の方法について学び、実践する。	非言語コミュニケーションの果たす役割等にも触れながら、効果的なコミュニケーションストラテジーに配慮する。
Future dream (将来の夢) (1時間)	職業に関する表現	将来の夢をテーマにしたスピーチを行う。	【計画実行能力】 現在の自己の状況、将来の計画等を考慮しながら将来の夢について語る。	単に夢を語らせるだけでなく、実現の過程でどんなことが必要になるのかについても考えさせる。
Group Discussion (2時間)	グループディスカッションをするための表現	教科書または教師・ALTが与えたテーマについて調査・研究・発表する場面や状況を設定する。	【情報収集・活用能力】 【課題解決能力】 与えられたテーマについて調査・研究・発表する。	調査・研究・発表に割り振られた時間配分等に配慮することについても考えさせる。

ウ 学校設定科目「生活英語」

科目の目標：日常生活に役立つ英語の基礎的な知識を習得し、それらを活用する能力を育成する。日常生活において英語を聞き取るためのさらに高度な能力を身に付けるとともに、英語圏の文化・歴史等の理解を含めた総合的なコミュニケーション能力の育成を図る。

<使用する教材について> ここでは特定の教材に基づく授業例を取り上げているが、生徒が身近に感じる、意見表明しやすい題材を扱うことで同様の学習活動を行うことができる。

単元名 (時間数)	学習内容	キャリア教育に係る学習活動	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	指導上の留意点等
Who pays? (2時間)	デートの支払いは男女のどちらがするかについて考える。	WHAT DO YOU THINK? に対するテキストにある四つの意見について、それぞれ Agree / Disagree で答え、その理由を述べる。	【選択・決定能力】 【課題解決能力】 理由を明確にして賛成か反対かを決める。	なぜ賛成/反対なのか明確に考えさせる。最初は日本語で答えさせ、英語で表現させてもよい。
	デートの支払いは男女のどちらがするかについて記述させ、自分自身の意見を発表させる。	男女どちらが払うべきかについての視点を明確にした意見を記述する。 一人ひとりが自己の意見を言い、プレゼンテーションを行う。他の生徒はプレゼンテーションを聞き、質問や反論をする。	【自己表現能力】 自分の意見を相手に分かりやすく表現する。 【他者理解能力】 他人の意見を理解しようと努める。 【コミュニケーション能力】 相手の立場に配慮しながら質問、反論ができる。	JTE、ALT は生徒の英語表現についての質問を受けながら生徒の記述を完成させるように助ける。ワークシートを用意し生徒に意見を書かせて、発表させる。
I hate school (2時間)	大学を辞めたがっている大学生についての会話を読ませ、考えさせる。	WHAT DO YOU THINK? に対する、テキストにある四つの意見について、それぞれ Agree / Disagree で答え、その理由を述べる。	【選択・決定能力】 理由を明確にして賛成か反対かを決める。	なぜ賛成/反対なのか明確に考えさせる。最初は日本語で答えさせ、英語で表現させてもよい。
	大学を辞めるべきかどうかについての会話を読ませ、考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">いずれの授業もTTで実施する。</div>	大学を辞めるべきかどうかについての視点を明確にした意見を記述する。 一人ひとりが意見を言い、プレゼンテーションを行う。他の生徒はこれを見て、質問や反論を行う。	【自己表現能力】 自分の意見を相手に分かりやすく表現する。 【他者理解能力】 他人の意見を理解しようと努める。 【コミュニケーション能力】 相手の立場に配慮しながら質問、反論ができる。	JTE、ALT は生徒の英語表現についての質問を受けながら生徒の記述を完成させるように助ける。

使用教材：Impact TOPICS(30 EXCITING TOPICS TO TALK ABOUT IN ENGLISH)LONGMAN

5 各教科におけるキャリア教育の授業実践例

キャリア教育の視点に立って県立高等学校の調査研究協力員が実施した授業をもとに検討を加え、モデルとなる授業計画を示すとともに、それぞれの授業実践による成果と課題を教科ごとに提示する。

(1) 国語

ア 国語総合

授業のポイント

- ・ 短歌の鑑賞と創作、グループワークによる話し合いと発表などを行う。
- ・ 「自己表現能力」、「他者理解能力」、「コミュニケーション能力」、「役割把握・認識能力」の育成を図る。

(ア) 単元名 近現代の短歌

(イ) 単元の目標 近現代の短歌を主体的に鑑賞したり創作したりする活動を通して、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。また、作品を発表したり、グループでお互いに討議したりすることにより、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばす。

(ウ) 単元の総学習時間数 4時間

(エ) 指導と評価の計画

評価の観点 a：関心・意欲・態度 b：話す・聞く能力 c：書く能力 d：読む能力 e：知識・理解

時間	学習項目・内容	評価規準	評価の観点					評価方法	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力
			a	b	c	d	e		
1	短歌の鑑賞	教科書の短歌十四首について、五七五七七という短歌のリズムを理解している。						観察	【課題解決能力】 【自己表現能力】 短歌に描かれていない場面設定（いつ・どこで・だれが・なぜ等）を想像しながら読み、短歌に描かれた世界を絵や小説にとらえ直すという学習活動を通して、課題を設定し解決しようとする能力、適
		石川啄木の短歌について、その場面設定（いつ・どこで・だれが・なぜ等）を想像しながら読んでいる。						ワークシート	
2	短歌を絵や小説にする。	石川啄木の短歌に描かれた世界を視覚的にとらえようとし						ワークシート	

		ている。							切な自己表現や自己実現を図る能力を育成する。
		石川啄木の短歌に描かれた世界を400字程度の文章に表現している。						生徒の文章	
3	短歌の創作 「ぞつと～を見る」という部分を生徒が個人で作成し、短歌とする。	石川啄木の短歌の一部を活用し、自分の気持ちを分析して表現している。 教材短歌の一部を活用して、主体的に自分の短歌を表現している。 発表用シートを活用し、自分の短歌を伝えやすくするための工夫をしている。						ワークシート ワークシート 発表用シート	【自己理解能力】 【自己表現能力】 短歌の一部に自分の言葉を入れ、その理由と心情を考えさせるという学習活動により、自己分析を通して内的な深化を図る能力を育成する。また、短歌の一部を活用して、自分の短歌を創作するという学習活動により、適切な自己実現を図る能力を育成する。自己表現を行う上で、自己を見つめることがいかに重要であるかを認識させる。
4	短歌の創作 自分で作った短歌をグループ内で発表し、話し合ってから、クラス全体で発表する。	グループの中で自分の短歌を発表し、短歌についての話し合いに参加し、意見を述べている。 効果的な表現を考えて、自分たちの作品を全員の前で発表しようとしている。						観察 ワークシート 観察	【自己表現能力】 【他者理解能力】 【コミュニケーション能力】 【役割把握・認識能力】 グループで話し合ったり、発表したりする学習活動を通して、他者の個性を互いに認め合い、多様な集団の中でコミュニケーションを築きながら自己の成長を果たしていく能力や、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力を育成する。

(才) 授業の計画 (単元の4時間目)

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	評価の観点 (評価方法)
導入 15分	・個々の短歌の発表 3時間目に作成した個々の短歌を各自がグループの中で発表する。	(単元の3時間目までの個々の取組の差が本時の学習活動に与える影響が大きい。) 班編成は1班5人を基本とする。 各自に自分の作品のテーマや工夫した点なども発表するよう指示を出す。	【自己表現能力】 集団の中で自分の作品を発表するという学習活動を通して、自己表現能力と、人間関係を築きながら自己の成長を果たしていく能力を育成する。	「話す・聞く能力」 (観察、ワークシート)
展開 20分	・グループ作品の作成 グループの中で優秀作品を決定し、その作品のよい点について話し合う。 グループの中で優秀作品を改善させることによりグループ作品を作成する。	グループの中で優秀作品の良い点はどこか話し合わせ、箇条書にさせる。 グループの中で改善点を話し合わせ、できるだけ五七五七七の短歌形式にまとめさせる。 話し合いが進まないグループには、比喩(ゆ)や擬声語、擬態語、倒置法等を用いた婉(えん)曲的な表現を検討するよう声を掛ける。	【他者理解能力】 【コミュニケーション能力】 グループの中で話し合い、作品を作成するという学習活動を通して、他者の多様な個性を理解し認め合うことを大切にして行動する能力を育成する。	「話す・聞く能力」 (ワークシート)
まとめ 15分	・グループ作品の発表 グループで作成した短歌を全体の前で協力して発表する。	グループ内で「朗読、板書、解説」をする役割を決めさせる。	【役割把握・認識能力】 グループで協力して発表するという学習活動を通して、人間関係能力と、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力を育成する。	「関心・意欲・態度」 (観察)

< 他の学習活動の展開例 >

今回の事例では個人の一作品をグループで討議しながらグループ作品にしていくという学習方法をとったが、あるテーマについてグループ内でブレインストーミングを行い、そこから出て来た言葉を組み合わせる一つの短歌を完成させるというような学習方法も可能であり、他者とのかかわりを増やすことができる。

(カ) 本時の学習評価

評価規準 「話す・聞く能力」	グループの中で自分の短歌を発表して短歌についての話し合いに参加し、意見を述べている。
aと判断した具体的な状況	グループの中での発表や話し合いに参加し、グループ作品の充実を目指して自分の意見を述べている。
bと判断した具体的な状況	グループの中での発表や話し合いに参加して、自分の意見を述べている。
cと判断した具体的な状況	グループの中での発表や話し合いに参加せず、まったく自分の意見を述べていない。
cの手立て	個々の生徒に対し学習の趣旨や目的を伝え、共同作成の方向性を具体的に示すことで、グループでの発表や話し合いに参加し、自分の意見を述べるように促す。

評価規準 「関心・意欲・態度」	効果的な表現を考えて、短歌作品を全員の前で発表しようとしている。
aと判断した具体的な状況	効果的な表現や発表方法を工夫しながら、短歌作品を全員の前で発表しようとしている。
bと判断した具体的な状況	効果的な表現を考えて、短歌作品を全員の前で発表しようとしている。
cと判断した具体的な状況	短歌作品を全員の前で発表しようとしなない。
cの手立て	個々の生徒に対し学習の趣旨や目的を伝え、自分の役割が何であるかを認識させることにより、発表ができるように促す。

(キ) キャリア教育の視点に立った授業実践の成果と課題

[成果]

- ・石川啄木の短歌を活用した様々な創作活動により、「自己表現能力」、「他者理解能力」、「コミュニケーション能力」、「役割把握・認識能力」を育成することができた。

[課題]

- ・時間に比べてねらいが多かった。個々の諸能力の確実な育成には、ねらいを絞った学習計画の作成が必要である。

< 成果 >

今回の授業実践では、短歌に描かれた世界を鑑賞するだけにとどまらず、そこから発展して創作や発表を行うという学習活動を試みた。教材をそのように発展的にとらえることで、学習者の自己表現能力やコミュニケーション能力等を育成できると考えたからである。

単元の1～3時間目までに行った、石川啄木の短歌を活用して絵・小説・自分の短歌等を創作する学習活動は、啄木の短歌についての正確な知識をもとにはしていない。あくまで学習者自身の自由な想像力によってパロディ的に創作したといえる。しかし、このような活動を試みることによって、学習者は、自己表現を行う場合、自己を見つめることがいかに重要であるかを認識す

ることができたようである。また、自分の世界を効果的に他者に伝えようと、懸命にさまざまな工夫を考えていることが、出来上がった作品から読みとれ、課題を設定し解決しようとする能力（「課題解決能力」）、自己分析を通して内的な深化を図る能力（「自己理解能力」）、適切な自己表現や自己実現を図る能力（「自己表現能力」）の育成は十分に達成されたと考えられる。

本時における、自分やグループの作品について話し合い、発表する学習活動では、初めに個々が作り上げた短歌をグループ内で発表させた。ほとんどの学習者が意欲的に自分の短歌を発表用シートにまとめるなど、効果的な発表の工夫をしていた。中には、自分の短歌で表現した世界を絵に描いて、そのテーマについて説明している者もいた。そうした点から全般としては「自己表現能力」、「他者理解能力」、「コミュニケーション能力」、「役割把握・認識能力」といったキャリア諸能力が育成できたと考えられる。

学習者が主体的に取り組む授業や、学習者の能力を引き出す工夫を取り入れた授業については今までも実践してきたが、キャリア教育に関連付けた授業は初めてであった。今回、従来の国語の授業をキャリア教育の視点からとらえ直して行うことがキャリア諸能力の育成や、学習態度・学習意欲の向上につながり、さらには、今後の学習全般の方向性を明確にするものであると確認できたことが非常に大きな成果であった。

< 課題 >

事前の3時間の授業の取組が十分でない生徒は、その成果も不十分なものとなってしまった。4時間全体を見通した学習指導に十分な準備と配慮が必要である。また、この50分の授業時間で四つのキャリア諸能力を育成するとしたが、時間に比してねらいが多く、個々の諸能力の育成が不十分になってしまったように感じている。キャリア諸能力を確実に身に付けさせるためには、ねらいを絞った学習計画の作成に留意する必要がある。

ワークシート1 「近現代の短歌」 (個人ワーク)

一年()組()番氏名()

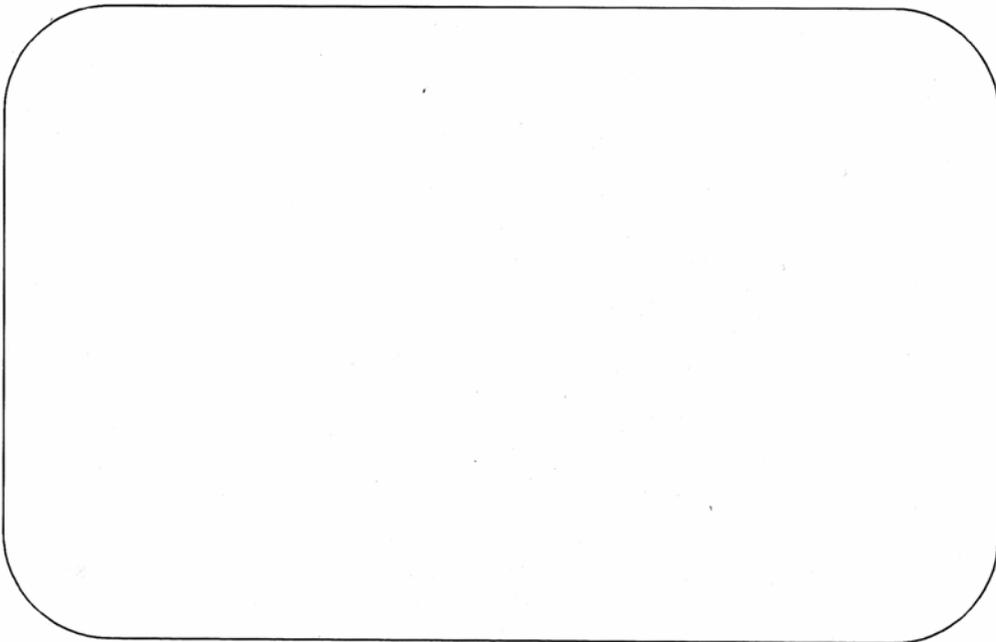
次の石川啄木の短歌について、①②のワークをしましょう。

はたらけど
はたらけど猶わが生活楽にならざり
ぢつと手を見る

①この歌の場面を想像しましょう。(読む力)【課題解決能力】

- いつ (季節は?・時間は?)
- どこ (場所は?)
- だれ (何歳ぐらい? 職業は?)
- なぜ「ぢつと手を見」ているのでしょうか?
- 「ぢつと手を見」ている人は今どんな気持ちでいるのでしょうか?

②この歌に描かれている手を絵にしてみましょう。【自己表現能力】



③この歌に描かれている世界を四百字程度の小説にしてみましょう。【自己表現能力】

ワークシートⅡ 「短歌を創作しよう」 (個人ワーク)

一年()組()番氏名()

①次の()に自分の好きな「ことば」をいれましょう。(書く力)【自己理解能力】

ちつと()を見る

②あなたは、なぜ「ちつと()を見る」のでしょうか?【自己理解能力】

③あなたは、どんな気持ちで「ちつと()を見る」しているのでしょうか?【自己理解能力】

④「ちつと()を見る」を使って三行の短歌を作りましょう。(書く力)【自己表現能力】

Blank rounded rectangular box for writing a haiku.

Blank rounded rectangular box for writing a haiku.

ちつと()を見る

<ワークシート >

ワークシートⅢ 「みんなで短歌を創作しよう」 (グループワーク)

() 組 () 番氏名 ()

①グループの中でメンバーの作品を各々発表しましょう。(関心・意欲・態度)【自己表現能力】

②グループの中で話し合い、もともとよかったと考えられる優秀作を決めましょう。(話す・聞く力)【コミュニケーション能力】

③グループの中で話し合い、優秀作のよい点についてまとめましょう。(話す・聞く力)【コミュニケーション能力】

-
-
-

④グループの中で話し合い、優秀作を短歌としてさらによい作品にしてみましょう。【コミュニケーション能力】

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

ちつと () を見る

⑤前に出て、グループの作品を発表しましょう。(関心・意欲・態度)【役割把握・認識能力】

役割分担

- ・板書する 担当 ()
- ・朗読する 担当 ()
- ・解説する 担当 ()

最初の歌からどこを工夫して、発表短歌になったかを述べてください。

- ・工夫した点
-
-

イ 古典講読（3年選択）

授業のポイント

- ・ 徒然草の読解を行い、ワークシートを用いて「将来」についての様々な考察を行う。
- ・ 「自己理解能力」、「計画実行能力」、「課題解決能力」の育成を図る。

(ア) 教材名 随筆・徒然草（第188段）「ある者、子を法師になして」

(イ) 単元の目標 古文を読むことを通して、古典という言語文化を正しく継承して現代に生かすとともに、古典への興味・関心を深める。

(ウ) 単元の総学習時間数 2時間

(エ) 指導と評価の計画

評価の観点 a：関心・意欲・態度 b：話す・聞く能力 c：書く能力 d：読む能力 e：知識・理解

時間	学習項目・内容	評価規準	評価の観点					評価方法	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力
			a	b	c	d	e		
1	・ 古文の正確な読解と解釈を行う。 古語や古典文法に留意しながら正確な読解をする。	古語と現代語の違いに注意して口語訳する方法を理解している。						学習観察 記録ノート	【他者理解能力】 筆者の主張を読みとるという学習活動を通して、他者理解能力を育成する。
	・ 内容の要約などを通して筆者の主張を読み取る。	内容を把握し筆者の主張を理解している。						ワークシートへの記述	
2	・ 内容理解を深め、筆者の主張を読み取り、自分の考えをまとめる。 説教師を目指した者が自分の目標を実現できなかった理由についてまとめる。	登場人物の生き方から現代人の生き方への教訓を読み取っている。						学習観察 ワークシートへの記述	【自己理解能力】 「(オ)授業の計画」参照 【計画実行能力】 【課題解決能力】 「(オ)授業の計画」参照
	・ 「世間の人」が目標を実現できなかった理由についてまとめる。 教科書未採録部分(後半)も合わせて読んで、自分の考えをまとめる。	自分の将来の人生設計を行う上で大切なことについて考察を深めようとしている。						学習観察 ワークシートへの記述	

(オ) 授業の計画 (2 時間のうちの 2 時間目)

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	評価の観点 (評価方法)
導入 10分	前時での本文の内容について確認する。	前時までの学習内容と本時の学習内容の流れを説明する。 口語訳で重要な点を再度質問する。特殊な意味の古語に留意させる。		
展開 30分	筆者の主張を読み取り、自分の考えをまとめる。 ア 説教師を目指した者が目標を実現できなかった理由、及び「世間の人」が何もできずに終わる理由を考える。また、自分を振り返って同じようなことはなかったかをワークシートに書いてまとめる。	本時に配付したワークシートを活用する。 指名読みをしながら全員で本文を読み取り、目標を実現できなかった結果に対してその原因を一人ずつ答えさせる。	【自己理解能力】 本文の内容を自分のこととして振り返ることを通して、自己を理解する能力を育成する。	「読む能力」 (学習観察・ワークシートへの記述) (本文を読み取り、的確に理解しているかを見取る。)
	イ 教科書本文に引き続いて教科書未採録の部分を全員で読む。自分の将来設計上、どんなことに留意すべきかについて一人ずつワークシートに自分の考えを書いてまとめる。	教科書未採録の部分の原文と口語訳を配付する。 考えのまとまらない生徒に対しては個別に助言を与える。 未採録部分の重要な部分については理解度によっては教師が指摘する。	【計画実行能力】 自分自身の将来について具体的に考えながら振り返ることを通して、具体的な計画について考える能力を育成する。	「関心・意欲・態度」 (学習観察・ワークシートへの記述) (筆者の提言を自分の問題として考察を深めているかを見取る。)
	ウ 本文から読み取れること以外で自分の目標の実現に欠かせない事柄を一人ずつワークシートに書いてまとめる。	全体の理解度が深まっていけないような場合はグループ討議を行う。	【課題解決能力】 自分の将来の目標の実現のために必要なことを自分の力で考えることを通して、問題を見つけて解決する能力を育成する。	「関心・意欲・態度」 (学習観察・ワークシートへの記述) (考えを発展させ自分の目標実現の行動に結びつけているかを見取る。)

ま と め 10 分	筆者の提言が現代人にも十分、参考になるものであることを確認する。	生徒自身が気が付いていくよう助言を与える。	自分の目標を意識しながら本時を振り返っている。
------------------------	----------------------------------	-----------------------	-------------------------

(カ) 本時の学習評価

評価規準 「読む能力」	登場人物の生き方から現代人の生き方への教訓を読み取っている。
aと判断した具体的な状況	登場人物の生き方から現代人の生き方への教訓を読み取り、自分の問題として具体的に理解している。
bと判断した具体的な状況	登場人物の生き方から現代人の生き方への教訓を読み取っている。
cと判断した具体的な状況	登場人物の生き方から現代人の生き方への教訓を読み取っていない。
cの手立て	古語や古典文法に留意しながら正確な読解をするということの再確認をして正確な本文読解へと導く。その上で現実の自分の将来の希望を実現していく場面に沿った考えをまとめさせる。

評価規準 「関心・意欲・態度」	自分の将来の人生設計に関する大切なことについて考察を深めようとしている。
aと判断した具体的な状況	自分の将来の人生設計に関する大切なことについて考察を深め、自分の問題として具体的に理解しようとしている。
bと判断した具体的な状況	自分の将来の人生設計に関する大切なことについて考察を深めようとしている。
cと判断した具体的な状況	自分の将来の人生設計に関する大切なことについて考察に取り組もうとしない。
cの手立て	本文および教科書未採録部分の内容・筆者の提言への理解を確認し、将来設計が未確定である場合も含め、現時点で予想されることがらの考察をするための助言をする。

(キ) キャリア教育の視点に立った授業実践の成果と課題

[成果]

- ・徒然草に関する学習活動により、「自己理解能力」、「計画実行能力」、「課題解決能力」を育成することができた。

[課題]

- ・古典作品を「現代に生かす」ことの工夫が必要である。

< 成果 >

「古文を読むことを通して、古典という言語文化を正しく継承して現代に生かすとともに、古典への興味・関心を深める。」という単元目標を踏まえ、現実の高校生の生活とかけ離れた古典作品の世界をいかに現実と結び付けて行くかという点に留意した。時代的な背景は大きく異なってもそうした差異を取り除いたときの共通点をいかに提示できるかが重要である。古文から読み取れる人生設計に関する先人の知恵を参考にしながら、社会人として独り立ちするための心構えについて考えさせるよう心掛けた。

「ア 説教師を目指した者が目標を実現できなかった理由、及び『世間の人』が何もできずに終わる理由を考える」という学習活動では、特に「目の前にある雑事」に関しては、例えば自分の部活動で人間関係に煩わされて肝心の練習がおろそかになってしまった経験、勉強に取り組む前に日常生活での雑事の方が気になってなかなか取り組めなかった経験など、過去の自分の失敗例を上げ、「自分の問題」として考察ができていた。キャリア教育の視点に立った「本文の内容を自分のこととして振り返ることを通して、自己を理解する能力を育成する。」というねらいは達成できたと考える。

「イ 教科書本文に引き続いて教科書未採録の部分を全員で読み、自分の将来設計上、どんなことに留意すべきか自分の考えをまとめる」という学習活動では、「一番大切なことを即座に始めよ。」という筆者の主張に対して、自己の将来について考えた上で批判的な意見を述べる生徒や、自分の将来に重ね合わせて具体的に考えをまとめている生徒などがいた。そうした点から「自分自身の将来について具体的に考えながら振り返ることを通して、具体的な計画について考える能力を育成する。」というキャリア教育としてのねらいは達成できたと考える。

「ウ 本文から読み取れること以外で自分の目標の実現に欠かせない事柄として考えられることをまとめる」という学習活動では、自分の将来の目標が定まっている者と定まっていない者との差が現れた。「〇〇という免許を取得するために 大学 学部に入學し、〇〇になることを目指す。」というように、すでに将来の希望職種まで細かく目標を設定している生徒は、本文の内容に沿いながらも自由に自分なりの計画を細かく示すことができていた。一方、「進んだところで目標を探そうと思う。」というように、将来像の描けていない者は不十分な考察に終わった。こうした生徒には、将来の目標を設定するためには何が必要かを考えさせる指導が考えられるが、目標が明確でなくとも「迷いつつも考えながら進める所まで行ってみようと思う。」「目標を見付けるためにいろいろなことを経験していきたい。」というように、目標を探していく過程こそ重要であるとの認識に立っている生徒もあり、それぞれの考察はできていた。キャリア教育

の視点に立った「自分の将来の目標の実現のために必要なことを自分の力で考える」という試みは達成できた。

< 課題 >

「問題を見付けて解決する能力を育成する。」という点に関しては、具体的な進路希望が定まっているかによって生徒それぞれの問題の質・レベル・内容が異なることを認識させた上で、生徒の状況に応じた指導が必要であったと思う。

今後の全体的な課題としては、冒頭に示したように「時代的な背景は大きく異なってもそうした差異を取り除いたときの共通点をいかに提示できるか」ということがある。「キャリア教育」という今後の人生に普遍的にかかわってくる事柄では、古典作品をどれだけ「現代に生かす」ことができるかがポイントになる。そのためには、例えば、現代の様々な分野で活躍している社会人の様子や活動を紹介するといった補助的な学習も有効であると思われる。

古典と現代の社会とのつながりを意識して授業を行った結果、古典を自分たちにとって身近なものとして意識することができたようで、授業に取り組む生徒の姿勢が前向きになった。一方で、筆者と生徒の人生経験の差や生徒の人生経験の少なさから生じる、生徒と作品の中の人物との行動や価値観の違いを理解させることについての配慮も必要である。

徒然草 「ある者、子を法師になして（第百八十八段）」

ワークシートⅡ

クラス（ ） 番号（ ） 氏名（ ）

- 1 説教師を目指したものが目標を実現できなかった理由、「世間の人」が何もできずに終わる理由をまとめてみよう。【読む能力】

(説教師)

(世間の人)

- 2 今までの自分の経験の中で、文中で述べられている失敗と同じような経験はないか考えてみよう。

【読む能力】(自己教育能力・自己理解能力)

- 3 教科書未採録の後半部分から読み取れる6つのポイントを簡単にまとめてみよう。【読む能力】

①

②

③

④

⑤

⑥

- 4 自分の「将来に向けた大事な目標」を実現するためには、どんなことに注意したらよだろうか。

【関心・意欲・態度】(将来設計能力・計画実行能力)

- 5 これからの自分の将来の「目標」とそれを実現するために必要なことを考えてみよう。

【関心・意欲・態度】(意思決定能力・課題解決能力)

(2) 地理歴史

ア 日本史A

授業のポイント

- ・ 図版資料を用いたグループ活動により、大正時代の生活や産業について、労働という視点から考える。
- ・ 「情報収集・活用能力」、「コミュニケーション能力」、「役割把握・認識能力」の育成を図る。

(ア) 単元名 「(3) 近代日本の歩みと国際関係 イ 近代産業の発展と国民生活」

(イ) 単元の目標 都市や村落の生活の変化と社会問題の発生に着目して、近代産業の発展とそれが国民生活にもたらした影響について考察させる。

(ウ) 単元の総学習時間 8時間

(エ) 指導と評価の計画

評価の観点 a:関心・意欲・態度 b:思考・判断 c:資料活用の技能・表現 d:知識・理解

時間	学習項目・内容	評価規準	評価の観点				評価方法	キャリア教育の視点で生徒が身につける能力
			a	b	c	d		
1	大正時代の生活・産業を“働くこと”を通じて考える。	資料集、配布した絵から江戸・明治・大正の各時代について、気付いたことを記載しようとする。					ワークシート	【情報収集・活用能力】 【コミュニケーション能力】 【役割把握・認識能力】 「(オ)授業の計画」参照
	大正時代の導入として実施する。	大正時代の特色を時代的な背景を踏まえて考えることができる。					ワークシート	
2 8	朝鮮の植民地化	第1次世界大戦前後の日本の状況について関心を持ち、国際情勢と関連付けて意欲的に追求している。					ノート提出	【情報収集・活用能力】 理解を伴う知識を獲得し、日常生活においてその知識を活用する力を育成する。 【選択・決定能力】 歴史認識を深め、様々な問題に関する自己の意思決定の基準(価値観)を形成する力を育成する。
	大正デモクラシー							
	第1次世界大戦	第1次世界大戦前後の日本の状況を理解して国際情勢と関連付けて考察する。					(定期試験)	
	第1次世界大戦後の世界							
日本資本主義の成長	第1次世界大戦前後の日本の状況を文献・写真など様々な資料を用いて、追求し考察している。					ノート提出		
米騒動と社会運動						(定期試験)		
大正デモクラシーと文化	第1次世界大戦前後の日本の状況を国際情勢と関連付けて理解し、知識を身に付けている。					(定期試験)		

(オ) 授業の計画 (単元の1時間目)

< 本時の目標 >

- ・ 大正時代の導入として授業を行い、「江戸時代・明治時代・大正時代の産業・労働を比較する」ことにより、「大正時代がどんな時代であったか」をおおまかに理解する。
- ・ 産業・労働をテーマに江戸時代・明治時代・大正時代を理解する学習活動を通じて、歴史の中で先人たちがどのように生活してきたかを知り、現代社会において「働くこと」について考える基礎とする。

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育の視点での生徒が身につける能力	評価の観点 (評価方法)
導入 15分	<p>「江戸時代の仕事 (農民・職人など)」、「明治時代の女工労働・炭坑労働・公害 (足尾鋇毒事件)」の様子を資料集の図版で確認したあと、講義を聞き理解する。</p> <p>【使用する図版】 p.120 「農村の1年など」 p.164 「近代産業の発展」 p.167 「社会・労働問題の発生」</p>	<p>それぞれの状況を視覚的に短時間で把握させるためにスライドを使用する。</p> <p>あまり細部に踏み込まないよう留意する。</p> <p>気付いたことを発言させるなど、生徒の関心を高めるように授業を展開する。</p>	<p>授業の冒頭に、授業のねらいが、「大正時代の理解」と「働く事への理解」の二つであることを、説明した。</p> <p>【情報収集・活用能力】 導入・展開のそれぞれの活動で、指示された資料から必要な情報を主体的に選択、活用する能力を育成する。</p>	<p>「知識・理解」 (定期試験)</p>
展開 20分	<p>各グループに配付した大正時代の人々が働く姿を示す絵を見て気付いたことを指摘し合いながら、個人個人でワークシートに記入する。(グループ活動)</p> <p>「大正時代がどんな時代であったか」について考察し、意見を150字程度にまとめる。</p>	<p>机間指導により、大正時代の労働について理解が深まるよう指導する。</p> <p>「江戸時代や明治時代との比較」や、「大正時代の人々に“働くこと”がどんな意味があったのか」などの視点から記載するよう指導する。</p>	<p>【コミュニケーション能力】 グループ内での意見交換により、学習の指示に対するより適切な解答を導き出す力を養う。</p>	<p>「思考・判断」 (ワークシート) 「関心・意欲・態度」 (ワークシート)</p>
まとめ 15分	<p>第1次世界大戦による急激な工業の発展により、人々の生活がどのように変化したか、について講義を聞き理解する。</p> <p>ワークシートにまとめを記載する。</p>	<p>最後に講義を行うことで、本時の学習内容を歴史的に確認するとともに、知識の定着を図る。</p>	<p>【役割把握・認識能力】 第1次世界大戦、産業、生活について、まとめることで、大正時代の社会の全体像を理解する力を養う。</p>	<p>「知識・理解」 (定期試験)</p>

年表により大正時代の出来事を示しながら講義をする。

1912 友愛会結成

1914 第1次世界大戦勃発 大戦景気

1916 工場法施行

1919 戦後不景気はじまる

1920 東京で最初のメーデー

1923 関東大震災

1925 普通選挙法・治安維持法公布

(カ) 本時の学習評価

評価規準 「関心・意欲・態度」	資料集、配付した絵から江戸・明治・大正の各時代について、気付いたことを記載しようとしている。
aと判断した具体的な状況	ワークシートの記載内容が、それぞれの時代の特色を示すものとなっている。
bと判断した具体的な状況	資料集・配付した絵などから、江戸時代・明治時代・大正時代について、気付いたことを、それぞれワークシートに記入している。
cと判断した具体的な状況	資料集・配付した絵などから、江戸時代・明治時代・大正時代について、気付いたことを、ワークシートに記入していない。
cの手立て	他の生徒に記入内容を発言させるなどにより、学習活動の視点を意識させ記入を促す。

評価規準 「思考・判断」	大正時代の特色を時代的な背景を踏まえて考えることができる。
[評価のポイント]	
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な視点から大正時代の特色をとらえている。 ・産業の発達・労働環境の変化の視点から大正時代をとらえている。 ・近代産業の発展が国民生活の変化に大きな影響を与えていることに気付いている。 	
aと判断した具体的な状況	ワークシートの記載に、上記ポイントについての深い考察が認められる。
bと判断した具体的な状況	ワークシートの記載に、上記ポイントのいずれかが認められる。
cと判断した具体的な状況	ワークシートの記載に、上記のポイントが認められない。
cの手立て	ワークシート評価の際にポイントを指摘し、再提出させる。

思考判断を a とした生徒の記載例（「大正時代がどんな時代だったと思うか？」）

<ul style="list-style-type: none"> ・重工業中心の産業構造となり、女性も社会進出をするようになり、産業が急速に発展した。それに伴い、民衆が自分の意見を言うようになり、組合運動や民衆運動が盛んになる。その背景として、戦争の影響が考えられる。 ・第1次世界大戦の影響で産業構造が変化した。メーデーにおいて労働者の権利が主張され、今までは働くことが当たり前だったけど、大正時代は民衆が自分の意見を持って働く時代だと思う。また、女性の社会進出の絵からは、仕事を選ぶことのできる時代になったことがわかった。

(キ) キャリア教育の視点に立った授業実践の成果と課題

[成果]

- ・グループワークを用いて江戸・明治・大正の3つの時代を考察する学習活動により、「情報収集・活用能力」、「コミュニケーション能力」、「役割把握・認識能力」を育成することができた。

[課題]

- ・教科ごとのキャリア教育の視点に立った授業展開の検討が必要である。

< 成果 >

単元の導入で行ったグループワークでは、用意した写真資料から時代の特色を取り出す学習活動を通して、情報収集・活用能力やコミュニケーション能力を育成することができた。また、この展開は、大まかな時代の流れをつかませ、その時代への関心を高めるとともに、歴史的な見方や考え方を身に付けさせるのに有効であった。このことは生徒のワークシートの記入内容からも確認できた。

また、江戸・明治・大正の三つの時代を「働くこと」という視点で比較する学習活動は、各時代の社会的特徴を労働者の視点でとらえ、「生徒自身が将来働くこと」に関連づけて考えるきっかけを提供できたことが、次の生徒の感想【参考】などから理解できた。

< 課題 >

高等学校段階で身に付けるべきキャリア諸能力は多様であり、教科学習だけでなくすべての教育活動において育成されるものであることは言うまでもない。教科学習においては、1科目(ここでは日本史A)で10能力を網羅できるものではなく、果たしてこの科目のこの単元でどのようなキャリア能力が養えるのか、十分に「教材研究」をすることが必要である。今日までの高等学校において、教科ごとにキャリア教育の視点に立った展開の検討がなされていないことは課題であり、教科研究の場等で取り上げられることが望まれる。

また、生徒に定着させたいキャリア能力を設定して授業を行う以上「その実現状況を評価し、次の授業の改善の材料とする」ことが求められると考えるが、1時間の授業の中でキャリア諸能力に対する評価を含む教科としての評価を行うことは現実的には難しかった。「評価＝授業改善のための情報収集」という観点からも、教科目標とキャリア能力の評価の関連についての研究を進める必要がある。

【参考】生徒の感想に見られる「働くこと」についての意見

【生活のためという意見】

- ・ どの時代も人が生きるためにはお金が必要で、お金を得るためには働くしか方法がないから人は働くのだと思う。
- ・ 働いてお金をもらって食べていくだけではなく、大正時代では、自分のやりたいことを求めて働く人も出てきたことがわかった。

【「自己実現」・「生きがい」のためという意見】

- ・ 人が働くのは、「生きるため」であり、「人生の生きがい」を見つけるためだと思う。
- ・ 自分がやってみたいことを極めていく。お金ももちろん必要だけど、自分がどこまでやれるのかか、夢を実現できるのかか、チャレンジするために働く。
- ・ 「生きるため」と「生きがい」が大きな定義だと思う。働かなきゃ生きていけないし、生きがいとなくなるとは仕事を続けて行くことができない。
- ・ 江戸・明治・大正への産業の発展や、働くことを改めて考えさせられた。こういった授業は学ぶことが多いので、これからも取り組みたい。
- ・ 大正時代の人たちはそれまでの時代と異なり、自分で自分の生活を豊かにしていこうと考え始めた。
- ・ 大正時代は人々の生活・考え方などが大きく変わった時代だと思った。仕事の変化は生活に大きくかかわってくることなので、経済的にも精神的にも良い方向に代わっていった大正時代は重要な時代である。

【自己の将来と重ね合わせた意見】

- ・ 今、仕事がたくさんあって自由に選べるのが幸せだと思いました。自分も生き甲斐になるような仕事を見つけない。
- ・ 人は、自分の生活のため、より豊かな生活を求めて、そして生き甲斐・やりがい・自分の夢を果たすために働くと思う。また、「国に対してもの申す」ためにも働くと思う。
- ・ 今の私たちは本当に自由な選択・意志をもてるのだとわかった。だから、今のうちから自分の夢をもてるのだと思う。自分のやりたい仕事に就いて、満足のいく将来を歩むべきだと思った。

【資料】

展開場面で生徒に配布する資料の例（A3紙に印刷して、各班2枚配布した）

大正時代の様子

写真1

「丸ビルに通勤する人々の様子」

写真2

「サラリーマンの服装や様々な持ちもの」

写真3

「1920年第1回メーデーが上野公園で開かれた様子」

写真4

「労働運動と農民運動の参加人数、争議件数、労働組合数の変化のグラフ」

写真5

「働く女性・バスガール」

写真6

「働く女性・タイピスト」

写真7

「ラジオ放送の開始・女性アナウンサーの登場」

(ワークシート)

日本史A 「大正時代の生活・産業を『働く』を通して考える」

① 江戸時代・明治時代の産業についての講義
2年 組 番

講義メモ

《資料集の習書ページ》
P120「農村の1年ごと」 P164～「近代産業の発展①②③」 P167「三合・労働問題の発止」

② 大正時代の絵を見て気づいた点を記入してください。(箇条書き・いくつでも可)

大正時代

※ 「江戸時代・明治時代とどこが違うか」という視点で記入してください。

③ 大正時代がどんな時代だったと思うか、記入してください(自分の考えを、50文字程度の文にしてください)

※ | 当時の人々に「働く」とはどういう意味があったか、| 江戸時代・明治時代と比べて何が違うのか | 等の視点で書いてください。

④ 大正時代についての講義

講義メモ

⑤ まとめ
[人はなぜ働くと思いますか、あなたの意見を書いてください。]

[本日の授業でわかったこと・感想などを書いてください。]

⑥ 本日の授業を振り返って
授業に積極的に取り組むことができた (A B C)
自分の意見を持ち、まとめることができた (A B C)
最初と最後の講義がよく理解できた (A B C)

(3) 公民

ア 政治経済

授業のポイント

- ・ プラザ合意以降の日本経済の変容や今日的諸問題についての理解を深めるとともに、労働や職業についての意見交換などを行う。
- ・ 「情報収集・活用能力」、「役割把握・認識能力」の育成を図る。

(ア) 単元名 プラザ合意以後の産業構造の変化

(イ) 単元の目標 経済の基本的な仕組みに関して理解を深め、円高基調、バブル経済を経てわが国の産業構造が大きく変化した様子を踏まえ、今日の国内および国際経済の諸問題を探究する。

(ウ) 単元の総学習時間 9時間

(エ) 指導と評価の計画

評価の観点 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断 c：資料活用の技能・表現 d：知識・理解

時間	学習項目	評価規準	評価の観点				評価方法	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力
			a	b	c	d		
1	人間と経済 経済社会の変容	日常生活における経済活動を想起し、経済の生活への影響について関心が高まっている。					学習観察 ワークシート	【役割把握・認識能力】 日常生活における経済活動を認識することで社会の中での自己の多様な役割を理解する。
2 4	現代企業の特色と社会的責任	資本主義経済と社会主義経済の特徴・変容を踏まえ、現代経済の特徴を多面的に考察している。					提出物 (レポート)	【情報収集・活用能力】 資本主義の理論と現実を資料から整理することで諸能力を育成する。
		資本主義における企業活動と課題を、資料を基に整理している。					学習観察 ワークシート	
5 8	日本経済の発展と産業構造の変化	第2次世界大戦後の日本経済を、国際状況の変化との関連からとらえられている。					ワークシート	【役割把握・認識能力】 【情報収集・活用能力】 戦後の日本経済の動向を資料から整理し、各年代ごとに社会観と職業観を意識することで諸能力を養う。
		戦後日本経済史について、その背景、特徴、影響に関する知識を身に付けている。					(定期試験)	

		今日の経済状況、雇用状況について、歴史的・国際的要素を踏まえて考察を深めている。				ワークシート	【自己理解能力】 ワークシートに時代や社会状況に応じた職業観をまとめることで自己理解を深めさせる。
9	経済の在り方と国民生活、福祉の向上	現代経済の在り方と福祉の向上との関連について考察し、その過程を適切に整理できている。				提出物 (レポート)	【職業理解能力】 現代の経済的な課題を考察することで、社会における自己の在り方への意識を深める。

(オ) 授業の計画 (単元の8時間目)

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	評価の観点 (評価方法)
導入 5分	a 前時までの内容確認を行う。(復興～高度経済成長) b 高度経済成長期であればどのような仕事に魅力があるか、生徒に問いかける。	前時にワークシートに記入したのから事例を紹介し、1960年代の魅力等を考える。(本時の内容との比較に活用する。)		「関心・意欲・態度」 (学習観察) 「資料活用 of 技能・表現」 (ワークシート)
展開 35分	a プラザ合意(1985年)と以後の日本経済の変容(バブル経済と不良債権・平成不況・雇用の変化、及び今日的な特色と諸問題)について、政府の政策や世界経済の動向や特徴等にも適宜触れながら、解説と発問によってワークシートに要点を記入していく。 b 今日の諸問題の一つである、フリーターやニート、ワーキングプアを取り上げ、資料からその背景・現状・問題の所在等をワークシートにまとめ、隣の人と意見交換する。	歴史的事象の羅列で終わらないよう留意する。経済の理論と現実の相違点を意識できるよう例示を工夫する。 (授業のペースと理解の度合いを量るためワークプリントのチェック項目を利用する。)	【役割把握・認識能力】 時代の流れ、社会の変化を踏まえて経済社会と自己との関係を理解する。 【情報収集・活用能力】 資料を基に今日の課題を多面的にとらえる力を養う。	「思考・判断」 (ワークシート) 「知識・理解」 (学習観察) (定期試験)

ま と め 10 分	次の時間の導入として、「2010 年代に就きたい職業・やってみたい仕事」等についてワークシートに記入する。高度成長期の職業観、魅力ある仕事との比較を行い、社会と労働との関係を考える。	人それぞれが様々な勤労観や夢、職業観を持っていることをクラスメートたちの事例を通して理解させ、経済社会への意識・意欲を高めていく。	【自己理解能力】 「(工)指導と評価の計画」参照	「資料活用の技能・表現」 提出物(ワークシート)
------------------------	---	---	-----------------------------	-----------------------------

(カ) 本時の学習評価

評価規準 「思考・判断」	プラザ合意後の日本経済や社会の変容について、歴史的・国際的要素を踏まえながらその特徴や諸問題を理解し、考えることができる。
[評価のポイント]	
<ul style="list-style-type: none"> ・今日の産業構造の変化の特徴や課題についてとらえているか。 ・今日の経済状況・雇用状況について歴史的要素を踏まえながら考え、理解しているか。 ・今日の経済状況・雇用状況について国際的要素を踏まえながら考え、理解しているか。 	
a と判断した具体的な状況	今日の状況に関して、その特徴や課題を複数の事例にわたって挙げることができ、併せて歴史的・国際的な要素も踏まえてよく理解し、考えることができている。
b と判断した具体的な状況	今日の状況に関して、その特徴や課題の事例を挙げるができる。また、歴史的な要素あるいは国際的な要素のいずれかを踏まえて理解し、考えることができている。
c と判断した具体的な状況	今日の状況に関しての理解に乏しく、現状についての課題がつかめていない。
c の手立て	ワークシートを用いて要点についての解説を行い、現状の課題を自由に記述させる。

(キ) キャリア教育の視点に立った授業実践の成果と課題

[成果]

- ・現代の課題と今後の方向性について、グループワーク等で他者との意見の交換、考察を行うことで、「情報収集・活用能力」、「役割把握・認識能力」を育成することができた。

[課題]

- ・経済に関する基本的な理解の不足による学習意欲の低下への対応に工夫が必要である。

授業実践においては3年生の必修選択、政治経済(4単位)の26名を対象として授業を行った。授業に当たり次の点を意識・重視して授業を展開した。

経済分野の学習においては、基本的な概念や理論の理解の上に立って、「なぜだろう」、「どうして」という疑問を持つように指導し、疑問に対しては、理論を押さえながら論理的な説明を加えて理解させる。

ワークシート(プリント)に合わせて発問1~8を行い、質問シートを活用して思考能力を養い、知識の深化・定着を図る。

コミュニケーション能力を高める手法を取り入れる。(質問シートを活用しての意見交換等)

本時の内容では、プラザ合意やベルリンの壁崩壊・ソビエト連邦の解体後の世界情勢の変化や今日のIT産業の飛躍的な発展とIT社会の到来により社会が一層複雑化し、また、多様な価値観や諸問題が存在する今日の社会を認識させる。

社会との関連性をもって、勤労の意義や義務について考えさせ、人として生きていく上での社会に対する責任の大切さを理解させる。

授業の流れ

本時では、「高度経済成長期以降の経済状況と魅力ある職業」等の問いかけから始め、プラザ合意（1985年）や「ベルリンの壁」の崩壊（1989年）、ソビエト連邦の解体（1991年）等の世界情勢の変化が世界経済に大きな変革をもたらした点を確認した。その上でわが国の国内経済についても、産業構造の変化や政府による「構造改革」推進をもたらした点等について、適宜、発問を入れながら生徒に配付したワークシート（プリント）を使用して学習を進めた。

今日のIT産業の飛躍的な発展と、社会のグローバル化の中で、多様な価値観や諸問題の存在を認識・理解し、経済史上の諸事象が社会の変化にプラスとなった点や逆にマイナスとなっていた点などを考えさせた。キャリア教育に則して、時代・社会を背景とした職業・勤労の意義や学習の大切さについて考察し、認識する機会とした。

< 成果 >

日本経済史の学習では、単に歴史的事象の理解だけに終わるのではなく、経済に関する基本的な理解を実際の経済社会の動態の中で確認し、今日の諸課題を意識して考察する糸口とさせることが肝要である。本時は第二次世界大戦後の日本経済史3時間分の最終時にあたり、「実感なき好景気」に至る動きを概観したあと、ニート問題に代表される現代の課題と今後の方向性についてグループワーク等で他者との意見の交換を行う時間を設けることで、役割把握・認識能力、情報収集・活用能力を育成することができた。キャリア諸能力の育成を図ることができる教材が多く含まれる単元である。

政治経済は主権者を育てていくという目的の他に、キャリア教育においても重要な役割を担う科目である。従来から行われてきた学習内容に、キャリア教育の観点を加味し、論理的な手法を用いて授業を展開することで、より有意義な形で生徒の諸能力の育成につなげることができる。

< 課題 >

政治経済においてキャリア教育を考える場合、その素材となるものや機会はたくさんある。それだけにどれをどのように扱って、より有効に活用していくのが逆に難しい点にもなる。

また経済は、政策や社会変化という要因があって次の社会事象が生まれる、という因果関係が必ずあり、実際の動きを論理的に説明できるおもしろさがある。この単元でもこのことを理解させ、学習意欲の向上につなげたいところであったが、経済の基本的な理解が十分でないことから、逆に経済は難しいと思い込み、学習意欲の差も出てきてしまっている分野である。身近な話題を用いた学習活動から学習意欲を持たせ経済の基本的な理解に進める工夫も必要である。経済分野の導入単元の重要性とともに、どの単元でも本時質問シートの「2010年代に就いてみたい職業・やってみたい仕事」等の紹介のように、意思表示や意見交換の場と時間を余裕をもって設けることが、キャリア諸能力育成とともに大切である。

< 質問シートについて >

本時では、質問シートを活用して「2010年代に就いてみたい職業、やってみたい仕事」の紹介をしたにとどまったが、意思表示や意見交換の場と時間を設けることにより、コミュニケーション能力を育成できるのではないかと考える。

[質問シート] 発問 1 ~ 8 に対する生徒の回答の一部 (授業での展開は p.62 ~ 63 参照)

発問 4 「人はなぜ働くのでしょうか、働く意味とは何でしょうか。」

生きていくため。自分自身を高めていくため。
社会の中で役に立つため。 お金がなければ生きていけないから。
収入をえるため。 自分と人のために働く。 生きがいを見つけるため。
自分の才能や能力を伸ばしていく。 やりがいをえるため。
生きるために、好きなことをして収入をえたい。 家族を養うため。

発問 7 「2010年代に就いてみたい職業・やってみたい仕事は何ですか。」

商社マン 弁護士 IT関係 調理師 看護師
銀行員 教師 喫茶店経営 プロ野球選手
保育士 (子供が好きだし、面倒をみたいから) 脚本家
添乗員 (色々な人と出会えて色々な場所にいけるから)
パティシエ お笑い芸人 調教師 市役所職員 ラーメン屋
キャビンアテンダント 秘書 ブリーダー 駅員
ビューティーアドバイザー 公務員 (安定しているから)

発問 8 「仕事で喜びを感じる意味とは何だと思えますか。」

仕事で成功したとき。好きなことをしてお金がもらえること。
目標を達成することで精神的にも物理的にも満たされる。
お客様に喜んでもらったとき。 仕事をする中で自分が成長していく。
食べた人も幸せにできる (パティシエ)。
接客で人が笑顔になり、トークで日ごろのストレスを発散し、すっきりして喜んでくれたとき。 やりがいを見つけたとき。
自分で納得のいくものが作れたとき。
自分が苦勞することによって、一人でも幸せなってくれればうれしい。
人に喜んでもらったとき。

資料 授業で使用した教材・プリント等

教科書：新政治・経済 (清水書院) 副教材：最新政治・経済資料集 2006

自主作成プリント「日本経済の発展と産業構造の変化」、「発展学習プリント」

「かながわ若者就職支援センター」パンフレット

日本経済の発展と産業構造の変化 ワークシート (プリント) NOI

1 戦後の経済民主化と復興

- 国民の三大義務とは：①子供に普通教育を受けさせる義務、②納税の義務、
 ③(1.)の義務
 労働三権とは(憲法28条)：①団体交渉権、②団体行動権、③(2.)
- 第二次世界大戦の被害
 生産施設の被災、原材料の欠乏→生産力低下、敗戦時未決済の臨時軍事費、終戦処理→
 財政支出の増大→インフレ、物資・食糧不足、飢餓、失業者増大

【戦後の復興 1945～54】

- ① 生産の復興
 ○傾斜生産方式 基幹産業(石炭・鉄鋼)への資材・資金の集中→他産業へ波及
 ○(3.)の対日援助→ガリオア資金(1946～51)、エロア資金(1948～51)
- ② 経済民主化(三大政策)
 (1)財閥解体
 (2)農地改革 農業改革失業の発生
 (3)労働改革(労働組合の保護・育成)

発問1 「戦後5年間の日本経済の様子をまとめてみよう。」

【日本経済の回復】

- ①経済回復九原則・・・ドッジ・ライン 超均衡予算の編成、
 1ドル=(4.)円の単一為替レート設定→インフレの収束→デフレへ
 ②(5.)(1950～1953)・・・特需景気→外貨獲得→重化学工業化

発問2 「この戦争が日本に与えた影響を調べてみよう。」

2 高度経済成長と日本経済の発展

- 【高度経済成長期の日本 1955～73】 生活水準戦前並回復(1955)
 ものづくり日本 (6)制、年功序列(年功賃金)の日本型雇用体系
 就職列車 金の卵=中学校卒業生 農村からの人口流入
 ○神武景気(1954.11～57.6) 設備投資中心、
 経済白書：「もはや(7.)ではない」1956(昭和31)年
 ○岩戸景気(1958.6～61.12) 消費ブーム、大衆社会の到来、
 池田勇人首相：「国民所得倍增計画」

- (8.)(1962.10～64.10) 輸出好調、建築投資ブーム
 ○(9.)(1965.10～70.7)：GNP(国民総生産)が
 世界第(10.)位の経済大国に成長

★ 高度経済成長期に日本は大いに発展をとげた!

発問3 「映画『ALWAYS三丁目の夕日』やインターネット等から当時の様子を映像や写真で探ってみよう。」

発問4 「人はなぜ働くのか、働く意味を考えてみよう。高度経済成長期にはどのような職業に魅力があったか考えてみよう。」

- 列島改造ブーム(1971.12～73.11)：(11)内閣の「日本列島改造計画」による積極拡大策→物価上昇
 ☆(12) = (ドルショック)：米の金本位制中止→世界経済に影響
 ◎経済成長の要因・・・技術革新、高い貯蓄率、教育の普及(高校進学率の上昇)
 (年平均10%以上) 政府の保護・助成政策、固定為替レート(日本にとって円安は輸出に有利であった)
 ★「第一次(13.)(14.)年・・・(15.)(石油輸出国機構)による原油の大幅値上げ→狂乱物価、戦後初のマイナス成長→統制経済の展開[安定成長の時代]」

高度経済成長の終焉→景気刺激策としての建設国債・特例(赤字)国債の発行=累積する国債残高

3 石油危機以降の日本経済世界的不況

- ① 第一次(13.)：(14.)年 石油価格の引き上げと供給制限
 第二次石油危機：1979年
 ② スタグフレーション(景気停滞と物価上昇)
 ③ 変動相場制への移行→円高(輸出減速)→1974マイナス成長へ
 安定成長 国民の中流意識の広がり

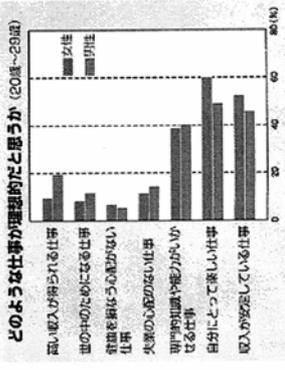
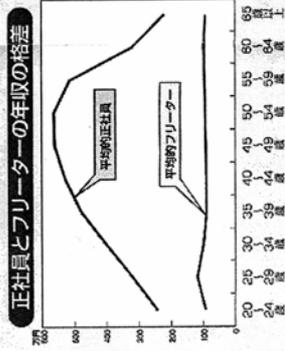
- ① 石油危機・円高不況対策・・・減量経営・省エネ・省資源型産業へ→国際競争力回復へ→貿易摩擦の深刻化
 ② 公共投資増で需要創出→赤字国債の発行→財政悪化→財政再建の必要性
 ③ 輸出依存型→内需主導型へ→輸入を増やす・赤字減らし→貿易摩擦の緩和

発問5 「高度経済成長期の要因が今の日本経済にあるかどうか話し合ってみよう。」

クラス() NO() 氏名()

日本経済の発展と産業構造の変化 ワークシート (プリント) NO2

- ④ プラザ合意 (15.) 年→円高→日銀超金融緩和策→円高好況→余剰資金→証券・土地などへの投資→資産価格高騰→ (16.) 経済 1986年～
1989年(17.)の崩壊 1991年(18.)連邦の解体
 - ⑤ 1990年秋の株価大暴落、金融機関の不良債権急増→ (16.) 経済の崩壊 1991年→不況へ
→日本経済の(19.)=再構築、産業空洞化
- 発問6 「当時の家族の職業について家で家族に聞いて、経済状況の変化の様子を確認しよう。」
- 4 産業構造の変化と経済のソフトラ・サービス化
 - ① 第一次産業の比重低下→第二次・第三次産業比重大
 - ② 重化学工業(素材産業)比重大
 - ③ 石油危機・NIEsの追い上げ→高度成長の行き詰まり、エネルギー大量消費へ
産業構造の高度化 省資源・省エネルギーの推進
→資源集約型産業から知識集約型産業へ
 - ④ 経済のソフトラ・サービス化・・・情報・サービスの価値高まる→メカトロニクス、ME革命 (ICなどの半導体技術の進歩)、マルチメディア
 - ⑤ 経済の情報化
 - (20.)ビジネスの急成長→電子商取引の拡大
 - 情報技術産業・IT産業の成長
 - 人材派遣会社の成長と拡大
 - ⑥ 世界市場における中国や (21.) などのアジア諸国の経済急成長と躍進



資料:「かながわ若者就職支援センター」パンフレットより

「質問シート」の例

☆質問シートに記入してみよう。

- 〔質問シート〕
- Q1 「人はなぜ働くのでしょうか、働く意味とは何でしょうか。」
- 〔 〕
- Q2 「2010年代に就いてみたい職業・やってみてみたい仕事は何ですか。」
- 〔 〕
- Q3 「仕事で喜びを感じる意味とは何だと思えますか。それは時代や社会によって違いはありますか。」
- 〔 〕

発問7 「君たちが職業に就く2010年代に就いてみたい職業、やってみてみたい仕事は何ですか。」

発問8 「仕事で喜びを感じる意味とは何だと思えますか。それは時代や社会によって違いはありますか。」

クラス () NO() 氏名 ()

(4) 数学

ア 数学

授業のポイント

- ・ 線形計画法について文化祭など身近な題材を扱いながら理解を深めたあと、生徒が自分で問題と解答を作成する。
- ・ 「職業理解能力」、「自己表現能力」の育成を図る。

(ア) 単元名 図形と方程式 軌跡と領域

(イ) 単元の目標

- ・ 関心・意欲を持ち、軌跡や領域について学習することができる。
- ・ 軌跡や領域についての概念を理解し、数学的な見方や考え方ができる。
- ・ 軌跡や領域について、図形の方程式を求めたり、領域を図示したりすることができる。
- ・ 軌跡や領域についての基礎的な知識を身に付ける。

(ウ) 単元の総学習時間数 8時間

(エ) 指導と評価の計画

評価の観点 a：関心・意欲・態度 b：数学的な見方や考え方 c：表現・処理 d：知識・理解

時間	学習項目	評価規準	評価の観点				評価方法	キャリア教育の視点 での生徒が身に付ける能力
			a	b	c	d		
1	軌跡の方程式	条件を満たす図形の方程式や軌跡に興味・関心を持つ。					(定期試験)	【職業理解能力】 【自己表現能力】 線形計画法が社会で活用されていることを理解し、問題を自作する中で、職業理解能力や自己表現能力を身に付ける。 (留意点) できるだけ身近な活動や学校生活の場面・生活や職業と関連し有用性等に触れて扱い生徒が興味・関心を持つように配慮する。
2	軌跡の方程式と図形	軌跡の考え方を活用し、円等がかかることを理解する。					学習状況の観察(板書演習他)	
3	不等式の表す領域	不等式と領域の基本的な表現や用語・記号を理解する。					(定期試験) 提出物	
4	同上及びその応用	いろいろな不等式を変形して処理することができる。					学習状況の観察	
5	連立不等式の表す領域	連立不等式の表す領域について表現・処理する方法を理解している。					(定期試験) 学習状況の観察	
6	積の式の不等式と領域における最大・最小	積の式の不等式の領域や、領域における最大・最小などを理解し、図や表から処理し問題を解決する。					小テスト	
7	領域における最大・最小	領域における最大・最小について、線形計画法の数学的な見方や考え方を理解し、身に付ける。					提出物 学習状況の観察	
8	節のまとめ	事象を数学的にとらえ、論理的・発展的に処理できる。					(定期試験)	

5 授業実践例 数学

(オ) 授業の計画 (単元の7時間目)

<学習のねらい> 領域と最大・最小を関連させた問題を解く際に、連立1次不等式の領域を利用した解法(「線形計画法」)が使える。本時はその応用の演習を通して数学を活用する力の育成を図る。

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	評価の観点(評価方法)
<p>導入 15分</p> <p>展開 27分</p> <p>まとめ 8分</p>	<p>前時の復習をする。(板書)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>復習 $x \geq 0, y \geq 0$ のとき、連立不等式</p> $\begin{cases} x + 2y \leq 70 \\ 4x + y \leq 140 \end{cases}$ <p>を満たす x, y について、$x + y$ の最大値を求めよ。</p> </div> <p>本時の学習内容を説明する。 『不等式の領域を利用した最大・最小問題で応用問題を理解し身に付けよう』</p> <p>応用問題を取り扱う。</p> <p>応用問題を板書する。生徒に問題記載済みのプリントを配付する。各自が取り組む時間を設定する。(3~5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>応用問題 文化祭である団体が、1個100円のクッキーセットとビスケットセットを各1個作るのに、小麦粉はそれぞれ、10gと20g使い、バターは3gと1gを使う。小麦粉は1600g、バターは180gまで使え、作れば全て売り切れるという。このとき、売り上げが最大となるにはそれぞれ何個作ればよいか、また、そのときの売り上げの合計はいくらになるか答えよ。ただし、他の材料は十分あると考える。</p> </div> <p>プリント演習(別紙)</p> <p>演習プリントを用いて、まとめの演習に取り組む。(机間指導)</p> <p>生徒各自が問題の自作に取り組む。</p> <p>問題自作演習用紙を配付する。</p>	<p>前時の復習として、x, y の1次不等式で表される領域の作図を確認する。</p> <p>注意 『この復習問題の解き方は、次の応用問題でも利用します。ノートにグラフを書いて解答して下さい』</p> <p>発問 『問題文から、何を x, y とするか考えよう』『どのような2つの不等式が作れるかを考えよう』</p> <p>できるだけ身近な活動の場面から問題を取り上げ、生徒が興味・関心を持つように配慮する。</p> <p>指示 『復習を参考にし、て解いてみよう』</p> <p>一般の企業活動で、線形計画法が利用できること、未知数が多すぎると多い問題があること等にも触れて説明する。</p> <p>学習のまとめ等もプリントの中に一部入る。</p>	<p>【職業理解能力】</p> <p>新しい解き方・考え方に取り組み際に、既知の知識を活用した利益の最大・最小の考え方を説明することと、線形計画法の有用性や経済活動での利用法等について触れ、線形計画法が社会で活用されていることを通して職業理解能力を育成する。</p> <p>配布プリントの内でも関連した能力の育成を図る。</p> <p>【自己表現能力】</p> <p>問題の自作を通して自己表現能力を育成する。</p>	<p>「数学的な見方や考え方」(授業観察-質問、発言等)</p> <p>(授業観察-質問、発言等)</p> <p>(提出物)</p> <p>(演習中の机間指導による観察等)</p> <p>(プリント演習・提出)</p> <p>(問題自作の課題提出)</p>

(力) 本時の学習評価

評価規準 「数学的な見方や考え方」	線形計画法の学習の際に、既知の知識等を活用して新しい見方や考え方ができ、自らの考えを発展させる等しながら問題の自作に取り組む。
aと判断した具体的な状況	新しい見方や考え方ができ、自らの考えで問題を自作できている。
bと判断した具体的な状況	新しい見方や考え方ができるか、または、自らの考えで問題を自作できている。
cと判断した具体的な状況	新しい見方や考え方も、問題を自作することもできない。
cの手立て	授業プリントの復習・反復を行い自作問題の完成まで指導する。

(キ) キャリア教育の視点に立った授業実践の成果と課題

[成果]

- ・ 線形計画法の学習活動により、数学と社会・職業生活との関連についての理解を深めることができた。
- ・ 問題を自作することで自己表現能力を育成することができた。

[課題]

- ・ 職業理解能力を育成する上での多様な教材の例示が必要である。

< 成果 >

領域と最大・最小の内容の学習の、線形計画法の作図による解法の理解及び演習等を通して、実生活、社会生活や経済活動において数学が活用されている状況を学ぶことができ、数学と社会・職業生活との関連についての理解を深めた。また問題を自作する演習では、自分の身近な経済活動等と学習内容を結び付けて考え、適切に表現することができた。

< 課題 >

自作した問題を提出させるだけで発表させる場面を時間の関係で設定できなかった。発表まで行っていれば発表する側、発表を聞く側の双方に対して自己表現能力や他者理解能力などの育成が期待できるが、発表時間の確保は課題である。職業理解能力を育成する面では、さらに多様な教材の例示が必要である。

学習活動全般としては、文化祭の物品販売の活動を例示したことで数学が身近なものとなり、学習の動機付けができた。また、問題を自作することで問題を解く以上の学習内容の理解の深まりが見られた。

【生徒の声から】

線形計画法について

- ・身近なことに使えるのはすごいと思った。
- ・将来、経営するときにお金の支出の目安にもなるので役に立つと思った。
- ・数学って奥が深いなと思った。
- ・数学は意外と役立つものだなと思った。
- ・線形計画法って便利だなと思った。利益とかも分かって。

自作問題演習について

- ・問題作るのも大変なことだと思った。
- ・難しかった。さらに理解が深まったと思う。
- ・実際、問題を作って解くと難しかったが、より内容を理解できた。
- ・数が適当だったので解くのに苦労した。
- ・自分で問題を作ってよくわかるようになった気がする。
- ・自分で作る問題をやるのは新鮮だった。
- ・難しかったけど、意外に役立つと思った。
- ・出来たときがすごくうれしかったし、楽しかった。



応用問題

文化祭である団体が、1個100円のクッキーセットとビスケットセットを各1個作るのに、小麦粉はそれぞれ、10gと20g使い、バターは3gと1gを使う。小麦粉は1600g、バターは180gまで使え、作れば全て売り切れるという。

このとき、売上げが最大となるにはそれぞれ何個作ればよいか、また、そのときの売上げの合計はいくらになるか答えよ。

ただし、他の材料は十分あると考える。

(解答欄)

演習プリント

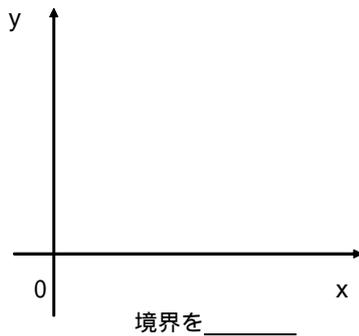
領域と最大・最小のまとめプリント (線形計画法)

1. 次の連立不等式の表す領域を図示しなさい。(下線部は適宜、適語・式を記入せよ)

復習(1)

連立不等式

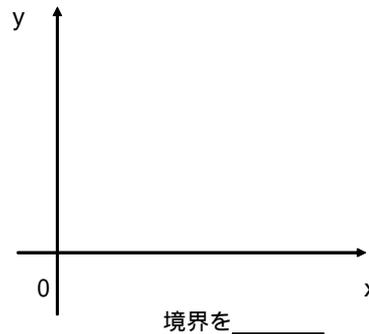
$$\begin{cases} 0 < x < 4 \\ 1 < y < 2 \end{cases}$$



復習(2) $x \geq 0, y \geq 0$ のとき

連立不等式

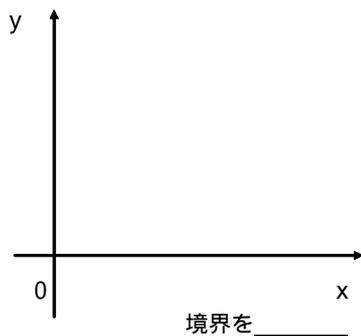
$$\begin{cases} y \leq -x + 3 \\ x + y \leq 1 \end{cases}$$



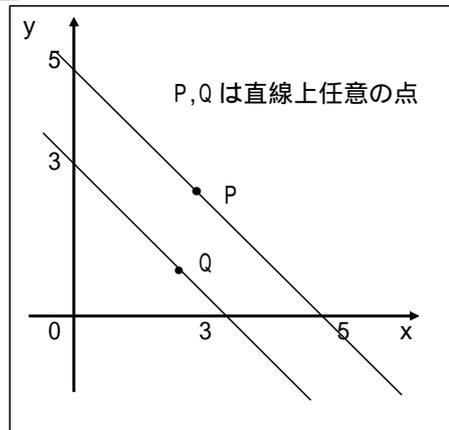
復習(3) $x \geq 0, y \geq 0$ のとき

連立不等式

$$\begin{cases} x + 2y \leq 6 \\ 3x + y \leq 6 \end{cases}$$



重要【補説1:直線上の点とy切片の値の関係】



- (a) 直線 上の任意の点 $P(x, y)$ については、
つねに $x + y = \underline{\hspace{2cm}}$ が成り立っている。
直線 上の任意の点 $Q(x, y)$ については、
つねに $x + y = \underline{\hspace{2cm}}$ が成り立っている。
この意味を考え、次の下線部にも答えなさい。
- (b) ある点 $P(x, y)$ があり、 x, y 座標の和について
等式 $x + y = k$ が成り立つとき、
この点 P は、直線 $\underline{\hspace{2cm}} = k$ 上にある。つまり
 k は、この直線の $\underline{\hspace{2cm}}$ 切片の値と等しくなっている。
(一般の直線 $ax + by + c = 0$ での出題もある)

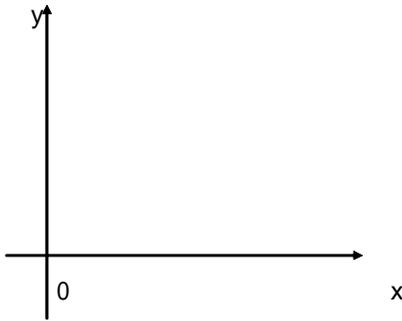
1. 次の領域の中の点Pにおいて、 $x + y$ の最大値・最小値を直線 $x+y=k$ を利用して求めなさい。
 (下線部には適宜、適語・式を記入せよ)

練習(1)

次の連立不等式で表される領域は

$$\begin{cases} 1 \leq x \leq 3 \\ 1 \leq y \leq 2 \end{cases}$$

下図より _____ k _____

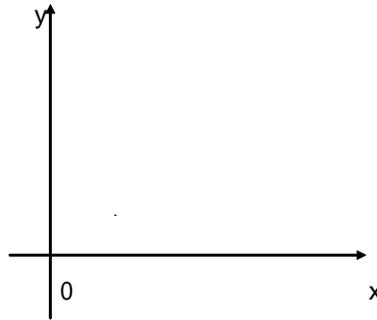


練習(2) $x \geq 0, y \geq 0$ のとき

連立不等式で表される領域は

$$\begin{cases} x+2y \leq 3 \\ 3x+y \leq 4 \end{cases}$$

下図より _____ k _____



3. 補充演習

ある工場で1日にゴミA、Bを各1トン処理するのに必要な原料P、Qの量とその利用できる最大量、及び処理後のリサイクル製品の価格が表のようになっていますとします。

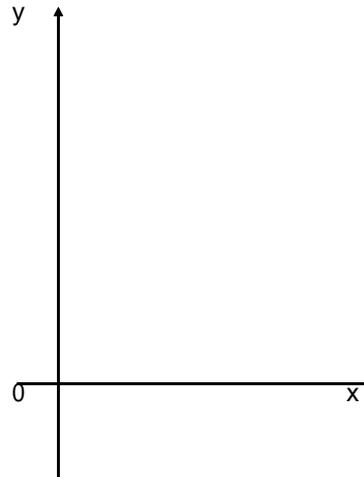
ゴミA、Bは、毎日処理しているとする。

	ゴミA	ゴミB	利用最大量
原料P	1トン	2トン	8トン
原料Q	3トン	1トン	9トン
価格	1万円	1万円	

1日に、それぞれ何トン処理すればリサイクル製品の総売上金を最大にできるか、またその時の金額を答えなさい。

.....

【解答欄】ゴミA、Bの処理量をそれぞれ x 、 y トン ($x \geq 0, y \geq 0$) として、



【補説2:線形計画法】自作問題にチャレンジ!!
 以上ような内容は、_____の問題と言われ、変数が x と y の _____ のときの問題を図による解法で練習したことになります。
 輸送方法の問題、製品の製造量に関する問題、効率的な資源再活用等の問題や自分の身近にある題材を取り上げるなどして、時間に余裕がある人は、自分で問題を作ってみましょう。
配付したプリントを利用して下さい。解答にも挑戦!

< 問題自作演習用紙 (配付用) >

線形計画法(図による解法)にチャレンジ

年 組 番氏名

自作演習用 A(定型パターンでチャレンジ!)

文化祭で2年 組が、1個 _____ 円の
_____ と _____ を各1個作るのに、

_____ はそれぞれ、 g と g 使い、

_____ はそれぞれ、 g と g 使う。

_____ は _____ g まで使え、

_____ は _____ g まで使えて、

作れば全て売り切れるという。

このとき、売り上げが最大となるには、
それぞれ何個作ればよいか、またそのとき
の売り上げの合計はいくらになるか答えよ。

ただし、他の材料は十分あるとする。

.....

【解答】 グラフもかくこと

自作演習用 B(全くフリーな条件で挑戦!!!!)

.....

【解答】(" 左)

イ 数学A

授業のポイント

- ・ くじやコンピュータなど身近な話題を用いて確率に関する理解を深めるとともに、身の回りにおける確率が利用されている場面を見付ける。
- ・ 「職業理解能力」の育成を図る。

(ア) 単元名 場合の数と確率 独立な試行と確率、期待値

(イ) 単元の目標

- ・ 独立な試行における確率の考え方を理解して、確率を求めることができる。
- ・ 反復試行の確率の基本的な知識を身に付け、それを用いた数学的な見方や考え方ができる。
- ・ 不確実な事象を数量的に考察する際、確率の有用性について興味・関心を持って取り組む。
- ・ 平均値としての具体例を通して、期待値の基礎的な知識を身に付け、身近な事象に確率の考えを適用して、期待値を求めることができる。

(ウ) 単元の総学習時間数 8時間

(エ) 指導と評価の計画

評価の観点 a：関心・意欲・態度 b：数学的な見方や考え方 c：表現・処理 d：知識・理解

時間	学習項目	評価規準	評価の観点				評価方法	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力
			a	b	c	d		
1 3	独立な試行と確率、期待値 独立な試行の確率	独立な試行における確率の考え方を理解して、確率を求めることができる。					小テスト 定期テスト プリント	【自己理解能力】 【他者理解能力】 全ての学習活動を通して、自己の適性の理解や数学の興味・関心分野等を認識する力と、自分にはないものをもつ他者を理解する力を育成する。 【職業理解能力】 世の中（社会）で使われている確率について、問題を解く学習活動を通して興味・関心を持たせ、社会・職業生活との関連や今しなければならぬことを理解する能力を育成する。
	複雑な試行の確率	不確実な事象を数量的に考察する際、確率の有用性について興味・関心を持って取り組もうとする。					授業観察 プリント	
4 5	反復試行の確率	反復試行の確率の基本的な知識を身に付けて、それを用いた数学的な見方や考え方ができる。					小テスト 定期テスト プリント	

6 8	期待値	平均値としての具体例を通して、期待値の基礎的な知識を身に付け、身近な事象に確率の考えを適用して、期待値を求めることができる。				小テスト 定期テスト プリント	【職業理解能力】 【選択・決定能力】 身近な問題を期待値の考えで解く学習活動を通してふさわしい選択・決定をし、その結果を責任を持って受け入れ、対処できる能力を育成する。
--------	-----	--	--	--	--	-----------------------	--

(オ) 授業の計画 (単元の3時間目)

<学習のねらい> 複雑な事象の確率についても理解させ、応用例を通して、確率のもつ有用性を認識させる。

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	評価の観点 (評価方法)
導入・展開 40分	<p>例1 3本の当たりくじを含む10本のくじがある。このくじをA、Bがこの順に1本ずつ引く。ただし、Aが引いたくじは元に戻さないとする。このとき、次の確率を求めよ。</p>			「関心・意欲・態度」 (観察および授業プリント) (机間指導)
	(1) Aが当たる確率	身近なテーマを取り上げ、興味・関心を引き出す。		
	(2) Bが当たる確率	起こりうるすべての場合(樹形図)を考えさせ、教師の発問に沿ってまとめる。		
	<p>例1 n本の当たりくじを含む10本のくじがある。このくじをA、Bがこの順に1本ずつ引く。ただし、Aが引いたくじは元に戻さないとする。このとき、次の確率を求めよ。</p>			
(1) Aが当たる確率	生徒に考察させ、プリントに記入をさせる。			
(2) Bが当たる確率	答えを発表させて、引く順番によって当たる確率は変わらないことに気付かせる。			
<p>例2 3種類の花の種a、b、cを1粒ずつまくとする。それぞれの発芽率は、$\frac{5}{7}$、$\frac{3}{5}$、$\frac{1}{2}$である。このとき、少なくとも2つ発芽する確率を求めよ。</p>				
		起こりうるすべての場合(樹形図)を考えさせて確率を求める。		

例3 銀行のホストコンピュータとそれを利用する2台の端末を接続した自動支払いシステムがある。このホストコンピュータの故障率を p 、端末1台の故障率を q とするとき、このシステムが動く確率を求めよ。ここで、端末は1台以上が稼動していればよく、通信回線など他の部分の故障は発生しないものとする。

問題を説明する。
 起こりうるすべての場合（樹形図）を考察させる。

教師の発問に沿って答をまとめる。
 故障と確率について数字を用いて実感させる。

ネットワークやシステムにおける確率の有用性について話をする。ロケット・自動車等、安全性と確率についても話をする。

1台の動く確率が0.9ならば、2台がともに動く確率は 0.9^2 になって、確率は、小さくなっていく。システムとして動かしていくには、一定の水準以上の、正しく動く確率が要求される。そのためには、構成する部品が正しく動く確率（精度）をさらに引き上げなければならない。

故障や安全性に対応できるようバックアップシステムの考えに触れる。

【職業理解能力】
 世の中（社会）で使われている確率について、問題を解く学習活動を通して興味・関心を持たせ、社会・職業生活との関連や今しなければならぬことを理解する能力を育成する。

ま
と
め
10
分

問題演習

反復試行の導入となる問題を解かせる。
 プリントを回収する。
 身近な確率の例を探し宿題を出す。

「関心・意欲・態度」
 （宿題プリント）

p、qといった文字での処理が苦手な生徒の場合には次のような展開も考えられる。

1) 例1 例2 例3 (ただし、 $p = q = 0.1$ として扱う)

とすれば、数字だけなので理解しやすい。

また、発展的な例として、

2) 例1 例1 例2 例3 課題

という展開において、例3の問題でホストコンピュータを2台として考えさせたり、あるいは各自で確率の問題を作成させて解かせたりということもできる。

(カ) 本時の学習評価

評価規準 「関心・意欲・態度」	不確実な事象を数量的に考察する際、確率の有用性について興味・関心を持って取り組もうとする。
aと判断した具体的な状況	授業プリントの完成とともに、身近な確率の例を探ことができ、その内容が優れている。
bと判断した具体的な状況	授業プリントの完成とともに、身近な確率の例を探することができる。
cと判断した具体的な状況	授業に消極的であり、授業プリントが未完成である。または、身近な確率の例を探することができない。
cの手立て	授業プリントを完成させるよう指導する。 確率の考えを確認し、具体例をさらにあげて提示する。

(キ) キャリア教育の視点に立った授業実践の成果と課題

[成果]

- ・学習活動と仕事との関係、社会との関連についての理解を深めることができた。

[課題]

- ・キャリア教育の視点を持った教材作りのための情報収集が常に必要である。

< 成果 >

本時の学習活動のうち、特に社会とのつながりに関して、例3のコンピュータに関する例題の学習活動を通して、学習活動の仕事へのつながりや社会の動きを感じる様子が、生徒の感想(表1)から読み取ることができる。

(表1) 今日一番印象に残ったのは？

例1	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単だったから。 ・イメージしやすいから。 ・あっ本当だ。確率が同じなんだってことがわかったのがなんとなくスッキリしたから。
例1	<ul style="list-style-type: none"> ・数字だけでなく文字も問題に利用できることがわかったからです。 ・樹形図を使うと答えが求めやすくなるので、問題が難しそうでもあきらめないうえに図を使って求めてみようと思います。 ・何番目にくじを引いても当たる確率が変わらなくてびっくりした。 ・理論的に先でも後でも当たる確率が一緒だということを証明することができたから。
例2	<ul style="list-style-type: none"> ・説明がわかりやすく自分で理解できたので印象に残りました。 ・自分でよくわかったから。
例3	<ul style="list-style-type: none"> ・問題がちょっと変わっていたから。 ・難しかったのは文字が入っていたからで、普通に考えたら数字だけと変わらないので平気。 ・数学の問題としての内容だけでなく、それによりわかる他のことがあった。 ・とても意味が深かった。 ・問題文が難しかった。実際の社会に役立てられているのだと思った。 ・先生が仕事について語ってくれたからです。 ・考える問題が好きだから。 ・難しい現代の存在する問でしたが、逆にもっといろいろな確率が知りたくなりました

また、身近な確率を探す宿題では、例として天気予報の降水確率や宝くじ、じゃんけんを始めとする様々なゲーム、野球、テニス、バレーボール等のスポーツに関する確率を挙げるものが圧倒的に多かったが、次のように自分で考えた確率を書くなど、確率の活用の場面を考えることについて十分な学習活動となっている。(表2)

(表2)

<ul style="list-style-type: none"> ・ポップコーンを作るとき、トウモロコシの種の袋には8割ポップコーンができると書いてあった。 ・某電気店で買うと100人に1人の割合でタダになる。 ・ニュースの星座占いで自分の星座が1位になる確率 ・A君とB君が同じクラスになれる確率 ・高校3年間で担当の先生が同じになる確率 ・席替えで同じ人が隣同士になる確率
--

学習活動全般としては、次の生徒の感想(表3)から、学習の動機付けという面で成果が感じられる。

(表3) 学習活動全般

- ・もっと自分の身近なことで考えると楽しいし問題自体が理解しやすくなりました。
- ・いろいろな確率の解き方がわかってよかった。
- ・言われてみれば身近なところにたくさんあるのに、気付かないんだなと思った。
- ・探るのがすごく難しかったです。でも身近にあるものだなと思いました。
- ・世の中に確率があふれているなと思った。
- ・確率って意外と生活の周りであってびっくりしました。
- ・自分たちの生活の中で確率が使われていることを知りました。身近なことだと考え、楽しく取り組みたいです。

< 課題 >

数学は、「理論の美しさを楽しむ」、「発想の素晴らしさを知る」等、純粋数学の側面とともに、社会とのつながりを理解させる応用数学の側面も合わせて考えることが大切である。キャリア教育の視点を持つての教材作りには、常に情報収集が欠かせない。インターネット、新聞、その他のメディアの活用を今以上に意識する必要がある。

< 資料 >

授業で使った授業プリント
宿題プリント

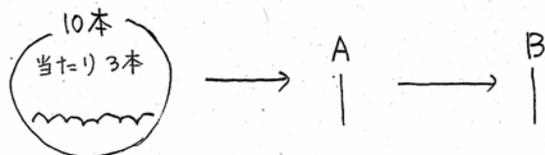


複雑な事象の確率 その2 (No. 14)

例1 当たりくじを引く確率はくじの引きの順番に関係ない?!



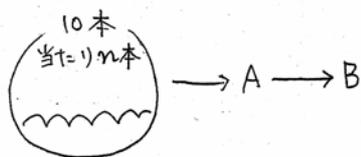
- ① 3本の当たりくじを含む10本のくじがある。このくじをA, Bがこの順に1本ずつ引く。ただし、Aが引いたくじは元に戻さないとする。このとき、次の確率を求めよう!



- (1) Aが当たる確率 (2) Bが当たる確率

- ② n本の当たりくじを含む10本のくじがある。このくじをA, Bがこの順に1本ずつ引く。ただし、Aが引いたくじは元に戻さないとする。このとき、次の確率を求めよ。

- (1) Aが当たる確率 (2) Bが当たる確率



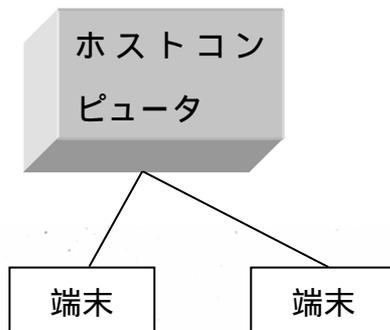
組 番 氏名

例 2 3種類の花の種 a, b, c を 1粒ずつ蒔くとする。
それぞれの発芽率は $\frac{5}{7}, \frac{3}{5}, \frac{1}{2}$ である。
このとき、少なくとも 2つ 発芽する 確率を求めよ。



a b c

例 3 銀行のホストコンピュータとそれを利用する 2台の端末を接続した自動支払いシステムがある。このホストコンピュータの故障率を p 、端末 1台の故障率を q とするとき、このシステムが動く確率を求めよ。ここで、端末は 1台以上が稼働していればよく、通信回線など他の部分の故障は発生しないものとする。





身近な確率の例を探してみよう！

組 番 氏名

例

「大輪あさがお」の種の袋の裏面の図

「大輪あさがお」の種の袋の裏に
発芽率 70%以上(25℃)
と記載されている。つまり
確率 $\frac{7}{10}$ で発芽する。
「おしろい花」の種は
発芽率 80%以上(22℃)
つまり確率 $\frac{4}{5}$ で発芽する。

感想

(5) 理科

ア 理科総合 B

授業のポイント

- ・ クラスの生徒全員が同様の役割を分担して教室内の気温測定を行い、その結果を集約する。
- ・ 「役割把握・認識能力」、「コミュニケーション能力」の育成を図る。

(ア) 単元名 人間の活動と地球環境の変化

(イ) 単元の目標 これまで学んできたことを基に、身近な自然の現状や環境について課題を設定して調べるなど、人間と地球環境とのかかわりについて探求活動を取り入れながら学習を深め、明るい未来を切り開くために地球環境問題を考える。

(ウ) 単元の総学習時間数 10 時間

(エ) 指導と評価の事例

評価の観点 a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断 c : 観察・実験の技能・表現 d : 知識・理解

時間	学習項目	評価規準	評価の観点				評価方法	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力
			a	b	c	d		
1 2	1 地球の環境を考えよう A 生物が示す警告 ・絶滅が危惧されている生物 ・外来生物の影響	生物を取り巻く環境の現状や諸課題について関心を持ち意欲的、総合的に探求しようとする。					授業観察	【課題解決能力】 環境の著しい変化が生物にもたらす影響について、その原因を探り、解決方法を考察しながら課題解決能力を身に付ける。
3 10	B 地球環境の変化 ・地球環境問題 ・温室効果 ・大気汚染 ・生物濃縮 ・探求活動	生物を取り巻く環境の現状や諸課題についての知識を身に付けている。 観察・実習を通して得た結果から分析的、総合的に考察し、事実に基づいた科学的判断を下すことができる。 観察・実験で得たデータを科学的に処理し、結果について図などを用いて適切に表現するなど、探求活動や課題研究を行うための基本的な技能を身に付けている。					ワークシート ワークシート 実習 ワークシート	【情報収集・活用能力】 生物を取り巻く環境の現状や諸課題について、文献やインターネット等から情報を収集・整理・活用する。 【役割把握・認識能力】 実験の目的や手順に応じて、自己の役割や分担を正しく把握する。 【コミュニケーション能力】 共同実験者と、互いの立場を確認・理解しながら、共同して実験を行うことでコミュニケーション能力を育成する。

(オ) 授業の計画 (単元の5・6時間目)

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	評価の観点 (評価方法)
導入 10分	測定箇所として決められた座席に静かに着席する。 実習の目的・ねらいを理解する。	実習の目的・注意点が明確に伝わるように説明する。 クラス全員の協力によってデータを集めることの意義を説く。		
展開 70分	用具・記録用紙を受け取る。 (生徒一人当たり、デジタル温度計、植木用支柱、輪ゴム、記録用紙) 観測方法を確認する。 結果を予想する。	生徒一人に1セットずつ用具が渡るようにする。 一斉に測定するので、全員が観測方法を確実に理解するようにする。		
	・測定 自分の座席の床面直上、床面から1.5mの高さ、天井直下の気温を測定する。	測定予定時刻の3分前から測定点に固定する。 測定時刻での温度をすばやく読み取る。 不必要な動作や私語が、測定結果に影響することがあるので、事前に注意を与えておく。	【役割把握・認識能力】 実験における自己の役割を理解し、効果的な実験を行う。	
	・記録 記録用紙に各自で記入する。	測定時刻での温度をすばやく記録する。		
	それぞれの記録を発表し、全員のデータがそろるように聞き取っていく。(授業者も同時に聞き取る)		【コミュニケーション能力】 実験におけるそれぞれの立場を確認し理解しながら行動する。	
	・測定結果のまとめ 「教室見取図」(一人3枚配付)へ、3種のデータを書き込む。			

	<p>等高(温)線をかき(間隔は授業者が指示する)。</p> <p>3枚の平面図から教室内の立体的な温度分布を予想し、最も変化の大きい軸で「縦断面図」を描く。</p> <p>測定結果から作成した図のような教室内の温度分布が生ずる原因について考察する。</p>	<p>机間指導を行い、かけない生徒を支援する。</p> <p>ノートパソコンとプロジェクターを用意し、3Dグラフを演示する。</p>	<p>「観察・実験の技能・表現」</p> <p>(行動観察)</p> <p>(ワークシート)</p> <p>「思考・判断」</p> <p>(ワークシート)</p>
まとめ 10分	<p>実習を通して、クラス全体で協力して測定を行う意義を再確認する。</p> <p>地球規模の気象現象について類推し、理解を深める。</p>	<p>身近な場所の気温測定を通じて、微気象～小気象を考察させるとともに、天気予報が同様の測定の集積から成り立っていることに気付かせる。</p> <p>地球の温暖化など、人間生活と環境について、考えるヒントを与える。</p>	

(カ) 本時の学習評価

評価規準 「思考・判断」	「平面図」から「縦断面図」を適切にかき、両図を用いて教室内の温度分布について考察している。
aと判断した具体的な状況	「平面図」から「縦断面図」を適切にかき、両図を活用して教室内の温度分布について、教室の構造や教室外の環境の影響などを考慮しながら、分析的、総合的に考察している。
bと判断した具体的な状況	「平面図」から「縦断面図」を適切にかき、両図を用いて教室内の温度分布について考察している。
cと判断した具体的な状況	「縦断面図」が適切にかけていない。
cの手立て	指導・助言を与え、記録させる。

評価規準 「観察・実験の技能・表現」	「記録用紙」に全員分のデータが正確に記録され、「教室見取図」に適切な等温線をかき、「平面図」を作成することができる。
aと判断した具体的な状況	bの状況に加え、等温線のかき方を工夫するなど、教室内の温度分布を見やすく工夫し、データの活用を十分に図っている。
bと判断した具体的な状況	「記録用紙」に全員分のデータを正確に記録し、「教室見取図」に適切な等温線をかき、「平面図」を完成している。
cと判断した具体的な状況	「記録用紙」に全員分のデータが正確に記録されておらず、「平面図」の等温線のかき方が不十分である。
cの手立て	指導・助言を与え、再度記録させる。

(キ) キャリア教育の視点に立った授業実践の成果と課題

[成果]

- ・クラス全体が協力して行う実験を通して、「役割把握・認識能力」、「コミュニケーション能力」を育成することができた。

[課題]

- ・年間の学習計画を作成する際に、キャリア教育の諸能力を育成する学習場면을十分に検討する必要がある。

< 成果 >

理科総合Bのねらいの一つである身近な自然現象についての探求活動の中に、キャリア教育にかかわる諸能力を育成する学習内容を含む学習計画を作成した。

本時は、教室内の気温の詳細な分布を調べることで、気象現象についての興味・関心を引き出し、身近な環境について目を向けることの大切さを学ぶことを目標とした。キャリア教育に関しては、クラス全体で協力して測定することで役割把握・認識能力やコミュニケーション能力を、データ処理や考察から情報収集・活用能力の育成を図ることができると考えた。

温度の測定は、床直上、床上1.5メートル、天井直下の順に行い、デジタル温度計を測定ポイントに3分間固定し、全員が同時に測定した。測定中の空気の動きを最小限にするため、私語禁止・激しい動作禁止など、いくつかの制限事項を設けたが、生徒は各自の役割を正しく認識し、正確な測定となるよう集中していた。また、周囲の生徒への配慮もできていた。

各自の観測データを交換するために、「聞き取り(ディクテーション)」を取り入れた。順に自分の測定結果を読み上げる中で、聞き手の生徒から聞き漏らしたデータについて「もう一度お願いします。」との声が自然にあがるようになった。それを受け、読み上げる生徒にも、相手に聞き取りやすい発声・タイミングなどを心がける態度・姿勢があらわれるなど、互いに相手を気遣う良いコミュニケーションが生まれた。実験と測定結果のまとめだけで終わらせずに生徒間の活動を行うように留意した。

これらの活動から、役割把握・認識能力、コミュニケーション能力を育成することができた。

測定したデータから「平面図」や「縦断面図」に等温線を描いて教室の温度分布を表すなど適切なデータ処理を行うことと、そこから情報を引き出し表現するという課題を行うことで、身近な場所のミクロの気象観測についての理解を深めた。こうした活動を通して、情報収集・活用能力を育成することができた。教室内においても気温の分布を観測することができ、その分布に意味があることに気付くことができたようである。

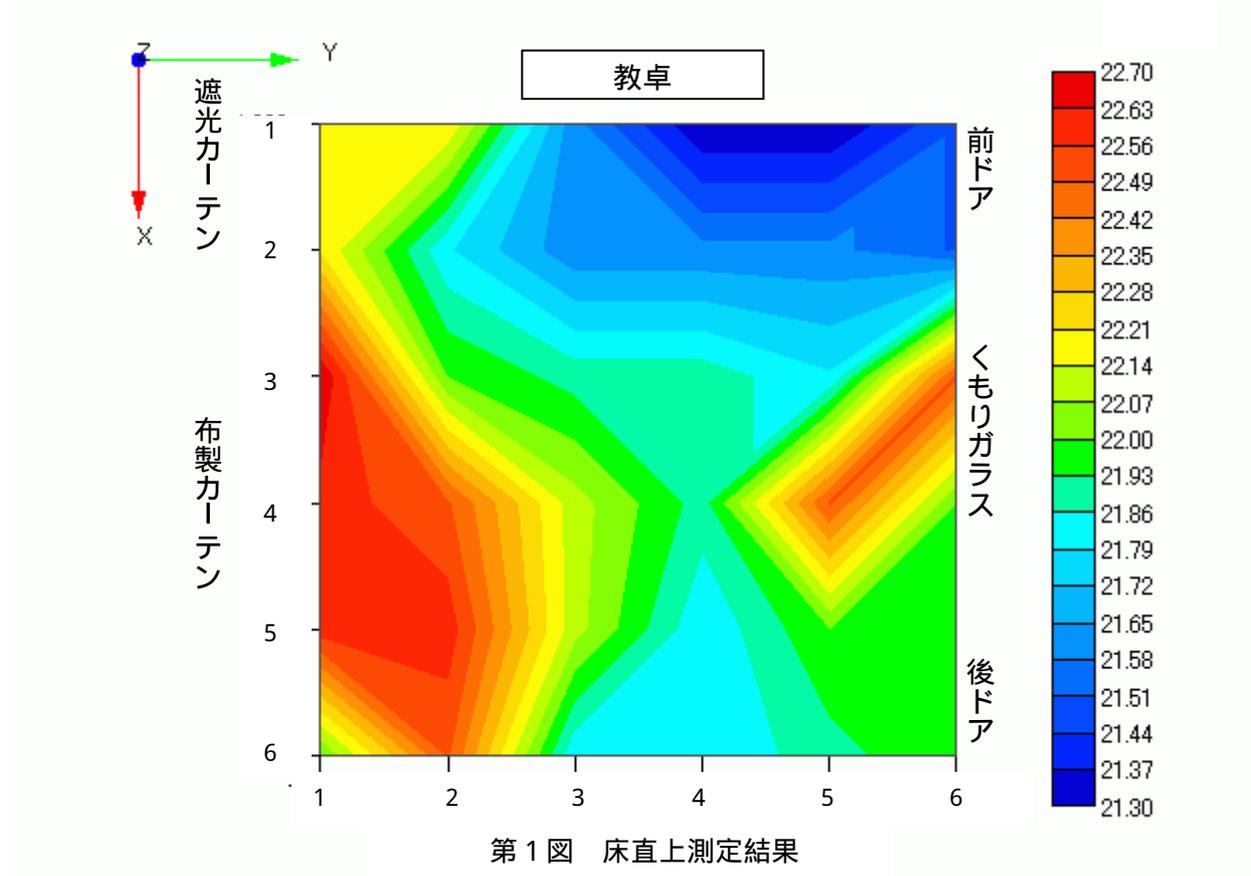
「縦断面図」は、温度分布の差異がはっきりと分かりやすいポイントを指示し、全員が同じ図をかくようにした。ところが、この指示に対してある生徒から「自分の座席を含む列のグラフを描いてもよいか。」という要望があった。より自分に近い観測結果を知りたいという極めて自然な要求が自発的にあらわれた例である。この生徒の感想も「おもしろかった。」とあり、学習に対する興味や学習内容の定着が本人のモチベーションと深くかかわっていることを示す良い例として手ごたえを感じることができた。

まとめとして、天気予報も今回のような観測データの集積によって行なわれている話をし、「気象分野」との関連を図った。他にも、ヒートアイランド現象や環八雲などの都市部の環境問題の考察や、異常気象について考察させるなどすると、人間の生活や産業と環境問題とのかかわりなどへと発展できると思う。

< 課題 >

本実習は、時間的な制約もあり、教師が課題を与えてしまったので、生徒自身による課題の発見や実験の計画という探求活動の本来の形式とはならなかった。また、実験結果についてもプリントの提出に留まり、クラスで発表する時間もとれなかった。

教科でキャリア教育の可能性を試行する目的で実習を計画したため、単元の学習内容との関連付けにおいて多少無理な点があった。年間の学習指導計画を立てる段階から、キャリア教育の諸能力をどの授業場面で実施するか、十分に考えておく必要を感じた。



< 測定結果記入用紙 >

記録用紙	測定位置 (測高1.5m)	測者 (測付いたこと)
	床直上	天井直下
Nc.		
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
	ID番号	氏名

教室見取図

1 7 13 19 25 31

2 8 14 20 26 32

3 9 15 21 27 33

4 10 16 22 28 34

5 11 17 23 29 35

6 12 18 24 30 36

測定位置 (をつける)

床直上 高さ1.5m 天井直下

測定者 ID番号 氏名

< 測定結果記入用紙 >

縦断面図(右)

() () () () () () ()

測定位置(をつける)
床直上 高さ1.5m 天井直下

測定者 ID番号 氏名

縦断面図(後)

() () () () () () ()

測定位置(をつける)
床直上 高さ1.5m 天井直下

測定者 ID番号 氏名

イ 物理

授業のポイント

- ・ 光の反射と屈折の実験のあと、ワークシートを用いて実験結果に関する考察を行う。
- ・ 「コミュニケーション能力」、「課題解決能力」の育成を図る。

(ア) 単元名 波動 光

(イ) 単元の目標

- ・ 身近な生活用具を使った実験を通じて、光の反射の法則や屈折の法則を理解する。
- ・ 光の全反射について、屈折の法則を用いて理解する。

(ウ) 単元の総学習時間数 10 時間 (75 分を 1 時間とする。)

(エ) 指導と評価の計画

評価の観点 a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断 c : 観察・実験の技能・表現 d : 知識・理解

時間	学習項目	評価規準	評価の観点				評価方法	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力
			a	b	c	d		
1 3	光の進み方	光の伝わり方(反射・屈折現象)に関心を持ち、意欲的に探求しようとする。					行動観察 ワークシート	【コミュニケーション能力】 協力して実験を行うこと を通して、コミュニケーション能力を育てる。 【課題解決能力】 実験を行い、その目的を理解することを通して、課題を解決する能力を育成する。
		光の伝わり方を水波や音波と関連付け、特徴や法則を見いだす。						
		反射・屈折の実験を通して、実験を行う方法を身に付け、得られた結果を的確に表現する。						
4	光の性質	光の色と波長の関係やスペクトルについて探求しようとする。					行動観察 ワークシート	
5	レンズ	レンズを用いて光の基本的な性質を調べるための観察・実験を行う方法を身に付け、得られた結果を的確に表現する。					レポート	【コミュニケーション能力】 協力して実験を行うこと を通して、コミュニケーション能力を育てる。
6 8	光の回折と干渉	光の回折や干渉を意欲的に探求しようとする。					行動観察 ワークシート	
		回折や干渉から、光が波であることを考察する。						
9 10	問題演習	反射や屈折、回折や干渉など光の基本的な性質について理解し、知識を身に付けている。					問題演習 小テスト	

(オ) 授業の計画 (単元の3時間目・75分間)

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	評価の観点 (評価方法)
導入 10分	<p>前回の復習と本時の目標を理解する。</p> <p>実験の内容を理解し、班ごとに器具の準備をする。</p>	<p>前回の学習を振り返り、本時の目標を明確に説明する。</p>		
展開 45分	<p>鏡にレーザー光を当て、光跡をワークシートに記入し、分度器で入射角と反射角を測定する。</p> <p>台形ガラスにレーザー光を当て、光跡をワークシートに記入し、分度器で入射角と屈折角を測定する。</p> <p>水の入ったメスシリンダーに牛乳を数滴入れて、レーザー光を当て、入射の角度によって全反射が起こることを観察する。</p> <p>アクリル棒にレーザー光を当て、角度によって全反射が起こることを観察する。</p> <p>光ファイバーの一方からレーザー光を入射させる。ケーブルを巻いても延ばしても反対側に光が届くことを観察する。</p> <p>光ファイバーの産業への応用についてインターネットで調べる。</p>	<p>どちらも入射角を変えて、2、3種類を測定する。</p> <p>常に入射角 = 反射角となるか、また屈折率に違いがあるかを確認させる。</p> <p>どのような状態で全反射が起こるのかを確認させる。</p> <p>授業者が各班を回り、演示する。</p> <p>班ごとに課題を与え、調べた結果を発表させる。</p>	<p>【コミュニケーション能力】</p> <p>協力して実験を行うことを通して、コミュニケーション能力を育成する。</p>	
まとめ 20分	<p>実験結果を各自のワークシートに記入する。結果のまとめ、考察などをワークシートに記入する。</p>	<p>考察のワークシートにより、学習内容の整理、考察が行われるので、その扱いは重要である。</p>	<p>【課題解決能力】</p> <p>実験の目的を理解し、課題を解決する能力を育成する。</p>	<p>「観察・実験の技能・表現」</p> <p>(行動観察)</p> <p>(ワークシート)</p>

(力) 本時の学習評価

評価規準 「観察・実験の技能・表現」	反射・屈折の実験を通して、実験を行う方法を身に付け、得られた結果を的確に表現する。
aと判断した具体的な状況	これまで学習した知識と実験で得られた結果を比較し、理論を一般化するなど、実験の目的を的確に理解し、まとめることができている。
bと判断した具体的な状況	ワークシートに実験で得られたデータをすべて記入し、反射・屈折の角度が計算できている。
cと判断した具体的な状況	実験の目的が理解できず、ワークシートに結果をまとめることができない。
cの手立て	提出されたワークシートから問題点を指摘し、再度、結果をまとめさせる。

(キ) キャリア教育の視点に立った授業実践の成果と課題

[成果]

- ・ 実験結果に対する十分な考察により「課題解決能力」を、協力して実験を行うことで「コミュニケーション能力」をそれぞれ育成することができた。

[課題]

- ・ 実験を伴わないキャリア諸能力を育成する学習活動について検討する必要がある。

< 成果 >

はじめに実験を行い、ワークシートに従って実験結果をまとめながら、反射、屈折、全反射について理解を深める展開とした。提出されたワークシートを確認すると、入射角と反射角が正しく測定できていないものやガラスの正しい屈折率が求められていないものもあった。

(生徒の感想)

- ・ 波の入射角と反射角が等しいことは知っていたが、実際に測ったのは初めてだった。ちょっと感動した。
- ・ 光ファイバーは本当に曲げてもくねらせても一方向に光が進むことに驚いた。
- ・ 臨界角近辺で全反射がおこる境界が興味深かった。

実験では必ずしも思い通りの結果が出ないことを知り、出ない場合はその原因を考察させることで「課題解決能力」を育成することができた。

観察・実験は、班で協力して行うことが多い。班で協力する中で、自然に自己の役割を把握し、他者を理解し、適切なコミュニケーションを行う能力が育成できた。観察・実験を通じた活動は、理科の学習のみならず、キャリア教育につながる多くの要素を含んでいる。

光ファイバーなど産業への応用面について、近くに適当な施設があれば、工場見学などの体験授業を通して、「職業理解能力」などを育成することも可能である。

< 課題 >

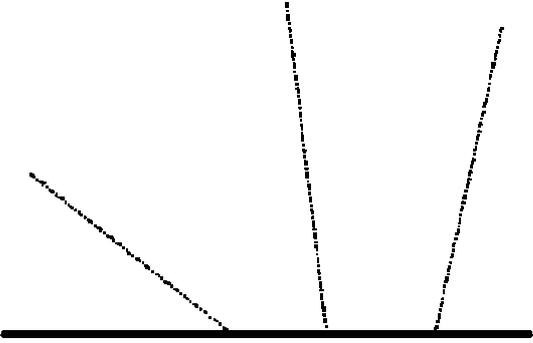
キャリア教育のために、インターネットによる調べ学習をあえて取り入れるなど、実験に要する時間が普段よりも多く必要であった。観察・実験や調べ学習などの生徒の活動が伴う授業場面では、キャリアの諸能力の育成は比較的行いやすいが、いわゆる座学における効果的なキャリア教育の展開についても考えていかなければならない。キャリア教育の意識・ねらいを持って授業を進めることがキャリア諸能力を育成する上で重要である。

物理 I 光の反射と屈折 ワークシート

実験日時: _____ 年 _____ 月 _____ 日 実験時間: _____ (: ~ :)
 実験場所: _____
 班 : 第 _____ 班 班員名: _____
 器具 : レーザーポインター 1 , 鏡 1 , 台形ガラス 1 , メスシリンダー 1
 かぎ算定棒 1 , アクリル棒 1 , 光ファイバー 1 ,

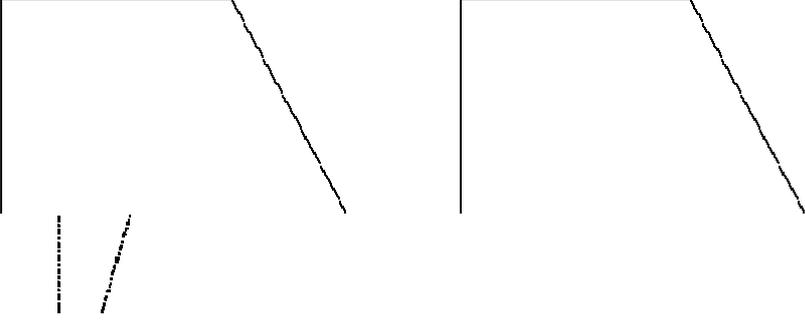
実験 1 光の反射

本下の底線に沿って鏡を立て、点線の方角からレーザー光を射てる。反射光を書き込む。



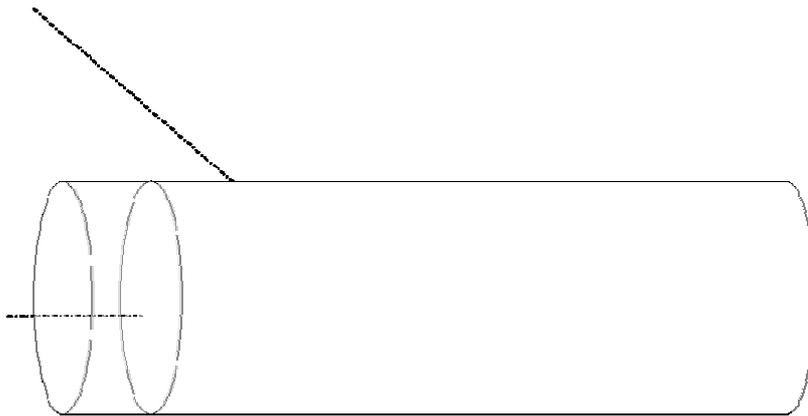
実験 2 光の屈折

下の線の上に台形ガラスを置き、上の図には点線の方向からレーザー光を照射させ、光線を入射する。下の図は角度を工夫して、全反射が起こったときの光線を記入する。



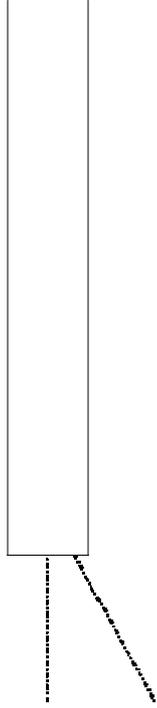
実験 3 全反射 その1

メスシリンダーの目盛り裏上端くらいまで水を入れる。その中に半円筒を斜挿する。
点線の方向からレーザー光を入射する。また全反射が起こる最小の入射角（臨界角）を求める。



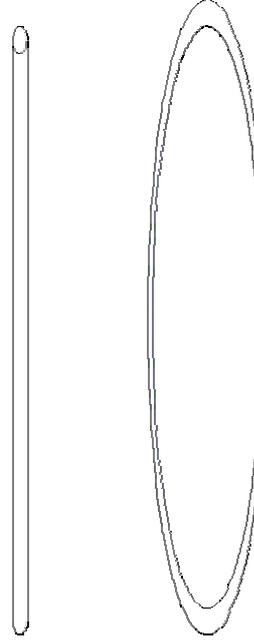
実験 4 全反射 その2

下の線の上にアクリル板を置き、点線の方向からレーザー光を入射させ、光跡を記入する。



実験 5 光ファイバー

光ファイバーの一端からレーザー光を入射し、他端まで光が届くことを確認する。ファイバーの向きを変えても、光が伝搬することを観察する。(例)



<ワークシート>

考察

1. 実験1で入射角と反射角の関係を予想し、結果と比較せよ。もし予想と違っていたら、理由を考察せよ。

2. 実験2の結果から、ガラスの屈折率を求めよ。三角関数表は、教科書の末尾を利用すること。教科書の屈折率の表からガラスの屈折率を調べ、実験結果と比較せよ。また、求めた臨界角から求めた屈折率が、これらと一致するか確認せよ。実験結果と大きく異なる場合は、その理由を考察せよ。

3. 実験3, 4から、ガラスとアクリル棒の屈折率を求めよ。これらが実際に値と実験結果と大きく異なる場合は、その理由を考察せよ。

4. 光ファイバーがどんな状況でも情報が伝達できる理由を考察せよ。

(6) 外国語（英語）

ア 英語

授業のポイント

- ・ 教科書とワークシートを用いながら、人間の生き方に関する教材における作者の考えや意図を理解し、自分の意見をまとめ、表現する。
- ・ 「自己理解能力」、「自己表現能力」の育成を図る。

(ア) 単元名 Lesson 8 Good Ol' Charlie Brown (教科書：CROWN English Series []))

(イ) 単元の目標 チャールズ・M・シュルツが描く「ピーナッツ」のマンガを通して、生徒に生きることにおいて大切なものとは何かを考えさせる。

(ウ) 単元の総学習時間数 9時間

(エ) 指導と評価の計画

評価の観点 a：関心・意欲・態度 b：表現の能力 c：理解の能力 d：知識・理解

<マンガの内容> 登場人物の2人によるそれぞれの父親の生き方などについての会話

時間	学習項目・内容	評価規準	評価の観点				評価方法	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力
			a	b	c	d		
1	Part 1 語彙(い)の学習のあとに、登場人物4人を説明する英文を聞き、相当する人物の絵を選び登場人物について理解する。その後、本文の読解を行う。	読まれる説明の英文を適切に理解し、その内容に相当する絵を選ぶことができる。					ワークシート	【情報収集能力】 教科書の英文とマンガを比較しながら適切な情報を読み取る。
2 3	Part 2 生徒の理想の父親像について考え、ワークシートに書く。また、チャーリー・ブラウンとパイオレットが自分の父親をどのように考えているか、本文の中の2人の父親の描写を読み、一致する漫画の中の発言を書く。最後にチャールズ・M・シュルツがこの漫画の中で伝えたかったことは何だと思うかを書く。	本文に書かれている内容や筆者の考え、意見を理解し、それに対し自分の考えを表現することができる。					ワークシート	【自己理解能力】 【自己表現能力】 作者の考えや意図を理解し、考察して自分の意見を表現する。
4 5	Part 3 登場人物の体験を通して作者のメッセージを考える。生徒が考える「勝者」「敗者」のイメージ、「実在の3人の勝者」をワークシートに書く。また、本文	「勝者」「敗者」について自分自身の考えを明確に記述できるか。作者のメッセージを適切					ワークシート	【選択・決定能力】 勝者と敗者の考察により自己の生き方を主体的に考える。

	から作者の意図する「勝者」「敗者」の記述を書き出す。作者のメッセージに対する自分の意見、感想をまとめる。	に理解し、自分の意見、感想をきちんと表現できる。						【課題解決能力】 自己の将来についての課題を考える。
6 7	Part 4 筆者が考える人生を生きていく上で大切なものとは何かを記述する。また、筆者の考える人生の成功とは何か、またその考えをどのように思うかを自由記述する。	英文を読んで筆者の考えを適切に理解している。また、自分の考えをきちんと記述できる。				ワークシート	【自己理解能力】 【自己表現能力】 作者の考えや意図を理解し、考察して自分の意見を表現する。	
8 9	Part 5 ワークシートの四つの漫画を読み、4コマ目の登場人物のセリフを推理して、英語と日本語で書く。	特に正解というものではないが、ストーリーの流れに沿った自然なセリフを書こうとしている。				ワークシート	【自己表現能力】 自分の意見、考えを表現する。	

(オ) 授業の計画 (単元の3時間目)

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力	評価の観点 (評価方法)
導入 10分	フラッシュ・カードを使用して、語彙の復習をする。Part 2 の本文をコーラス・リーディングする。本文の内容のポイントを何人かの生徒に質問しながら確認する。	フラッシュ・カードを準備する。何人かの生徒に重要な語彙を読ませ意味を確認する。重要単語を全員に声を出させ、読ませる。		
展開 35分	ワークシート1の漫画のセリフを指名された生徒が音読し、日本語訳をする。 ワークシート2を配布する。 設問1「理想の父親像とは何か」を考え、その内容を書く。何人かの生徒が発表する。 設問2 チャーリー・ブラウンとパイオレットが自分の父親をどのように思っているかを考え、ワークシートの表にまとめる。何人かの生徒が答える。	漫画と設問のワークシート2部を準備する。 設問1と4については、「正しい」「間違っている」の観点で評価するのではなく、自分の考えを明確に表現できているかどうかを評価することを生徒に伝えておく。	【自己理解能力】 【自己表現能力】 作者の考えや意図を理解し、考察して自分の意見を表現する。	「表現の能力」 (提出されるワークシートの記述内容を評価する。)

	設問3 漫画のセリフの中で本文と対応している発言を抜き出す問題をやり、何人かの生徒が答える。 設問4 この漫画を通じてチャールズ・M・シュルツが伝えたかったことは何であるかを考え、その内容を書く。何人かの生徒が自分の考えを述べ、他の生徒たちが意見を言う。	設問2と3については本文がきちんと読み取れているか、作者の考えを理解できているかをみる。 設問4ではチャールズ・M・シュルツがこの漫画から何を伝えたいかについての生徒の考えを聞く。		
まとめ 5分	最後に生徒の考えに対する教員の感想を聞いてワークシートを提出する。	教員が感想を述べる際、否定的な感想は述べない。		

(力) 本時の学習評価

評価規準 「表現の能力」	本文に書かれている内容や筆者の考え、意見を理解し、それに対し自分の考えを表現することができる。
aと判断した具体的な状況	本文に書かれている内容や筆者の考え、意見を正確に理解し、それに対し自分の考えを適切な文脈で表現している。
bと判断した具体的な状況	本文に書かれている内容や筆者の考え、意見を理解していて、それに対し自分の考えを表現している。
cと判断した具体的な状況	本文に書かれている内容や筆者の考え、意見に対する理解が不十分で、自分の考えを表現することができない。
cの手立て	生徒の課題を把握し、その内容に応じた指導を行い、再度ワークシートをやらせて再提出させる。

(キ) キャリア教育の視点に立った授業実践の成果と課題

[成果]

- ・生徒に考えさせ自分の意見を明確に表現させる学習活動により、「自己理解能力」、「自己表現能力」を育成することができた。

[課題]

- ・適切なテーマ設定には配慮が必要である。
- ・基礎的基本的な内容を含め、バランスのとれた学習活動への取組が必要である。

<成果>

この授業のねらいは、語彙、文法、英文和訳のみを行うのではなく、作者の考えや意図を理解したあとに、生徒に考えさせ自分の意見を明確に表現させることで、「自己理解能力」や「自己表現能力」といったキャリア教育に関する諸能力を身に付けさせることにあった。

生徒のワークシートから、ほとんどの生徒が本文中の筆者の考えや意見を十分理解し、自分で考えた意見を適切に記述したり、口頭で表現したりすることで、キャリア教育に関する諸能力を一定程度身に付けていることが分かった。生徒の感想は肯定的な意見が多く、生徒は英文を読んで筆者の意図を理解して考え、自分の意見を表現する活動ができているようである。

(生徒の感想)

- ・自分と作者の考えやみんなの考え方のいろいろな違いを聞くことができ楽しかった。
- ・一人ひとり違う意見を書けるようになってよかった。単語のイメージなんて今まで考えたこともなかったけど、今回の授業を通して“winner” “loser” についての意味を深く考えることができよかった。自分自身の意見を書けたから、内容がすぐに理解できた。
- ・この勉強を続けていけば、発想力が豊かになると思います。自分で考える場が与えられれば、もっと勉強も伸びていくと思います。
- ・いつもは日本語訳と文法で授業が終わり、だから何? という感じであったが、今回は内容を考え、いつもより頭を使う授業でよかった。

< 課題 >

一方でこの授業の形式について、訳読や文法を中心とした授業を望む声も数人の生徒から聞かれ、また、英語を書くことの必要性についての教員や生徒からの指摘があった。

(生徒・教員の感想・意見)

- ・現代国語の授業のようで、英語の時間は文法や英訳をもっとやって欲しい。
- ・発音とかちゃんとできるようにするにはいつもの授業の方がいい気がする。
- ・英語の授業ではもっと英語で書かせる必要があるのではないか。

また、扱ったテーマに関する批判的な意見があった。確かに「人生の勝者、敗者」、「理想の父親像」などについて話すのは一部の生徒にとってはかなり抵抗があったかもしれない。逆に、このような内容で思ったこと、感じたことを話し合うことができたので、いつもより生き生きとした授業になったとも思う。適切なテーマの設定には今後も配慮が必要である。

(生徒の意見)

- ・人生観にかかわることで、自分の意見を発表するのは恥ずかしいし、抵抗がある。授業中に指して意見を言わせるのはやめて欲しい。

この授業では、キャリア教育に関する、生徒の自己理解が進み、自己表現能力が身に付いただけでなく、考える力の育成、英語に関する意欲の高まり、他者理解といった効果も見られた。一方で、訳読や文法事項など従来の授業で行われてきた学習活動の要求もあった。これらはどちらかの学習活動を選択するというのではなく、様々な学習活動をバランスよく行うことで、自ら学び自ら考える力を育成するとともに、基礎的基本的な内容の充実を図り、学習意欲を向上させるものである。今後もこうした視点から授業内容の検討、工夫改善の取組が必要である。

< 資料 >

授業で使用したワークシート Part 2、Part 3、Part 4

<ワークシート>

ワークシート (研究授業)

Part 2

1. あなたが考える理想の父親像とはどのようなものですか。

--

2. 漫画を読み、Violet と Charlie Brown はそれぞれ自分の父親をどのように考えているのか表にまとめなさい。

Violet	
Charlie Brown	

3. 教科書 p.120 を読み、本文の表現が対応している漫画の中の台詞を抜き出ささい。

行	本文での表現	漫画の中の発言
8-10	She tells Charlie Brown that her father is richer than Charlie Brown's dad	
10-11	and that he is better at sports.	
13-15	He tells her that no matter how busy his father is, he always has time to give him a big smile because he likes him.	

4. Charles M. Schulz がこの漫画を通じて伝えたかったのはどのようなことだと思いますか。

--

<ワークシート>

ワークシート Part 3

1. “winner”（勝者）と“loser”（敗者）からイメージする言葉を（英語・日本語）を書きましよう。

--

2. あなたが思い浮かべる5人の“winner”（勝者）の名前を書き、その理由も簡単に書いてください。

	NAME(名前)	:	REASONS(理由)
(1)	_____	:	_____
(2)	_____	:	_____
(3)	_____	:	_____
(4)	_____	:	_____
(5)	_____	:	_____

3. 本文を読んで“winner”（勝者）と“loser”（敗者）について考えましよう。

- (1) 作者がCharlie Brownを“loser”（敗者）と言っているのは何故ですか。本文中より抜き出さなさい。

--

- (2) 作者が言う“real winner”とは何ですか？本文中より抜き出さなさい。

--

4. real winner について、あなたの意見や感想を書いてください。

--

<ワークシート>

Part 4 Work Sheet

- 1 . 筆者が考える人生における成功とは何ですか。本文中より抜き出さない。

- 2 あなたは筆者のこのような考えをどのように思いますか。また、この他に何が大事だと思いますか。

自由に書きなさい。

イ スピーチ&プレゼンテーション(学校設定科目)

学校設定科目の目標・内容等は学校ごとに定めるものであり学校に共通の科目ではないが、キャリア教育の視点で他の学校においても他の科目の学習活動として実施可能な学習内容・方法について研究し、授業実践を行った。

授業のポイント

- ・ 職業の名称に関する学習、職業選択の質問、友人紹介のための質問のあと、将来の職業などを含めた友人の紹介を行う。
- ・ 「他者理解能力」、「コミュニケーション能力」、「選択・決定能力」の育成を図る。

(ア) 科目の目標

- ・ 自分の意見や考えを持ち、それらを効果的に表現したり、主張したりする力を育てる。
- ・ 発表の機会を多く設け、互いに評価し合うことで表現の技能を高める。

(イ) 単元名 Introduction Speech

(ウ) 単元の目標 自分が知っている人を効果的に相手に紹介する方法を学ぶ。

(エ) 単元の総学習時間数 2時間

(オ) 指導と評価の計画

評価の観点 a: 関心・意欲・態度 b: 表現の能力 c: 理解の能力 d: 知識・理解

時間	学習項目・内容	評価規準	評価の観点				評価方法	キャリア教育の視点での生徒が身に付ける能力
			a	b	c	d		
1 2	<p>職業に関する内容を含む友人紹介の準備として関係する語彙(い)・表現等を身に付ける。</p> <p>職業に対して自分なりの意見を持つ。</p>						<p>【他者理解能力】</p> <p>友人が希望する職業とその理由を知ることで様々な価値観、生き方があることを理解する。</p>	
	<p>紹介する内容を友人に尋ねる。</p> <p>紹介用のスピーチの原稿を作成する。</p> <p>紹介する人についての特徴をとらえ、ジェスチャー等を用いるなど効果的に表現する。</p>	<p>紹介する内容を把握して相手を紹介することができる。</p>				<p>プレゼンテーション</p>	<p>【選択・決定能力】</p> <p>英文の求人広告を利用して自分が希望する職業とその理由・判断基準を考えることで選択決定に関する能力を育成する。</p> <p>【他者理解能力】</p> <p>【コミュニケーション能力】</p> <p>友人への質問と、その回答をもとにした友人の紹介を行うことで他者理解能力、コミュニケーション能力を育成する。</p>	

(カ) 本時の実践事例 (2 時間・90 分間)

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育の視点 での生徒が身に付け る能力	評価の観点 (評価方法)
導入 20 分	<p>教員の “What do you want to do in the future?” という質問について、生徒が一人ずつ簡単に答える。</p>	<p>その職業を選ぶ理由・条件等を確認しながら質問をしていく。</p>	<p>【他者理解能力】 友人が希望する職業とその理由を知ることによって様々な価値観、生き方があることを理解する。</p>	
	<p>教員がどのような職業の名称を知っているか尋ね、生徒が英語で答えていく。 「ワークシート1」の左側の内容を確認したあと右側の練習を行い、職業に関する語彙を身に付ける。</p>	<p>生徒一人ひとりに聞きながら、それらを黒板に書き出す。 最後に確認の意味で一つ一つの単語の発音練習等をする。</p>		
展開 50 分	<p>教員が作成した英文の複数の求人広告の資料を読み、自分が移民としてアメリカに渡ったときに就く職業とその判断基準を考え、選んだ職業とその理由を話す。</p>	<p>賃金や労働時間や経験等の労働条件を判断基準として適切な選択が行われているか、その理由付けができているかを確認する。 「ワークシート2」を参照して労働条件の表現などを確認する。</p>	<p>【選択・決定能力】 英文の求人広告を利用して自分が希望する職業とその理由・判断基準を考えることで選択決定に関する能力を育成する。</p>	
	<p>テキストを使って、友人に尋ねる項目(名前、好きな科目、週末にしていること、長い休みにしたいこと、将来就きたい職業など)やその表現方法を確認する。 実際に友人に尋ね、友人を紹介するスピーチの原稿を作成する。</p>	<p>先に触れた語句や表現がきちんと使われているか確認する。 学習した表現を取り入れて原稿を作成する。 教員とPFTで、紹介例を示す。</p>	<p>【他者理解能力】 【コミュニケーション能力】 友人への質問と、その回答をもとにした友人の紹介を行うことで他者理解能力、コミュニケーション能力を育成する。</p>	
20 分	<p>一人3分程度で友人を紹介する。</p>	<p>非言語コミュニケーションスキルが効果的に使われているかにも注意する。</p>		<p>「表現の能力」 (発表)</p>

生徒は、ここに書かれている「ワークシート」をテキストとして購入し、使用している。

(キ) 学習評価

評価規準 「表現の能力」	紹介する内容を把握して相手を紹介することができる。
* あらかじめ紹介する内容の項目を複数設定（マイドリーム・職業、趣味、地域など5項目程度）し、知らせておく。	
a と判断した具体的な状況	紹介する内容を項目に則して適切に把握し、身振りや態度などを工夫して相手を紹介することができる。
b と判断した具体的な状況	紹介する内容を把握して相手を紹介することができる。
c と判断した具体的な状況	紹介する内容の把握が不十分である。
c の手立て	紹介する内容と表現方法について再度確認させる。

(ク) キャリア教育の視点に立った授業実践の成果と課題

[成果]

- ・友人への質問、回答、紹介や、求人広告についての考察を通して、「他者理解能力」、「コミュニケーション能力」や、「選択・決定能力」を育成することができた。

[課題]

- ・授業担当者による授業の進め方や、評価の場面に関する十分な確認が必要である。
- ・教材の取り扱い方に対する十分な配慮・検討が必要である。

< 成果 >

授業では、職業に関する語彙を確認することから始め、最終的にはどのような職業に就きたいかをその理由まで言えるようになるなど、職業に関する興味や関心を喚起し、選択・決定能力を育成することができた。また、二人組の生徒が互いに質問しながらスピーチの原稿を作成し、中には非常に完成度の高いスピーチを行うなど、全体として生徒の他者理解能力やコミュニケーション能力を育成することができた。

< 課題 >

TTとのやり取りが多いため、担当者による十分な事前の打合せが必要である。また、多くの生徒の活動を評価するので評価の場面をあらかじめ明確にしなければならない。学習指導要領にあるオーラルコミュニケーションなどの科目の場合、コミュニケーション能力の育成に限れば十分に対応できるが、職業や労働というテーマを含む学習活動を行うには、教材に対するキャリア教育の視点に立った配慮が必要になる。

今回の授業は基本的に英語だけで行った。生徒は内容を完全には理解できないという環境に置かれるが、その中でも想像力を働かせながら内容を理解しようという意欲や態度を生徒に養うよう心がけて授業を行った。教師が英語だけで授業を行うには、教師が簡単な表現を用いて自分が言いたいことを伝える技能を身に付けることが必要だが、実現は十分に可能であると考えられる。

今回の研究を行う中で、英語以外でもそれぞれの教科の学習がキャリア教育に強く結びついていると感じた。キャリア教育のための能力は、何か特別な能力を指すものではなく、我々が普段行っている学習活動の一つ一つが実は何らかの形でキャリア教育につながっていると実感することができた。

<資料>

授業で使ったワークシート



69

Work: duties, pay and conditions

A What do you do?

People may ask you about your job. They can ask and you can answer in different ways:

- What do you do?
I'm a banker/an engineer/a builder. (I'm + 'a(n)' + job)
- What's your job?
I work in a bank/marketing. (work in + place or type of work)
- What do you do for a living?
I work for UnionBank/Flat. (work for + name of company)
(= I'm employed by Union Bank/Flat, etc.)
I'm self-employed. (= I work for myself.)

NOTE

You can also say: I haven't got a job. (NOT I haven't got a-work.)

B

What does that involve?

When people ask you to explain your job, they want to know your responsibilities (= your duties/what you have to do), or something about your daily routine (= what you do every day). They can ask like this: What does that involve? (= What do you do in your job?)

General duties/responsibilities

- I'm in charge of/responsible for security in the factory. (= the place where a product is made)
- I deal with/handle customer complaints. (= take all necessary action when customers are unhappy)
- I run the coffee bar in the museum. (= I am in control of it/I manage it)

Daily duties/routines

- I have to go to/attend (meet) a lot of meetings.
- I visit/see/meet clients. (= people I do business with, who pay for my service)
- I advise clients. (= give them help and my opinion)
- My job involves travelling. [Notice the -ing form after involve.]

C

Working hours

For many people in Britain, working hours are 8.30-5.30pm, so people often talk about a nine-to-five job (= regular working hours). Some people do flexible times, e.g. they can start work earlier or finish later; and some do shiftwork (= work at different times, e.g. during the day one week, at night the next). Some people work/do overtime. (= work extra hours for more money)

D

Pay and conditions

Most workers are paid (= receive money) every month. This is called a salary. We can also use the verbs earn/make, e.g. I earn/make \$60,000 a year. (= My salary is \$60,000 a year.) Some people are paid for the hours they work. The lowest amount for one hour's work is called the minimum wage. This amount is decided by the government. With most jobs you get 4-6 weeks' paid holiday; you also get sick pay. (= pay when you are ill)

The total amount of money you receive in a year is called your income. This could be your salary from one job, or the salary from two different jobs. You have to pay part of your income to the government; this is called income tax.

140 English Vocabulary in Use (pre-intermediate & intermediate)

Exercises

69.1 Match words on the left and right to form compound nouns or phrases.

- | | |
|------------|---------|
| 1 nine-to- | a time |
| 2 working | b tax |
| 3 flexi- | c wage |
| 4 income | d five |
| 5 minimum | e hours |
-
- 69.2 Match the verbs on the left with the nouns on the right. Use each verb once only.
- | | |
|-------------|------------------|
| 1 earn | a overtime |
| 2 work | b meetings |
| 3 deal with | c a shop |
| 4 attend | d complaints |
| 5 run | e £2,000 a month |

69.3 Rewrite these sentences starting with the words given. The meaning must stay the same.

- Example I'm a banker.
I work in banking.
- What do you do?
What's.....
 - I'm employed by the government.
I work.....
 - I earn \$50,000.
My.....
 - I get £20,000 from my teaching job and another £10,000 from writing.
My total.....
 - In my job I look after all the computers in the building.
My job involves.....
 - I'm responsible for one of the departments.
I'm in.....

69.4 This is part of a conversation with a teacher about her job. Write the missing questions.

- A: ? B: I start at nine and finish at four.
A: ? B: Yes, a bit. On certain courses I work until 5.30.
A: ? B: 12 weeks. That's one of the good things.
A: ? B: Yes, we do, but we have to have a doctor's note.

69.5 What about working conditions in your country?

- What are normal working hours for most office jobs in your country?
- How much income tax do most people pay, e.g. 10% or 20% of what they earn?
- Do workers normally get paid holidays? If so, how many days do they usually get?
- Is there a minimum wage decided by the government? If so, how much is it?
- What jobs often involve shiftwork in your country? (Give at least two examples.)

69.6 Think about your own job or the job of someone you know well. How many of the things on the opposite page are true in your country? How is the work different? Can you explain your/their responsibilities and daily duties in English?

English Vocabulary in Use (pre-intermediate & intermediate) 141

70 Jobs

A

Manual jobs
These are jobs where you work with your hands, and these are all skilled. (= need a lot of training)

- bricklayer (builds walls with bricks)
- carpenter (makes things using wood)
- plumber (installs and repairs pipes, etc.)
- electrician (installs and repairs electrical things)
- mechanic (repairs cars)

B

Professional people

job	definition
architect	designs buildings
lawyer	represents people with legal problems
engineer	plans the building of roads, bridges, machines, etc.
accountant	controls the financial situation of people and companies
university lecturer	teaches in a university
stockbroker (on the stock market)	buys and sells stocks and shares (e.g. on Wall Street)
salesperson/manager	responsible for sales or personnel staff

C

The medical profession
Doctors, nurses and surgeons (= specialist doctors who operate on people) work in hospitals. GPs (= general practitioners - doctors who treat people with general problems), dentists and vets (= animal doctors) work in places we call surgeries. All of these people treat (= give medical help, e.g. advice, medicines) and look after (= care for/take care of) people or animals.

D

The armed forces and the emergency services
My cousin joined/went into the army when he was 18.

- soldier (in the army)
- sailor (in the navy)
- police officer (in the air force)
- policeman/police woman (in the police force)
- firefighter/fireman (in the fire brigade)

Exercises

70.1 Write down one job from the opposite page that would probably be impossible for these people.

- 1 Someone who didn't go to university *doctor*
- 2 Someone with very bad eyesight (= cannot see very well)
- 3 Someone who is always seasick on a boat
- 4 Someone who understands nothing about cars
- 5 Someone who will not work in the evening or at weekends
- 6 Someone who is afraid of dogs
- 7 Someone who is afraid of heights and high places
- 8 Someone who is terrible at numbers and maths
- 9 Someone who doesn't like to see blood (= the red liquid in your body)
- 10 Someone who is a pacifist (= is anti-war)

70.2 Complete these definitions.

- 1 A university lecturer ... *teaches* his or her subjects.
- 2 An architect
- 3 An accountant
- 4 A vet
- 5 A lawyer
- 6 An engineer
- 7 A bricklayer
- 8 A stockbroker
- 9 A mechanic
- 10 A surgeon

70.3 Respond to the statements below as in the example.

Example A: She's a police officer.
B: Really? What's she like? Is she tall, thin, short, fat, etc.?

- 1 A: She's a soldier.
B:
- 2 A: He's a sailor.
B:
- 3 A: He's a fighter pilot.
B:
- 4 A: He's a fireman.
B:

70.4 You have just bought a piece of land and you are planning to build a house on it. Write down at least six people from the opposite page that you may need to help you. What would you need their help for?

Example A: bricklayer to build the walls

70.5 Write a list of friends, relatives and neighbours who have jobs. What does each person do?

Example My uncle is an engineer. His wife is an accountant.

English Vocabulary in Use (pre-intermediate & intermediate) 143

6 授業方法の工夫とキャリア教育

教科でのキャリア教育について、授業内容・項目によるものを中心に本書の3～5で述べてきたが、ここでは、各教科に共通する授業方法や授業の進め方の工夫という視点から見たキャリア教育について考える。学習活動には、生徒が主体的に考える活動と、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る活動がある。以下で取り上げる活動は、生徒が主体的に取り組む学習活動を中心とするものであるが、年間を通しての学習活動では両者のバランスに配慮する必要がある。生徒の主体的な活動を行う時間を確保することにより基礎的・基本的な内容を扱う時間は減少することになるが、生徒の学習の目的の明確化、学習意欲の向上があれば、教員による個に応じた適切な支援により最終的には総合的な学力の向上をもたらすことになる。

(1) 授業形態の工夫等

いずれの学習活動もすべての教科で実施可能であり、その効果が期待できるが、実施の時期や回数、授業内容等は、授業のねらいに合わせて定めていくものである。

ア グループワーク、ペアワーク

与えられた課題、または生徒が自ら見付けた課題について、複数の生徒が話し合い、互いに理解し合いながら意見をまとめ、解決していくことで、コミュニケーション能力、自己表現能力、他者理解能力などが育成できる。活動を活性化するために話し合いの途中で他のグループの活動内容を発表するなどの工夫が必要な場合もある。次のイの内容との関連も強い。

イ 課題学習、調べ学習、発表活動

個人またはグループの学習活動として、課題を与え、または課題付けつけさせ、生徒が主体的に考え、調べ、発表する、またはレポートを作成するといった活動を通して、情報収集・活用能力、計画実行能力、課題解決能力などを育成することができる。次の学年に対して学習成果を蓄積していく工夫（発表会への参加、レポートの保管・展示など）により、他者理解能力などの育成とともに学習活動の質的な向上が期待できる。

ウ 生徒による問題と解答の作成

問題とその解答を作成する学習活動により、自己理解能力、自己表現能力、選択・決定能力などを育成し、当該分野の学習内容に対する理解を深めることができる。身近な題材を扱うことや、問題作成の例示を行うことなどの工夫が有効である。

(2) 新聞記事等を活用した授業

新聞などの時事問題の記事は社会状況との同時性を有しており、公民での活用以外にも、記事の内容と教科での学習活動を関連付けることで、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連を理解するといった職業理解能力などを育成することができる。インターネットニュースなどの活用も同様の効果がある。

< 学習活動例 >

ここでは、平成 17(2005)年 8 月 16 日に宮城県沖で発生した M7.2 の地震に関連する朝日新聞の記事の内容を活用する数学と理科を中心とする学習活動例を取り上げる。

地震の被害は、屋内プールの吊り天井の崩落や、エレベーター停止による閉じ込めなどがあつたが、幸いなことに犠牲者は出なかった。宮城県沖地震は過去 200 年間に 26 ~ 42 年の周期で 6 回発生している。8 月 17 日以降に朝日新聞に掲載された新聞記事 3 点の概要は次の ~ のとおりである。昭和 53(1978)年に発生した M7.4 の宮城県沖地震から 27 年目に起きた今回の地震について、「周期的に発生すると想定されていた地震であり蓄積された太平洋プレートのひずみは解消されたか」ということについての複数の見方が報道された。

8 月 17 日の記事では次の 3 つの説が紹介され、専門家の見方は割れているとしている。

- ア 想定された地震であり、ひずみは解消された。前回の地震の規模 M7.4 に比べ今回の地震の規模が小さかったのは、地震発生の間隔が短かったため蓄積されたひずみが小さかったからである。
- イ 前回の地震に比べ今回の地震の規模が小さかったのは蓄積されたひずみの解消が一部にとどまったためであり、同規模の地震がもう一度発生する可能性がある。
- ウ 今回の地震は想定された地震とはまったく別のものであり、ひずみは解消されていないのでこれまで想定してきた地震が発生する可能性が依然としてある。

8 月 18 日には、「政府の調査委員会が想定した宮城県沖地震とは別であるという結論を出した。」という記事が掲載された。(ウの説)

8 月 22 日の記事では、「東北大学が宮城県沖地震にはいくつかのタイプがあると解析し、宮城県沖地震に関する新たな考え方が出された。」という内容を紹介している。(ア~ウとは異なる説の可能性を示唆)

これらの記事を念頭に、 の記事を紹介した上で次の(1)~(4)の学習活動を行い、さらに、 の記事を紹介して(5)の学習活動を行う。生徒の学習の状況などにより一部の学習活動を取り上げることも可能である。(次ページの(参考)を参照)

- (1) 地震発生の仕組みを学ぶ。(理科)
- (2) マグニチュードとは何か。その定義を学ぶ。(理科、数学)
- (3) 対数を用いて表すマグニチュードと地震のエネルギーの関係を指数を用いて表す。(数学)
- (4) マグニチュードの数値の 1 の違いはどのくらいのエネルギーの違いか、M7.2 と M7.4 はどれくらいのエネルギーの違いかを数式を用いて考える。(数学、理科)
- (5) (1)~(4)を参考に ~ で取り上げている仮説について考察する。(理科)

上の(1)~(5)の活動により、理科における地震の学習や、数学における指数関数・対数関数の学習と社会との関係、職業に関する理解を促すことができる。また、理科の内容として、これらの学習活動の関連事項として、過去の地震の例を参考に地震の規模(マグニチュード)と地震の揺れの大きさの関係を扱うこともできる。

この例示以外にも新聞記事の活用については、教科・科目の特性や学習内容により時事的な記事を連続的に活用することなど様々な手法が考えられ、いずれの場合も教科の学習と社会との関連について学ぶことができる。

(参考)

地震のエネルギーを E (単位はエルグ)、地震の規模を表すマグニチュードを M とすると、 E と M の関係は、 $\log E = 11.8 + 1.5M$ とされていて、この関係を指数を用いて表すと

$$E = 10^{11.8 + \frac{3}{2}M} \quad \text{となる。}$$

よって、「 M が 1 増加」 \Leftrightarrow 「 E が $10^{\frac{3}{2}}$ 倍」

ここで、 $10^{\frac{3}{2}} = 10\sqrt{10} \approx 31.62 \approx 32 = 2^5$ と考えると、マグニチュードが 1 増えればエネルギーは約 32 倍となり、マグニチュードが 0.2 増えるごとにエネルギーは約 2 倍ずつ増えることになる。例えば $M7.0$ の地震のエネルギーは $M6.0$ の地震のエネルギーの約 32 倍であり、 $M7.4$ の地震のエネルギーは $M7.2$ の地震、およそ 2 つ分のエネルギーということになる。

< 関連事項 >

関東地震 (関東大震災)	$M7.9$ (1923 年)
兵庫県南部地震 (阪神淡路大震災)	$M7.2$ (1995 年)
スマトラ島沖地震	$M9.3$ (2004 年)

7 キャリア教育Q & A

Q 1 キャリア教育とは何か？

A 1 「協力者会議報告書」では、「キャリア」を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」とし、「キャリア教育」を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」としています。したがって、「キャリア」は生涯にわたって、変化・推移・発達していくものであり、「キャリア教育」は、「生徒のキャリアの発達を支援し、生徒が自己の在り方生き方について考え、これを実現するための意欲・態度や能力を育てる教育」と言うことができます。

Q 2 なぜキャリア教育なのか？これまでの進路指導で十分ではないか？

A 2 生徒に自己の生き方を考えさせ、進路を選択・決定させるという、これまでも行ってきた進路指導は教育活動として重要であり、「協力者会議報告書」でも「進路指導の取組は、キャリア教育の中核をなす」としています。ただ、生徒の学校から社会への移行という視点からは、生徒の生涯にわたる在り方生き方について考えること、その意欲・態度や能力を育てるという、進路指導よりも広い領域をもつキャリア教育が求められています。

Q 3 キャリア教育の実施は、生徒や保護者が求める教育活動ではなく、県民のニーズに合っていないのではないか？

A 3 生徒が自己の在り方生き方を考え、実現すること、それらに向けて意欲を持って学校生活を送ることは、生徒や保護者からも求められていると考えます。ただし、教育活動のねらいや趣旨、内容などについて、学校が他の教育活動とともに十分な説明を行うことが重要であり、これらを周知することでキャリア教育の教育効果も大きなものとなります。

Q 4 進学者が多い学校でキャリア教育が必要なのか？

A 4 どのような学校においても生徒が自己の在り方生き方を考えることは必要です。適切なキャリア教育は生徒の学習意欲の向上、学力の向上につながるものですので、すべての学校で生徒の状況に合わせたキャリア教育が必要です。

Q 5 教科の教育活動でキャリア教育を行う必要があるのか？

A 5 「協力者会議報告書」では「キャリア教育は、学校のすべての教育活動を通して推進されなければならない」としています。生徒が身に付けるべき力・諸能力を、総合的な学習の時間や特別活動だけでなく、教科の学習活動も含めて様々な場面で身に付けるとともに、教科での学習活動が社会とどのようなつながりがあるか、ということの理解を深めることも必要です。

Q 6 教科でキャリア教育を行うと教科書を用いた学習活動を行う時間的な余裕がなくなってしまうが、どのように考えればよいか？

A 6 「ハンドブック」では、「キャリア教育は、教科などと同列に新たな教育活動の領域として位置付けられたものではなく、これまでの学校教育で取り組んできた学習や活動を、キャリア教育の観点でとらえ直し、関係する教科等領域でのねらいとキャリア教育でのねらいと対照・複合させて実践するものである」としています。学習指導要領の教科の内容とキャリア教育のねらいを照らし合わせながら、キャリア教育の視点を意識して教科の学習活動を行うこととなります。また、「自ら学び自ら考える力の育成を図る」ための授業改善がキャリア教育に係る様々な能力の育成につながります。

Q 7 今学校では新たにキャリア教育に関する教材を開発する余裕はないが、どうすればよいか？

A 7 現在使用している教材をキャリア教育の視点で見直し工夫改善していくことが教材の開発につながります。教員一人ひとりの取組だけでなく、学校としての組織的な取組をお願いします。

Q 8 普通教科・科目の内容はキャリア教育と結びつかないものもあるが、すべての教科でキャリア教育を行わなければならないのか？

A 8 キャリア教育で育成する能力は様々ですので、すべての教科にキャリア教育に関する学習活動が含まれています。一方、すべての時間でキャリア教育を行わなければならないということではないので、学習のねらいを定め、教科における基礎的・基本的な内容の充実などとのバランスに配慮し、適切な場面でキャリア教育に係る学習活動を行うこととなります。

Q 9 中学校までのキャリア教育と高等学校とのキャリア教育の位置付けをどのように整理できるか？

A 9 中学校の学習活動を踏まえて高等学校の学習活動が展開するので、中学校の学習活動のねらい、内容、身に付いた力などの全体像を把握した上で、高校学校におけるキャリア教育の学習計画を作成することとなります。同じような学習活動でも発達段階や学習の状況により、ねらいや身に付ける力は変わることにも留意してください。

Q 10 専門学科の高校における教科でのキャリア教育はどのように考えればよいか？

A 10 専門学科の高校においても必要とされるキャリア教育の考え方に違いはありませんが、専門教育に関する各教科のねらいや位置付けを、改めて明確にする必要があります。これまでも行ってきたキャリア教育に関する学習活動を確認し、学習計画を作成することとなります。

引用文献

総合教育センター2005『キャリア教育推進ハンドブック』

文部科学省 2004「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」

参考文献

神奈川県教育委員会 2005「かながわキャリア教育実践推進プラン」

国立教育政策研究所生徒指導研究センター2002「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」

文部科学省 2006「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議報告書～普通科におけるキャリア教育の推進～」

リクルート 2006『キャリアガイダンス 2006 June No.14』

『高等学校における「教科でのキャリア教育」推進のためのガイドブック』
の作成関係者

< 助言者 >

所 属	職 名	氏 名
筑波大学大学院	助 教 授	藤 田 晃 之

< 調査研究協力員 >

所 属	職 名	氏 名	教科
大師高等学校	総括教諭	山 田 秀 二	国語
相原高等学校	教 諭	小 林 圭 造	国語
深沢高等学校	教 諭	芹 澤 洋	地理歴史、公民
逗子高等学校	教 諭	浅 井 祐 一	地理歴史、公民
横須賀大津高等学校	総括教諭	平 田 治 夫	数学
足柄高等学校	総括教諭	石 塚 重 子	数学
川崎高等学校	教 諭	富 永 淳	理科
横須賀高等学校	教 諭	金 子 和 明	理科
西湘高等学校	教 諭	武 藤 清 司	外国語（英語）
神奈川総合産業高等学校	教 諭	菅 原 喜 一	外国語（英語）

< 神奈川県立総合教育センター >

所 属	職 名	氏 名	教科等
カリキュラム支援課	研修指導主事	大久保 敦	総括、数学
カリキュラム支援課	研修指導主事	相 原 実	総括、数学
企画調整課	主 幹	阿 部 直 彦	地理歴史、公民
専門研修課	研修指導主事	高 橋 勝	国語
専門研修課	研修指導主事	樋 口 一 孝	理科
専門研修課	教育指導専門員	勝 田 厚	地理歴史、公民
専門研修課	教育指導専門員	並 河 絹 江	理科
カリキュラム支援課	研修指導主事	阿 部 一 也	外国語（英語）
カリキュラム支援課	教育指導専門員	吉 村 健 二	数学
カリキュラム支援課	教育指導専門員	柳 正 巳	外国語（英語）
カリキュラム支援課	教育指導専門員	山 崎 裕 二	国語
カリキュラム支援課	教育指導専門員	長 倉 英 之	国語

所属・職名は、本研究参加時のものです。

高等学校における「教科でのキャリア教育」推進の
ためのガイドブック

発行 平成 19 年 3 月

発行者 田邊 克彦

発行所 神奈川県立総合教育センター

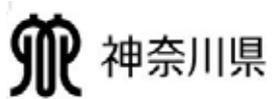
〒251-0871 藤沢市善行 7 - 1 - 1

電話 (0466)81-1659 (カリキュラム支援課 直通)

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>



古紙配合率100%再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター

カリキュラムセンター（善行庁舎）

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466)81-0188

FAX (0466)84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

教育相談センター（亀井野庁舎）

〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466)81-8521

FAX (0466)83-4500